

# 市川市の公共施設

## 市政戦略会議説明資料

平成28年1月26日

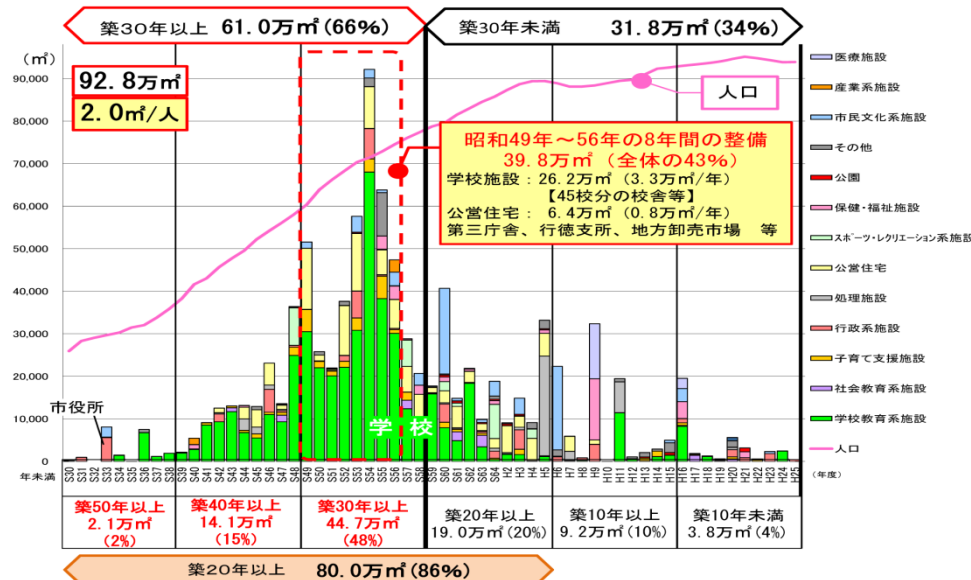


いつも新しい流れがある 市川

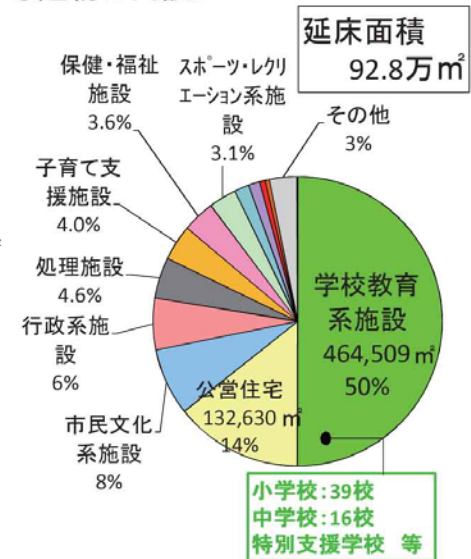
# 公共施設の現状（施設の老朽化）

施設の半数以上が築30年以上を経過しています（施設の老朽化）

＜築年別整備状況＞

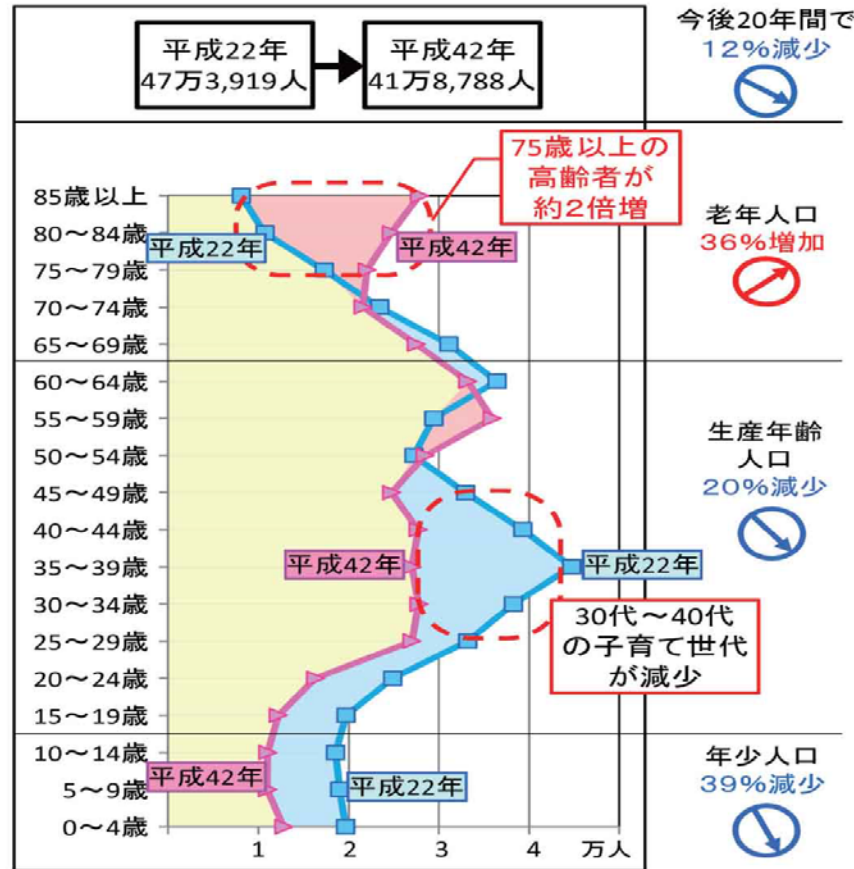


＜保有する建物の内訳＞



- ✓ 市の保有する公共施設 92.8 万㎡のうち、学校が 50%、その次に公営住宅が 14% となっています。
- ✓ 築 30 年経過した施設が 66% で、主に学校、公営住宅等となっています。
- ✓ 昭和 49～56 年に全体の 43% にあたる 39.8 万㎡が建築されており、建築時期が集中しているため、今後大規模改修や建替えの時期も一斉にやってくるのが予測されます。

# 少子高齢化の進展



※ 年少人口：0～14歳  
生産年齢人口：15～64歳  
老年人口：65歳以上

・平成22年から平成42年までの今後20年間で、老年人口は36%増加する予測です。

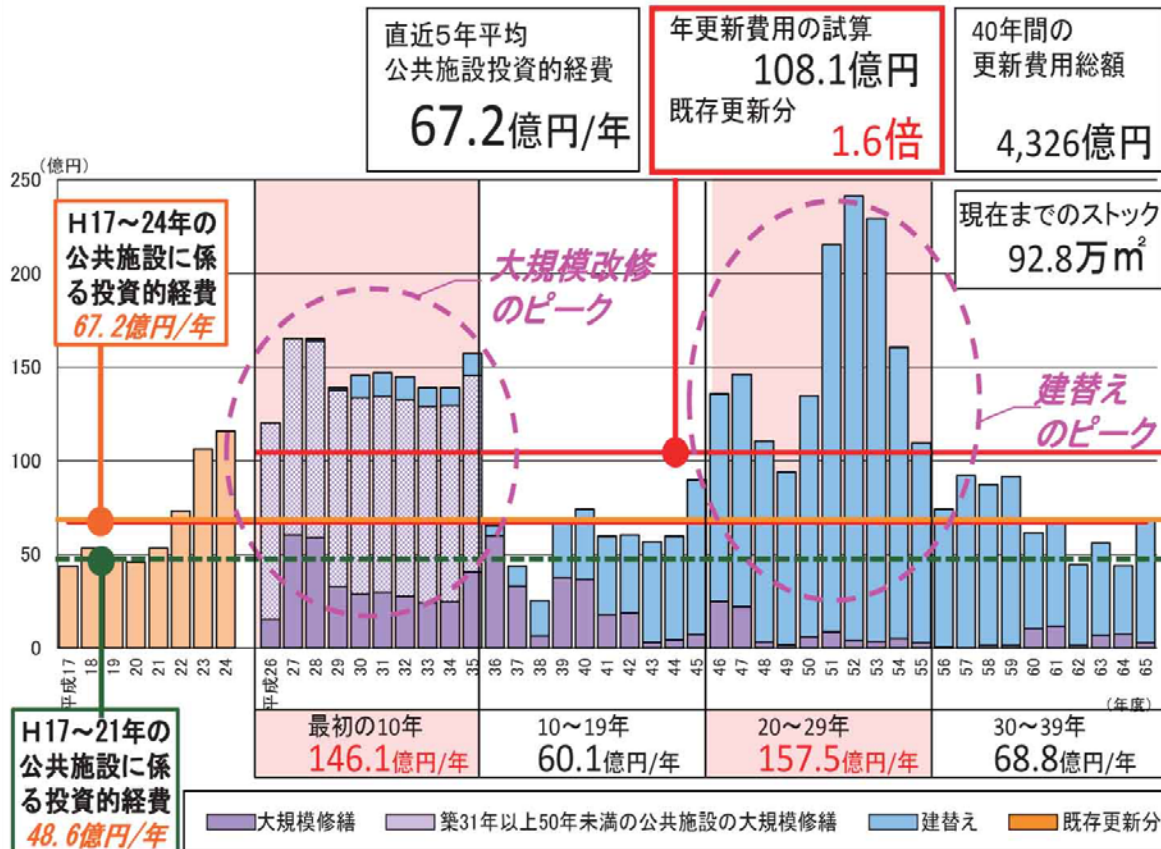
・一方、生産年齢人口は20%、年少人口は39%減少する予測です。



- ✓ 生産年齢人口の減少は、税収にマイナスの影響を与えます。
- ✓ 市川市においても社会保障経費の増加が見込まれています。

# 将来更新費用の予測（建築物）

今ある施設を同規模で改修・建替えしていった場合

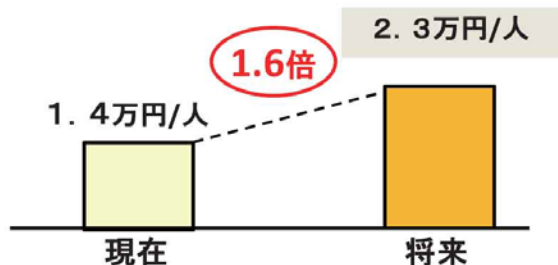


- 平成 17～24 年の公共施設に係る投資的経費の平均額は 67.2 億円でした。
- 今後 40 年間に必要な投資的経費は 4,326 億円で、年平均 108 億円、従来の約 1.6 倍の予算が必要と試算されます。

# 今ある全ての施設を同じ規模で維持・更新（建替え）していくことは極めて困難です。

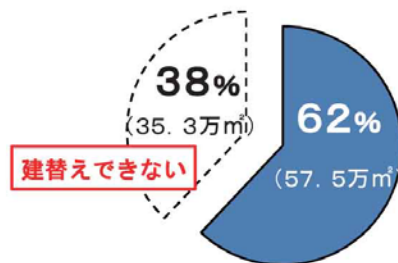
## 現状の保有量を全て維持した場合

今後、建物の維持・更新に多額の費用がかかるため、市民1人当たりの負担が年間約0.9万円増加します。



## 現状の投資的経費を維持した場合

財源不足のため、全ての施設を維持、更新することができず、単純計算では約38%の施設を減らさなくてはなりません。



## 将来に向けて、公共施設のあり方を見直す必要があります

- ✓ こうした公共施設の課題を解決するため、今ある資源・資産を最大限有効活用して、コスト削減と行政サービスの維持・向上が図れるよう、市民の方とともに検討を進めていきます。

# 市川市の取り組み

## ■市川市公共施設白書（H27.3）

- 人口、財政状況、保有する建築物（**ハコモノ**）の整備状況を把握し、将来更新費用（建替え・改修にかかる費用）を試算。  
※アンケート調査説明資料として添付
- 建物状況や利用状況、維持管理にかかる費用などの情報を整理し、施設の現状を把握。

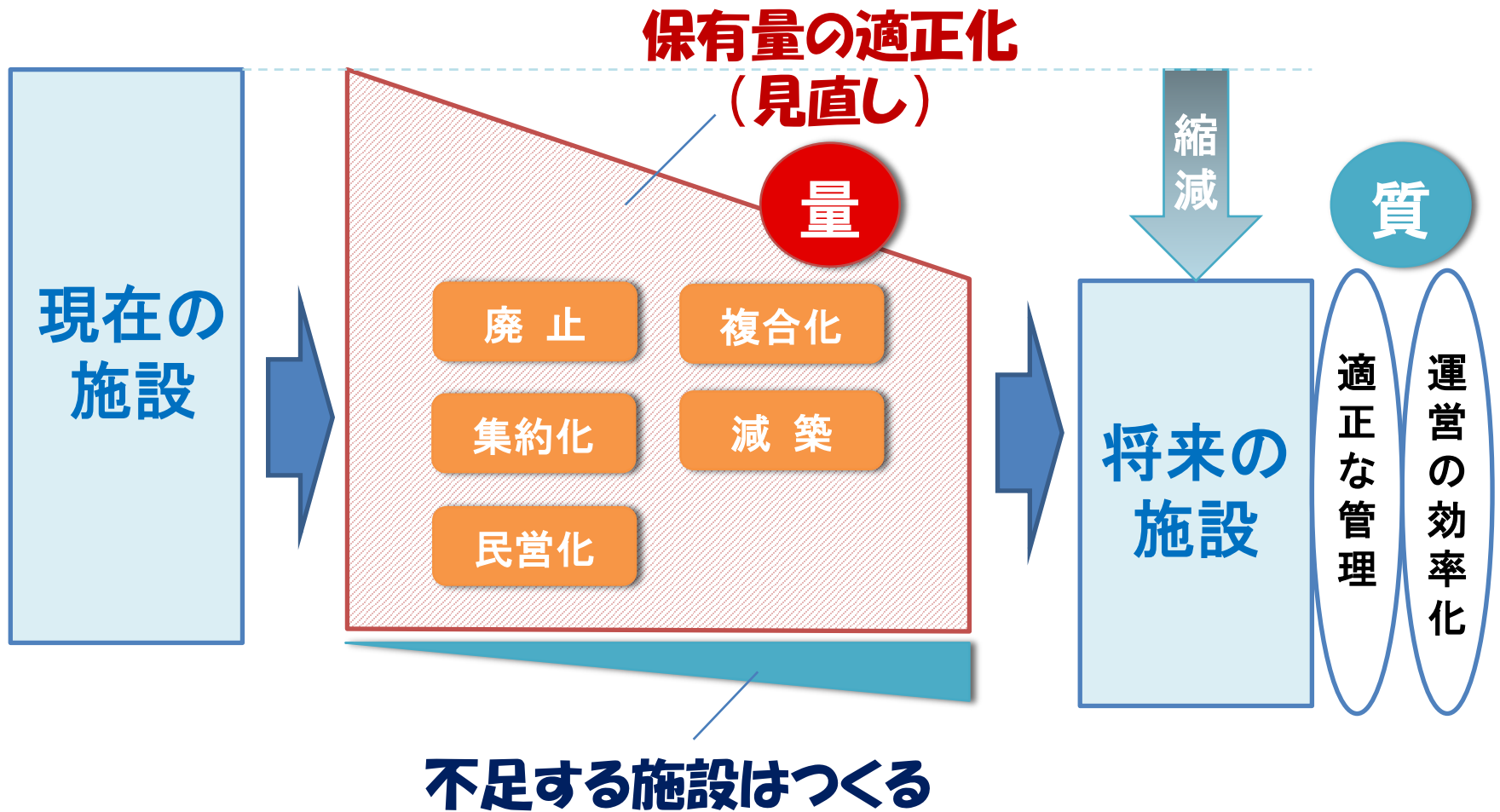


## ■市川市公共施設等総合管理計画（H28.3）

建築物（ハコモノ）だけでなく、道路、橋、下水道などのインフラ系施設を含めた今後の公共施設のあり方について、**市の全体的な方針をまとめる**

⇒個々の施設の方向性（維持・統廃合など）は示さない

# 公共施設見直しのイメージ



# 公共施設の適正化（見直し）を 図っていくためには…



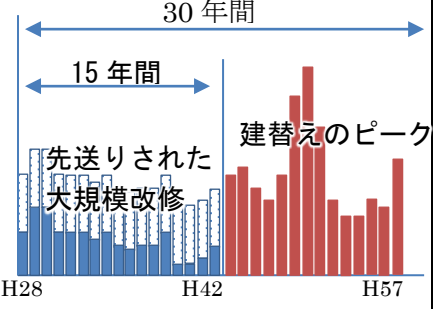
施設ごとに

- ・ 市民のニーズ
- ・ 地域における役割
- ・ 安全性などの状況

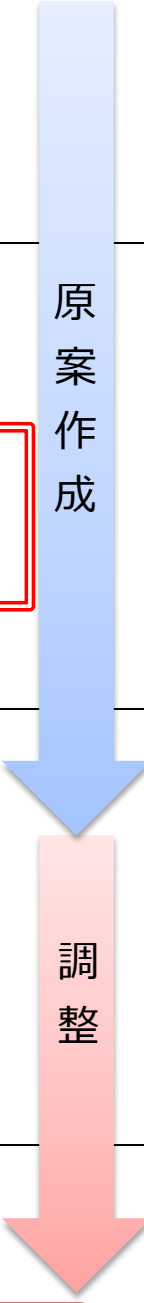
を把握し、**評価**したうえで、今後  
どうあるべきかを考えていく必要が  
あります。



1. 全体構成（目次）

章	項目	内容
＜第1章＞ 計画の目的等	1. 背景と経緯、計画の目的 2. 位置づけ 3. 計画期間 4. 対象施設	白書では、公共施設の大規模改修を行なう期間(H28～H42、15年間)後、建替えのピークが H57(30年後)までに訪れることが試算された。このことから今後30年間を見据えた長期的な取り組みを行う必要がある。 しかしながらこれまで先送りされてきた大規模改修を終えることは喫緊の課題であるため、当該計画の計画期間は、30年間の負担も念頭に入れながら実行力が確保できる「15年間」とする。
		
＜第2章＞ 市川市の状況整理	1. これまでの取り組み 2. 公共施設を取り巻く現状及び将来の見通し	・施設の保有状況、将来人口推計、財政の見通しを踏まえ、今後40年間の施設更新費用を試算
＜第3章＞ 市川市公共施設等総合管理計画の基本方針等	1. 基本方針 2. 取り組み方策 3. 数値目標 4. PPPの推進方針	・人口推計、財政負担の両面から全体の削減目標を設定 ・PPPの推進方針を記載
＜第4章＞ 施設類型別分析比較および改善の方向性	1. 公共建築物 2. インフラ系施設	・用途全体の目標値や改善の方向性、各施設の評価の類型を記載
＜第5章＞ 地域別見直し方針	1. 地域別見直し方針の見方 2. 地域別見直し方針	・各地域の施設配置状況や人口動向、老朽化状況等から見える課題を整理
＜第6章＞ 公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する方針	1. 公共建築物の老朽化状況 2. 公共施設の管理に関する基本的な考え方	・建物の劣化状況および点検診断、維持管理方法を記載
＜第7章＞ 計画の推進	1. 計画の進行管理 2. 推進体制の構築 3. 市民参加の推進	
＜第8章＞ その他	1. 用語集 2. 参考資料	

2. 策定スケジュール

～12月	○市民アンケート（終了） ○市民ワークショップ（終了）	原案作成  調整
1月	○市政戦略会議 ・施設の <b>評価基準</b> について意見を伺う	
2月	○パブリックコメント ○市民説明会 ・計画案の説明及びパブリックコメント実施の周知	
3月	「市川市公共施設等総合管理計画」策定	

～ 総合管理計画作成後、原則、2年間で各用途の個別計画を策定する ～

公共施設評価のルール・狙い

ルール

- ① 評価は多角的な視点で行う。  
※ 経費だけニーズだけで論じない。
- ② 施設の評価指標は、施設や用途によらずに全施設で統一する。
- ③ 施設評価にあたっては、各施設を所管する所管課の目を通して行う。

評価

公共施設の評価は、  
◆ サービスに関する評価  
◆ 建物に関する評価

の 2 つの視点から行う。

狙い

施設で行っているサービスや、建物性能の評価を通じて、施設における将来の方向性について指針を示す。

サービスに関する評価

- ① 施設で行われている業務(サービス)を指標により評価する。
- ② 評価する指標は施設により変更する。
- ③ 評価は各指標 5 段階の数値で行う。

指標例		評価内容
利用実態	利用者数	・施設の利用者数で評価
	利用率	・施設の利用率で評価
	稼働率	・施設の稼働率で評価
1人当たりコスト		・利用者一人当たりのコストで評価
施設配置		・市内にどのように配置しているかを評価

建物に関する評価

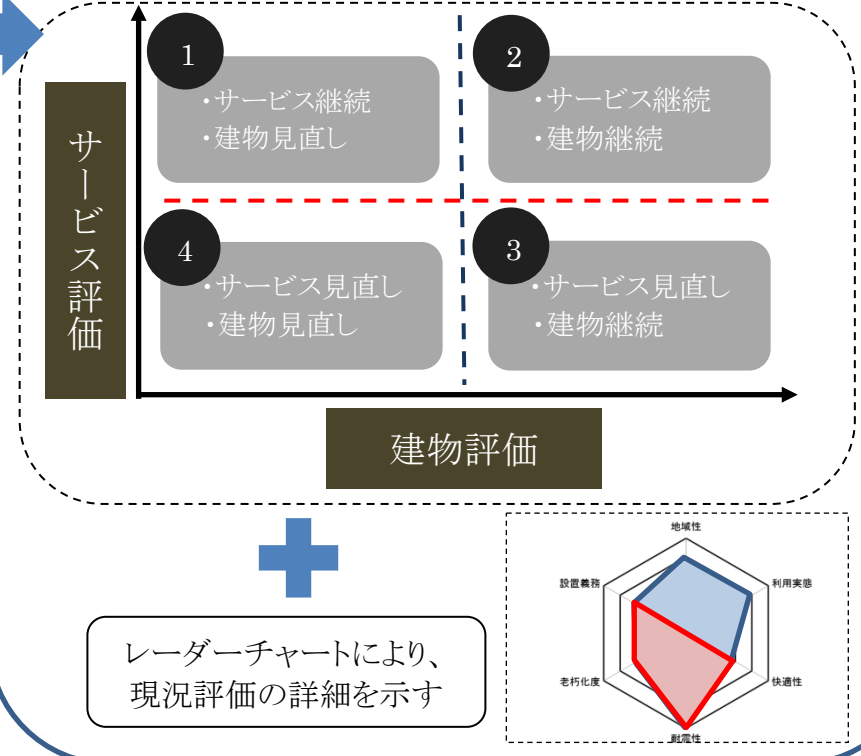
- ① 建物の状態を 3 つの指標から評価する。
- ② 評価は各指標 5 段階の数値で行う。

指標	評価方法
耐震性	・耐震化の状況で評価
老朽化度	・築年数と劣化度で評価
快適性	・施設の利便性やバリアフリー、エアコン設置状況等で評価

公共施設等総合管理計画における評価

- ① 各指標を合わせて、現時点のサービス・建物について **2 軸で評価する。**
- ② 2 軸評価の結果から、施設の大まかな方向性について指針を示す。

図: 2 軸評価



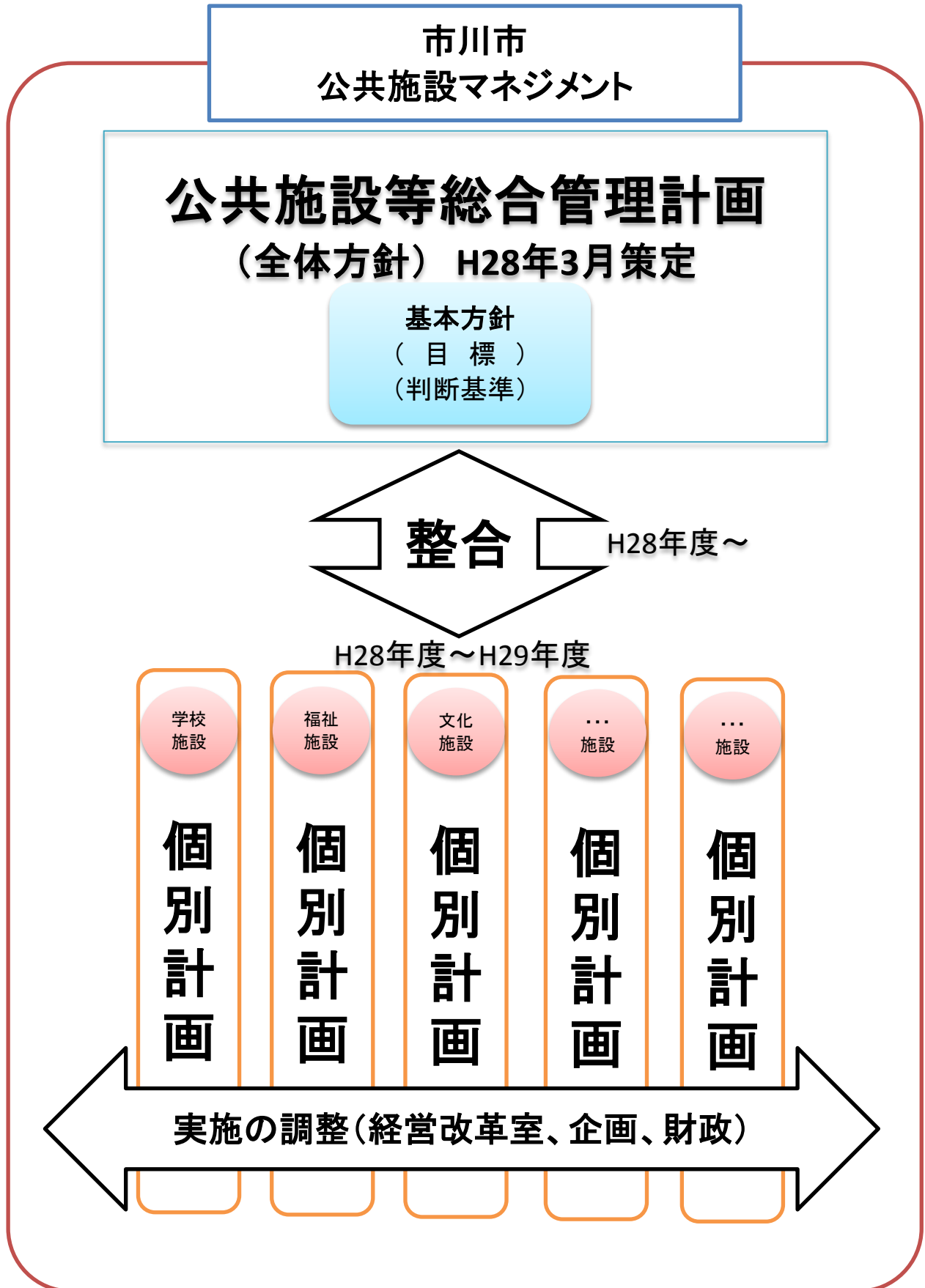
個別計画における評価

各所管

各用途における政策や将来の方向性、独自の指標等を踏まえて、サービス・施設を再評価する。

個別計画で施設ごとに方針(サービス継続・見直し・縮小・廃止等)を決定

# 公共施設等総合管理計画と個別計画の関連性



市川市公共施設に関するアンケート調査  
(単純集計結果報告書)

2015. 10. 29 現在

## 1. アンケート回収率

送付数(人)	回収数(人)	回収率
3,000	1,668	55.6%

## 2. アンケート集計結果

※本文中の図表・グラフは端数処理をしているため、100%と一致しない場合があります。

◇あなたご自身についてお伺いします。

1つ選んで番号に○を付けてください

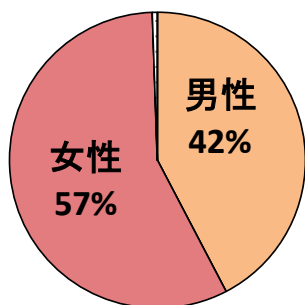
### 問1 性別

市民全体（参考）H27.8.31

選択肢番号	1	2	3	回答者数
選択肢	男性	女性	無回答	
回答数	706	953	9	1,668
回答率	42%	57%	1%	

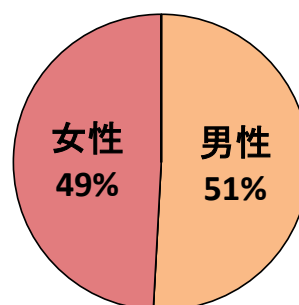
	1	2	合計
	男性	女性	
市全体	242,258	234,025	476,283
割合	51%	49%	

(n=1,668)



■ 男性 ■ 女性 □ 無回答

(n=476,283)



■ 男性 ■ 女性

### 問2 年齢

市民全体（参考）H27.8.31

選択肢番号	1	2	3	4	5
選択肢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代
回答数	26	158	249	303	259
回答率	2%	9%	15%	18%	16%

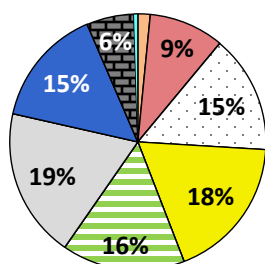
選択肢番号	6	7	8	9	回答者数
選択肢	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	
回答数	315	250	100	8	1,668
回答率	19%	15%	6%	0%	

	1	2	3	4	5
	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代
市全体	8,452	61,144	74,672	82,190	56,525
割合	2%	13%	16%	17%	12%

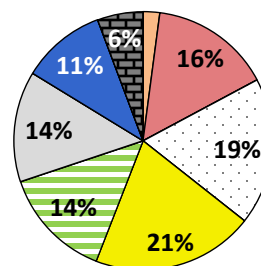
	6	7	8	合計
	60歳代	70歳代	80歳以上	
市全体	56,077	42,752	23,162	391,649
割合	14%	11%	6%	

(n=1,668)



■ 10歳代 ■ 20歳代  
 □ 30歳代 ■ 40歳代  
 ■ 50歳代 □ 60歳代  
 ■ 70歳代 ■ 80歳以上  
 ■ 無回答

(n=391,649)



■ 10歳代 ■ 20歳代  
 □ 30歳代 ■ 40歳代  
 ■ 50歳代 □ 60歳代  
 ■ 70歳代 ■ 80歳以上

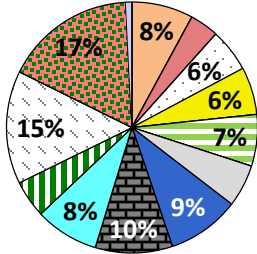
問3 あなたがお住まいの地区（住居表示） 1つ選んで番号に○を付けてください。

市民全体（参考） H27. 8. 31

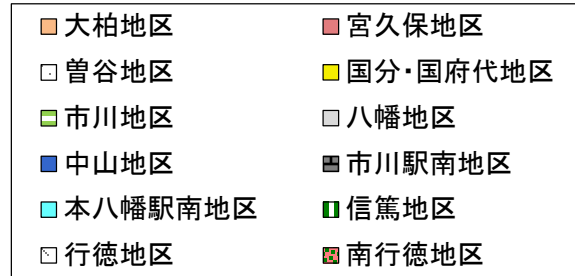
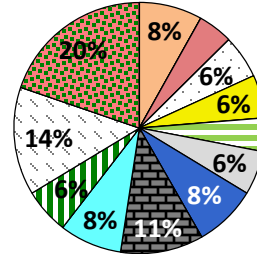
選択肢番号	1	2	3	4	5	6	7
選択肢	大柏地区	宮久保地区	曾谷地区	国分・国府代地区	市川地区	八幡地区	中山地区
回答数	132	62	93	102	111	91	156
回答率	8%	4%	6%	6%	7%	5%	9%
選択肢番号	8	9	10	11	12	13	
選択肢	市川駅南地区	本八幡駅南地区	信篤地区	行徳地区	南行徳地区	無回答	回答者数
回答数	166	137	80	243	282	13	1,668
回答率	10%	8%	5%	15%	17%	1%	

	1	2	3	4	5	6	7
	大柏地区	宮久保地区	曾谷地区	国分・国府代地区	市川地区	八幡地区	中山地区
市全体	38,671	21,294	26,657	26,280	20,579	26,922	38,299
割合	8%	4%	6%	6%	4%	6%	8%
	8	9	10	11	12		
	市川駅南地区	本八幡駅南地区	信篤地区	行徳地区	南行徳地区	合計	
市全体	50,894	38,369	28,001	66,306	94,011	476,283	
割合	11%	8%	6%	14%	20%		

(n=1,668)

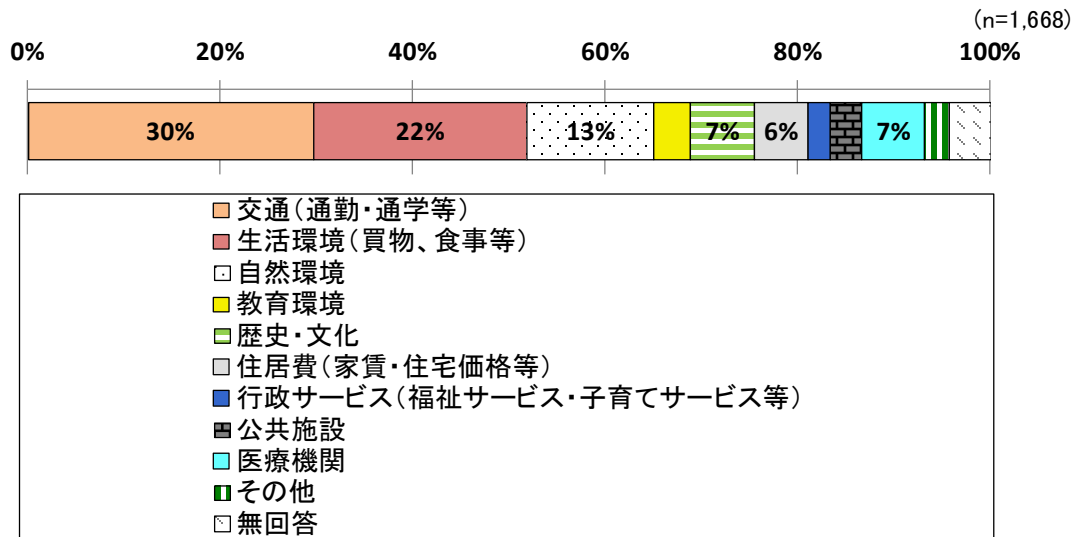


(n=476,283)



問4 あなたが持つ市川市の魅力は次のうちどれですか。 3つ選んで番号に○を付けてください。

選択肢番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
選択肢	交通(通勤・通学等)	生活環境(買物、食事等)	自然環境	教育環境	歴史・文化	住居費(家賃・住宅価格等)	行政サービス(福祉サービス・子育てサービス等)	公共施設	医療機関	その他	無回答	回答者数
回答数	495	370	220	64	111	92	39	55	109	43	69	1,668
回答率	30%	22%	13%	4%	7%	6%	2%	3%	7%	3%	4%	



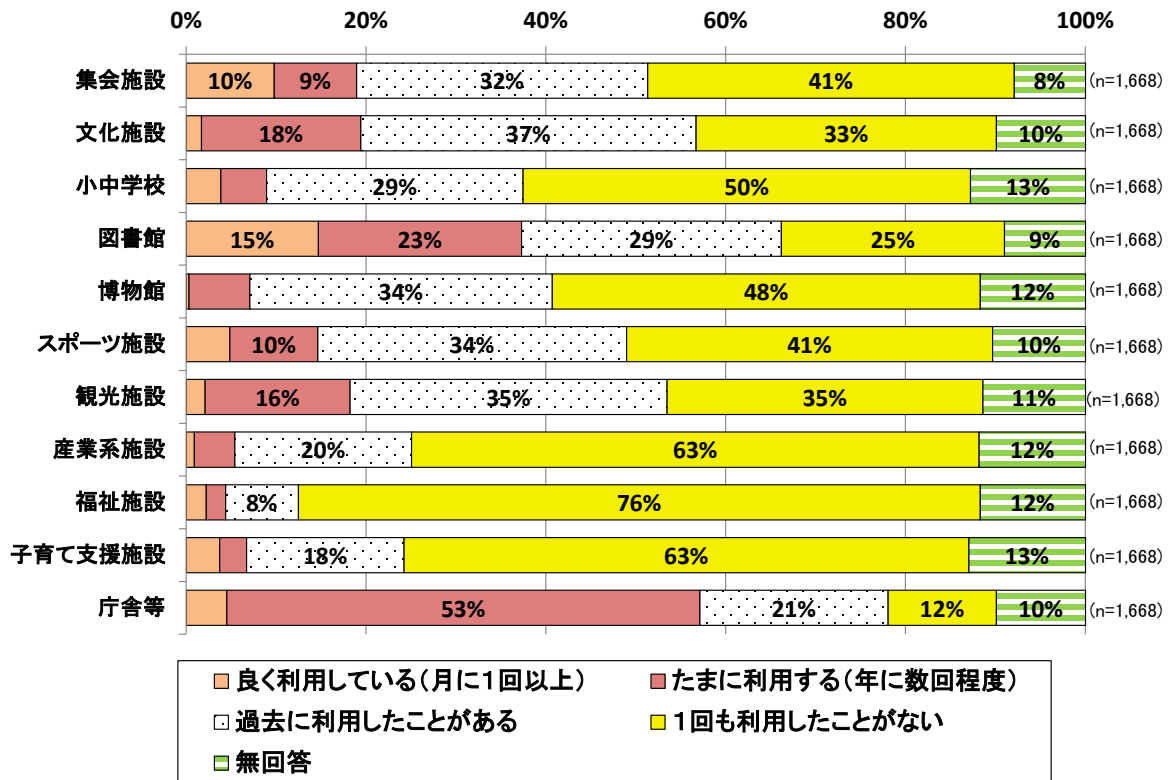
- 交通(通勤・通学)が30%、生活環境(買物、食事等)が22%と他の項目より高い割合となっています。

### <その他の意見>

項目	回答例	回答数
生活環境	・ 実家が近い ・ 都内に比べて、人がおっとりしている(優しい)人が多い 等	21
交通	・ 都内に出る利便性 ・ 職場の近く 等	8
自然環境	・ 天災、災害が少ない ・ 特産物の梨 等	6
教育環境	・ 中央図書館のサービス ・ 子供が自閉症の為、親の会や作業所等、しっかりしている所が多くて魅力的です 等	5
行政サービス	・ 市役所、税務署、ハローワークの行政が有る ・ 行政の先進性	3
居住環境	・ マンションに魅力を感じたものです 等	1
	合計	44

問5 あなたは市川市の公共施設をどのくらい利用していますか。  
施設ごと、ア～エに○を1つ付けてください。

選択肢番号	1	2	3	4	5	回答者数
選択肢 / 施設名	良く利用している (月に1回以上)	たまに利用する (年に数回程度)	過去に利用した ことがある	1回も利用した ことがない	無回答	
集会施設	163	153	540	680	132	1668
文化施設	28	296	622	557	165	1668
小中学校	64	85	476	830	213	1668
図書館	245	377	482	414	150	1668
博物館	5	113	561	794	195	1668
スポーツ施設	81	163	573	679	172	1668
観光施設	35	269	588	586	190	1668
産業系施設	15	75	328	1053	197	1668
福祉施設	37	36	135	1265	195	1668
子育て支援施設	62	50	292	1048	216	1668
庁舎等	75	878	349	201	165	1668
集会施設	10%	9%	32%	41%	8%	
文化施設	2%	18%	37%	33%	10%	
小中学校	4%	5%	29%	50%	13%	
図書館	15%	23%	29%	25%	9%	
博物館	0%	7%	34%	48%	12%	
スポーツ施設	5%	10%	34%	41%	10%	
観光施設	2%	16%	35%	35%	11%	
産業系施設	1%	4%	20%	63%	12%	
福祉施設	2%	2%	8%	76%	12%	
子育て支援施設	4%	3%	18%	63%	13%	
庁舎等	4%	53%	21%	12%	10%	



- 「よく利用している（月に1回以上）」「たまに利用する（年に数回程度）」において庁舎等は57%、図書館は38%となっています。
- 「1回も利用したことがない」においては、福祉施設が76%、産業系施設・子育て支援施設が63%と他の施設より高い割合を占めています。



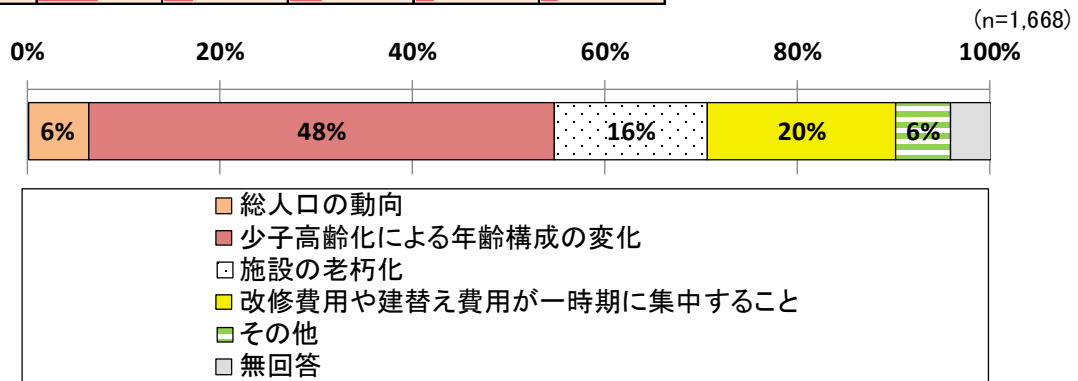
【その他利用施設：記述回答】

文化会館	1
自治会館	2
勤労福祉会館	1
男女共同参画センター	2
教育会館	1
木内ギャラリー	1
八幡市民談話室	1
クリーンスパ	4
コナミスポーツ施設	1
信篤体育館	1
国府台球場	1
河川敷	1
公園	8
広場	1
グランドゴルフ	1
レンタサイクル	1
ドッグラン	1
野鳥の楽園	1
野鳥観察会	2
駐車場	2
駐輪場	5
図書館	4
子ども発達センター	1
須和田の丘特別支援学校	1
介護	1
リハビリテーション病院	1
ぽると	1
ぴあ	1
いきいき教室	1
松香園	1
クリーンセンター	3
リサイクルプラザ	1
プラネタリウム	1
商業施設	1
市民農園	1

問6 市川市の将来について、最も心配を感じた点は何ですか。

1つ選んで番号に○を付けてください。

選択肢番号	1	2	3	4	5	6	
選択肢	総人口の動向	少子高齢化による年齢構成の変化	施設の老朽化	改修費用や建替え費用が一時期に集中すること	その他	無回答	回答者数
回答数	106	808	264	328	94	68	1,668
回答率	6%	48%	16%	20%	6%	4%	



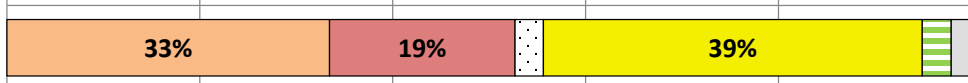
- ・ 「少子高齢化による年齢構成の変化」が48%と高い割合を占めています。

### <その他の意見>

項目	回答例	回答数
道路・交通整備	・ 道路が狭く、交通量が多い所は、歩道がないこと ・ 鉄道バスの不自由さ 等	18
税金の使い道	・ 市の職員の給料が高すぎる(ガードマンも含む) ・ お金をかけない、市の収入を税金以外でとる方法をかんがえてなさすぎる 等	9
治安の悪さ	・ 日本人以外の人が増加していて、治安の点でとても不安を感じている ・ 費用削減による市民の安全低下 等	9
まちづくり	・ 医療機関が充実しておらず、良い病院がない ・ 歴史的街並みが無くなること 等	9
税負担の増加、施設使用料	・ 公共施設使用料の値上げ、会場の予約が取りにくい、文化面の貧弱化につながる ・ 市民税が高くなること 等	8
税収の減少、経済の発展性	・ 税収減や高齢化により都市整備に十分な投資が行われず貧弱な生活環境が改善されないこと ・ 次の世代に費用を負担させる 等	7
自然災害、防災面	・ 地震や大きな自然災害、防災面に対する準備(対応策が見えない) ・ 下水道の整備、集中豪雨時の道路の冠水 等	7
子育て支援	・ 保育園充実し、待機児童を完璧0にする ・ 子供に対する支援 等	4
自然環境	・ 東の鎌倉らしい自然と文化が失われていることに ・ 緑が少ない、空気が良くない、公園が汚い 等	3
	合計	74

問7 将来の総人口の動向に対して、公共施設はどのように整備していく方がよいと思いますか。  
1つ選んで番号に○を付けてください。

選択肢番号	1	2	3	4	5	6	
選択肢	人口の動向にあわせた施設数にしていく方がよい	人口が増えるように、魅力ある施設を整備していく方がよい	人口が減少しても、今の施設を維持していく方がよい	人口に左右されず、市民ニーズに応じて施設を整備していく方がよい	その他	無回答	回答者数
回答数	558	321	49	655	50	35	1,668
回答率	33%	19%	3%	39%	3%	2%	(n=1,668)



- 人口の動向にあわせた施設数にしていく方がよい
- 人口が増えるように、魅力ある施設を整備していく方がよい
- 人口が減少しても、今の施設を維持していく方がよい
- 人口に左右されず、市民ニーズに応じて施設を整備していく方がよい
- その他
- 無回答

- 「人口に左右されず、市民ニーズに応じて施設を整備していく方がよい」が 39%、「人口の動向にあわせた施設数にしていく方がよい」が 33%となっています。

### <その他の意見>

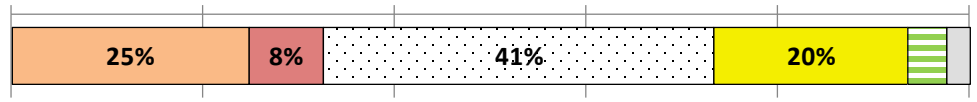
項目	回答例	回答数
複合化、集約等	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口の動向に合わせてニーズのある施設は大きくしたり、無い施設は縮小したり整備していく。 ※縮小する場合も使用している人は必ずいるので、売却して近くに小さいスペースを借りればいいと思う。足の悪い人等は遠出できないと思うから</li> <li>人口の動向に合わせてとともにより効果的な環境を整え総合的な満足度を高めて行くことが重要 等</li> </ul>	12
各世代に応じた施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供のための施設の充実が人口増加に役立つと思う</li> <li>高齢化するならその関係の施設を増やした方がよい 等</li> </ul>	6
魅力ある施設 (イベント等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物は大切に長く使用しつつ、中身(ソフト)は魅力あるものに更新していく事が望ましい</li> <li>この町に住みたいと思う施設や設備を作る 等</li> </ul>	4
ニーズに応じて	<ul style="list-style-type: none"> <li>数ではなく、ニーズ・構成に応じて整備を</li> <li>4+2、市民が満足するような施設が整備されていれば自然と人口が増えると思う 等</li> </ul>	4
計画作りが大切	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状の数字ではなく、将来を担う子供たちを真に見据えて「どうあるべきか」のプランを1度つくった方が良いのではないのでしょうか。今の人たちに聞いたら、「今の生活を楽にする声しか上がらず衰退していく一方です</li> <li>人口の減少は全国どこも同じ。”どういう市”にするかが問われているのでは。 等</li> </ul>	3
民間施設の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設だけに頼らず民間施設の利用も考えるべき!</li> <li>民間及び遊休公的施設の活用 等</li> </ul>	2
税金の使用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>まず税金の使い方を見直す</li> <li>税金を無駄にしないようにして欲しい 等</li> </ul>	2
公共施設は不要	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要ないのでこわす</li> <li>いらぬ 等</li> </ul>	2
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>「集中・選択」が前提だが、延命対応し平準化を検討</li> <li>利用状況に応じて利用の多い施設の整備を優先する方が良い。学校も優先した方がよいと思う。 等</li> </ul>	11
	合計	46

問 8 少子高齢化が進むなかで、公共施設はどのように整備していく方がよいと思いますか。  
1つ選んで番号に○を付けてください。

選択肢番号	1	2	3	4	5	6	
選択肢	高齢者の方が 増えるのに 応じて、バ リアフリーや 健康に関す る機能を付 加していく方 がよい	少子化対策 として、授乳 室やキッズ ルームなど を充実して いく方がよい	子育ての方の ベビーカーで も、高齢者用 の車いすでも、 両方が使いや すいよう施設を 改修していく方 がよい	高齢者と子 供がふれあ える複合施 設をつくって いく方がよい	その他	無回答	回答者数
回答数	415	129	681	336	68	39	1,668
回答率	25%	8%	41%	20%	4%	2%	

(n=1,668)

0%                      20%                      40%                      60%                      80%                      100%



- 高齢者の方が増えるのに応じて、バリアフリーや健康に関する機能を付加していく方がよい
- 少子化対策として、授乳室やキッズルームなどを充実していく方がよい
- 子育ての方のベビーカーでも、高齢者用の車いすでも、両方が使いやすいよう施設を改修していく方がよい
- 高齢者と子供がふれあえる複合施設をつくっていく方がよい
- その他
- 無回答

- 「子育ての方のベビーカーでも、高齢者用の車いすでも、両方が使いやすいよう施設を改修して行く方がよい」が41%と高い割合を占めています。
- 「高齢者の方が増えるのに応じて、バリアフリーや健康に関する機能を付加して行く方がよい」が25%、「高齢者と子供がふれあえる複合施設をつくっていく方がよい」が20%となっています。

<その他の意見>

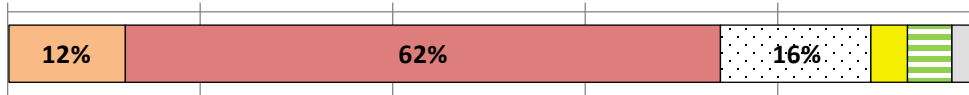
項目	回答例	回答数
保育所・子育て支援 ((2)少子化対策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共働きも増えると思うので、全ての子育て世代が安心して働ける施設が必要</li> <li>・ 空き地が有るので作って、子供達に少しでもいいです。自動車や自転車が多く通りますので子供達が遊ぶ場所がないのです。私たちの孫なんかは公園がありました(今はない・危ない)近所の組長さんにも良くお話ししました 等</li> </ul>	10
多世代施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子連れも、年寄りもその他の人も誰もが使い安い様にすればいい。皆が子供を産むわけではないので、子連れに優先的な税金の使い方は不公平感が有る</li> <li>・ 高齢者、子ども、自立できる一般市民、支援の必要な者それぞれの安心できる活動の場でありながら、ふれあえる複合施設 等</li> </ul>	6
必要最低限の施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問7にも関係するが(言えるが)、これからは収入が減るので、現在の施設全部の”充実”や”改修”、”作成”するのではなく、不要なものは削除しどうしても必要な施設のみ、縮小し充実／改修する事が重要</li> <li>・ 子育て、高齢者などに関係なく、利用者が最低限必要とする改修をする 等</li> </ul>	6
バランス良く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全てが大事だと思います</li> <li>・ 少子高齢化に対応したサービスの提供で、バランス良く 等</li> </ul>	5
公共施設は不要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不要、建設費、維持管理費がかかる為</li> <li>・ 施設は不要 等</li> </ul>	5
他にやるべきことを優先	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子化対策ばかりにとらわれず街づくりの1パーツとして考えるべき</li> <li>・ 公共施設の整備より先にやるべきことが沢山ある 等</li> </ul>	4
今のままで良い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今のままで良い。ムダに税金を使ってほしくない</li> <li>・ ムダな経費使って改善する必要はないと思う 等</li> </ul>	3
バリアフリー化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まず優先すべきは、高齢者が使いやすい事。子育て世代はもろもろ対応できると思うので。バリアフリーよりもっと前のエレベーター設置などが必要だと思います</li> <li>・ バリアフリーや健康に関する機能を付加していくと身体的な障害者、幼児にも対応できると思う 等</li> </ul>	2
働き世代向けの施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子高齢化もありますが、支える年代が魅力ある町にした方が良いのでは？</li> <li>・ 少子高齢化対策ではなく通勤している人が使いやすい工夫絵おして欲しい(時間帯など)独身者だっけ利用したい 等</li> </ul>	2
魅力的な施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市外からもわざわざ足を運んでもらえるような魅力的な施設</li> <li>・ 静かでゆったりした時間を過ごせる施設がほしい 等</li> </ul>	2
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共施設だけでなく、町全体が住みやすいようにしてほしい。特に市川市は弱者にやさしくない</li> <li>・ ベビーカー・車いすなど見かけたら、周りにいる人で協力して運ぶなど施設に頼らない人のつながりなど、優しい思いやりが出るような教育を考えてはどうか 等</li> </ul>	16
	合計	45

問9 公共施設の老朽化対策として、どのような考え方で進めて行くのが良いと思いますか。  
1つ選んで番号に○を付けてください。

選択肢番号	1	2	3	4	5	6	
選択肢	順次、建替えを進めていく	計画的に改修して、長く使っていく	無駄な出費をせずに、壊れた部分をその都度直していく	何も手を加えず、使えなくなったら廃止する	その他	無回答	回答者数
回答数	202	1,034	261	62	78	31	1,668
回答率	12%	62%	16%	4%	5%	2%	

(n=1,668)

0%                      20%                      40%                      60%                      80%                      100%



- 順次、建替えを進めていく
- 計画的に改修して、長く使っていく
- 無駄な出費をせずに、壊れた部分をその都度直していく
- 何も手を加えず、使えなくなったら廃止する
- その他
- 無回答

• 「計画的に改修して、長く使っていく」が62%と高い割合を占めています。

<その他の意見>

項目	回答例	回答数
建替えと廃止 ((1)と(4)の両方)	<ul style="list-style-type: none"> <li>耐震工事はしっかりして、建替えも考える。ただあまり利用されていない(特定の人しか利用しない)施設は取り壊す(廃止)</li> <li>利用者の多い施設から優先し、複合施設として整備。利用数の少ない施設を廃止してもその地域の人が代替えとして利用できる場所を確保してほしい等</li> </ul>	18
改修と廃止 ((2)と(4)の両方)	<ul style="list-style-type: none"> <li>価値の高いものは、計画的に改修し長寿命化を図り価値の低いものは再編見直しをする</li> <li>市民の利用頻度が低い施設は縮小して行くと共に、危険度の高い施設から優先して修繕を行う等</li> </ul>	18
必要な施設のみ ((2)計画的に改修)	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害等の為に重要施設から直していく</li> <li>少子高齢化により、小中学校の統廃合等も見据え、どの施設を活用するかを選択するべきだと思う。その代わりに、残すべき施設にはきちんと改修をして欲しい等</li> </ul>	12
必要な施設のみ ((1)建替え)	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要性に応じて建替えを進める。学校は避難所にもなるので安全で数も必要である</li> <li>公共施設の1Fをテナントにしてテナント収入をとり、たてかえ代を税金にたよらないようにする等</li> </ul>	7
民間施設の利用、 民間に委託	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全性を確保した上で、民間に貸し出すなどして公共施設は別に設ける</li> <li>価値あるうちに民間に委託する。運営を全て民間(株式会社等)にまかせる等</li> </ul>	5
建替えと改修 ((1)と(2)の両方)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)と(2)の中間の考え方、改修と建替えにかかる費用を比べて対費用効果の高い方を採用する</li> <li>長期の利用が見込まれるものは建替えも含めてそれ以外は計画的に改修し長く使っていく等</li> </ul>	4
(1)と(2)と(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>問7の(1)をふまえ必要に応じて建替え、改修、廃止をする</li> <li>利用度に応じて建替えや廃止、改修を選択等</li> </ul>	3
全部	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの市民が利用している施設や観光施設は建替えや計画的な改修を行ったほうがよいと思いますが、その他の施設は壊れた部分をその都度直していくか、廃止を考えたほうがよいと思う</li> <li>必須な施設(災害拠点や避難場所など)は建替えを進め、必要な施設は改修し長く使い、使われる頻度が少なくないのは廃止又はその都度直す等</li> </ul>	3
利用がなければ廃止(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用の少ないものは廃止も考えた方がよい</li> <li>やめる対象を早く決定し、その維持コストを他にあてていく等</li> </ul>	2
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化と一口に言っても専門家の方が見て、まだ使用出来ると判断出来れば改修して使う費用と予算とのかねあいもある筈なので一概には言えない</li> <li>2と3現在使用可能な施設の建替え等を計画していないか。なぜ前倒しを必要とするのか前倒しは早くに資金を使い早くに寿命が来る等</li> </ul>	5
	合計	72

問 10 公共施設に係る費用は一時的に集中することが予測される中で、どのような考え方で進めて行くのが良いと思いますか。 1つ選んで番号に○を付けてください。

選択肢番号	1	2	3	4	5	6	
選択肢	将来にそなえて、貯金をしておく	支払いの時期が集中しないように、工事の前倒しや、先送りをする	工事が集中する時期には、借金をして費用を確保する	公共施設に関するものだけでなく、市のサービス全体を見直し費用を確保する	その他	無回答	回答者数
回答数	210	460	19	857	47	75	1,668
回答率	13%	28%	1%	51%	3%	4%	

(n=1,668)

0%                      20%                      40%                      60%                      80%                      100%



- 将来にそなえて、貯金をしておく
- 支払いの時期が集中しないように、工事の前倒しや、先送りをする
- 工事が集中する時期には、借金をして費用を確保する
- 公共施設に関するものだけでなく、市のサービス全体を見直し費用を確保する
- その他
- 無回答

- 51%の人が「公共施設に関するものだけでなく、市のサービス全体を見直し費用を確保する」と回答しています。



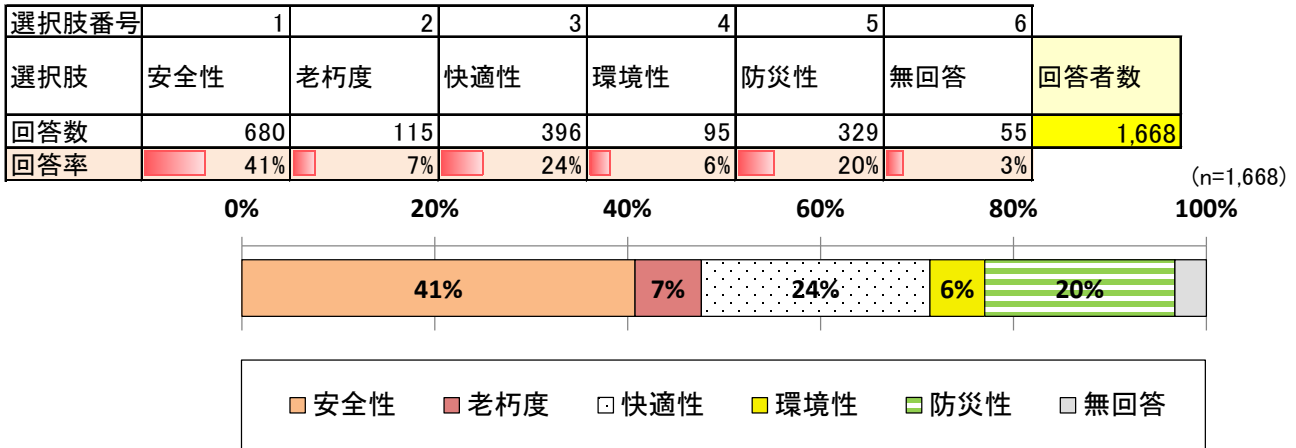
<その他の意見>

項目	回答例	回答数
優先順位を決める ((2)の前倒しと先送り)	<ul style="list-style-type: none"> <li>その公共施設が本当に必要かデータ化して見直しする</li> <li>必要な施設か見極めて維持、工事が重要 等</li> </ul>	14
収入計画 ((1)の貯金等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少は必然的なのでそのことを直視して減らして行くしかない。高度成長期の考え方の転換は必要、借金はダメ。特に税金を使う人達に自分自身のサイフであると自覚してもらいたい</li> <li>絶対に借金を増やさない、残存施設利用の為に交通網・アクセスを整備する等</li> </ul>	6
利用料、職員の給与等からの捻出 ((4)のサービス全体の見直し)	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊島区の新庁舎のように複合ビルの出来る施設はしていく</li> <li>全ての予算の見直しも必要ですが、全国でもトップクラスの市職員の給与を抑える事も必要では。そこからの予算の確保も必要 等</li> </ul>	6
全体の整備計画等 ((4)のサービス全体の見直し)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(4)と似ているが、人口減のシュミレーションが出来ているので、“公共施設”や市のサービス全体について、要・不要の検討を実施し費用計画すべき</li> <li>更新の中・長期計画を立て、計画的に進める 等</li> </ul>	5
(2)の前倒しと(4)のサービス全体の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>(2)と(4)を組み合わせて検討</li> <li>支払いの時期が集中しないように、工事の前倒しをする。施設の安全の為に先送りはしない。また、市のサービス全体を見直し費用を確保する 等</li> </ul>	3
施設の廃止	<ul style="list-style-type: none"> <li>全てを維持する必要はない。不要なものは廃止し土地を売却する</li> <li>不要な施設は廃止にする 等</li> </ul>	3
全部	<ul style="list-style-type: none"> <li>1~4 全てで、バランス良く</li> <li>(1)~(4)の考え方のすべてが必要なことだと思う</li> </ul>	2
民間施設の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>4はサービスの低下と受け取れる。近隣の施設の活用を申し入れる</li> <li>Q7に同じ 等</li> </ul>	2
その都度検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>問の9に合わせてその都度検討する 等</li> </ul>	1
	合計	46

問 11 今ある施設を見直すにあたって、あなたが重視する視点はなんですか。

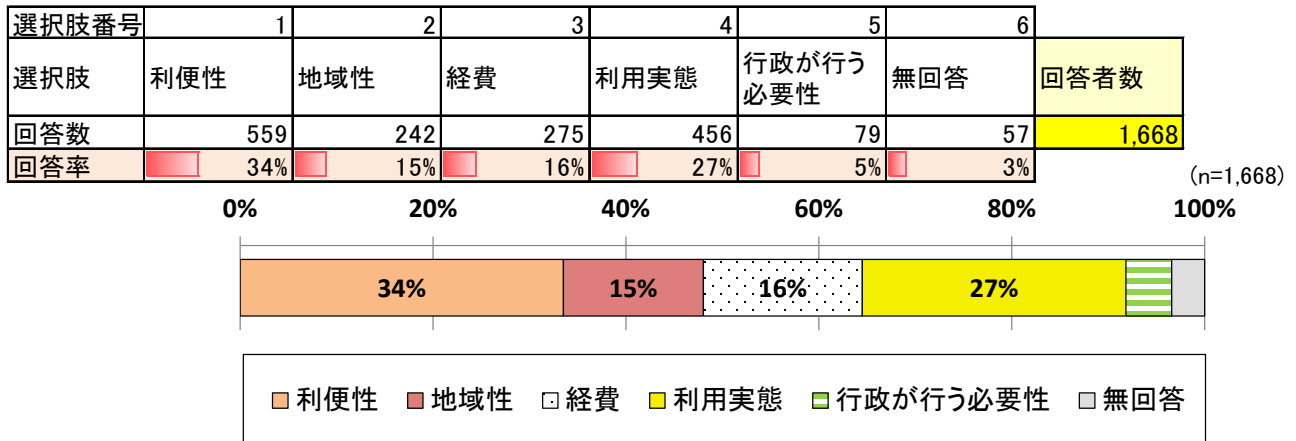
(1)～(5)の中から2つ、(6)～(10)の中から2つ選んで番号に○を付けてください。

【建物の性能】



- 建物の性能は「安全性」が41%、「快適性」が24%を占めています。

【施設の機能（サービス）】



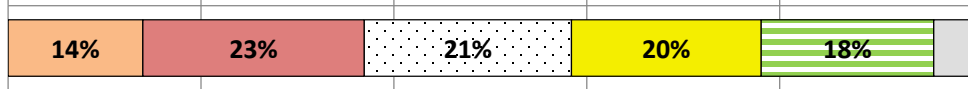
- 施設の機能は「利便性」が34%、「利用実態」が27%を占めています。

<「その他、どのような重視する項目があると思いますか」の回答>

項目	回答例	回答数
(8)経費 関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設を全て見直す前提ではなく、人口減・収入減に合わせて、削除するものは削除、縮小するものは縮小し、その後で「建物の性能」や「機能の充実」を考えるべき</li> <li>何かをぎせいにして公のたてものを作っははいけません。かんべきなものを作りましょう。テナントを入れよう 等</li> </ul>	3
(10)行政が行なう 必要性 関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんど使われていないようなものもあるので、不要か必要かを仕分けて不要なものは廃止し必要な物にはお金をかける。</li> <li>市が主体となって考える事自体がそもそもダメです。民間から智恵をかりて市はゆずれない芯だけを押えて地代をもらうんです 等</li> </ul>	3
(3)快適性 関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民にとって施設(会場)確保は大変困難になっています。特に土日での100人以上収容できる施設はほとんど不可能に近い。細切れの部屋も大事だが、中規模収容できる部屋がほしい 等</li> </ul>	1
(9)利用実態 関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>よく利用され稼働している施設と、利用率が低く、人件費のかかっている施設との差が目立ちます。すでにされているかもしれませんがまずは実態調査を細かくされるのが良いと思います 等</li> </ul>	1
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設について、市民議論が大事</li> <li>少子高齢化と言った課題に対応する様々なテーマ ・文化施設による社会包摂・子育て世代への手厚い対応・健康、スポーツなどのテーマに重点を置いた整備を行いみんなが住みたくなる市川市の実現を目指す 等</li> </ul>	2
	合計	10

問 12 限られた予算の中で、公共施設を整備・運営して行くためには、どのような手法をとるのがよいと思いますか。 番号に○を付けてください。(※複数回答可)

選択肢番号	1	2	3	4	5	6	
選択肢	修繕により、長寿命化を図り長く使う	統合・複合化・減築によって、全体の総量を減らしていく	用途変更することで、市民ニーズに対応していく	優先順位をつけ、条件に満たないものは廃止する	民間の力を借りて、建ててもらったり運営してもらったりする	無回答	回答者数
回答数	233	383	358	328	299	67	1,668
回答率	14%	23%	21%	20%	18%	4%	(n=1,668)



- 修繕により、長寿命化を図り長く使う
- 統合・複合化・減築によって、全体の総量を減らしていく
- 用途変更することで、市民ニーズに対応していく
- 優先順位をつけ、条件に満たないものは廃止する
- 民間の力を借りて、建ててもらったり運営してもらったりする
- 無回答

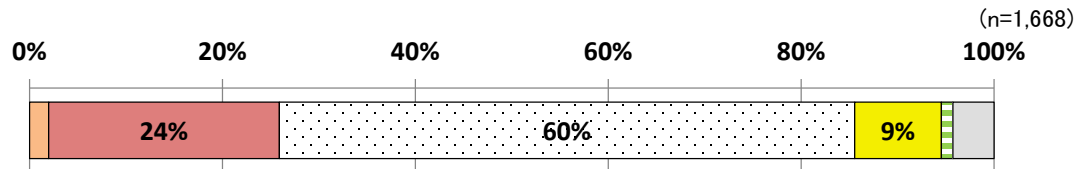
・ 「統合・複合化・減築によって、全体の総量を減らしていく」が23%、「用途を変更することで、市民ニーズに対応していく」が21%、「優先順位をつけ、条件に満たないものは廃止する」が20%となっています。

問 13 市川市では、将来の公共施設のあり方について、市民参加のもとで検討を進めていくために、市民説明会やワークショップなどを予定していますが、関心はありますか。

1つ選んで番号に○を付けてください。

※ワークショップでは、このアンケート結果を活用しながら、まちづくりの演習等を行う予定です。

選択肢番号	1	2	3	4	5	6	
選択肢	ぜひ参加したい	関心があるので、都合がつけば参加したい	関心はあるが、参加は考えていない	まったく関心がない	その他	無回答	回答者数
回答数	33	399	995	150	20	71	1,668
回答率	2%	24%	60%	9%	1%	4%	



- ぜひ参加したい
- 関心があるので、都合がつけば参加したい
- 関心はあるが、参加は考えていない
- まったく関心がない
- その他
- 無回答

・ 「関心はあるが、参加は考えていない」が60%、「関心があるので、都合が付けば参加したい」が24%を占めています。

問 14 その他、市川市の公共施設について、自由な意見をお聴かせください。

項目	回答例	回答数
利用料金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無料をなくし有料にする</li> <li>・ 公共施設の利用料金が若干上がっても公共施設の数減らないでください 等</li> </ul>	41
PR	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報活動が不足している</li> <li>・ どこに何が有るか等、よく判って無い所が多い。私の様に生まれた時から住んでいる訳ではない人ほど知らないだろうし、そういう人は結構いると思う。結果利用に至らない。一覧表みたいなものがあると思ったりもする。立地に恵まれているので、うまくアピールできるかどうかで全然違ってきます 等</li> </ul>	55
公園・街路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道路がまだガタガタにデコボコしている所があるので、ベビーカーや車いすを利用されている方はもちろん高齢者の方にも優しい街にして欲しいと道路を歩いた時に心からおもいます。早くやっていただきたいです。</li> <li>・ 現在子育て中なのですが、子供を思いっきり遊ばせられる公園がないと感じております。遊具はそれほどなくてもいいので、広い公園を作っていただけるとありがたいです。 等</li> </ul>	44
市の予算・財政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民に負担させることの前に、職員数を減らす等、早急に改善すべき事多々あると思います。まず自分たちのことから考えてください</li> <li>・ 公共施設をよく利用する人から使用料を値上げして負担してもらえばいいと思う 等</li> </ul>	48
施設整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館の文化祭が盛んになると、小さい子から老人まで興味を持つ人が増え、生活が活き活きとしてくると思う。バリアフリーになっていると自分が車椅子になった時楽しめるので、現在あきらめている人にも前向きになれていいと思う。年齢を重ねると地域に公民館が有り種類が多く楽しめるという事は寝たきりの人も減る方向になり良いと思う。また、寝たきりになった人のための介護施設などの充実も希望します</li> <li>・ 施設の整備、運営だけでなく、中で働いていらっしゃる職員の方の対応を見直していただきたい。全ての職員というわけではありませんが、窓口で対応される方の面倒くさそうな対応に、がっかりする 等</li> </ul>	194
公民館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中央公民館の老朽化が著しい。</li> <li>・ 大野公民館、柏井公民館を使わせていただいております。受付の職員は3名ほどおりますが2人でも充分ではないのでしょうか？ 等</li> </ul>	20
子育て施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小さい子供がいると車で移動する事が多いのですが、渋滞も多く時間がかかる。市役所等も少し遠かったりするので、移動や待ち時間を少しでも少なくするため近くに手続きできる所があると良いと思います。(知らないだけかもしれないので、あればすみません。)移動手段が不便な地区なので、必要な施設が小さくても出来るだけ近くに欲しいです</li> <li>・ 子どもたちへの公共施設の充実がまず大切だと思う。学校で空いているおへやが公民館がわりになったり、放課後の体育館や校庭が市民に開放されていることをさらに広げるように、学校教育系施設にお金がかかりそうなのでなおすときに使いがってよくなるといい 等</li> </ul>	55
図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館を土、日は9:00から</li> <li>・ 図書館はできた当初から利用しており、受験勉強や学校の課題に大いに役立っています。大人になった今でも、ネットで予約してたくさん借りられるので、ありがたいです 等</li> </ul>	34
民間誘致	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共施設とは少し異なるかもしれませんが、トラックターミナル(塩浜あたり近辺)があればよいと思います。宿泊、シャワー、トイレ、食事、おみやげ、売店も含む。莫大な広地が必要だと思いますが少しでもドライバーさんが休めたり、他の人々も利用できれば活性化するのは？</li> <li>・ スーパー等商業施設を増やしてほしい 等</li> </ul>	22
感想・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都内で働いているので、日常の大半は市川市にいません。そのため市川市の公共施設を利用することが少ないのが正直な意見です。しかし、税金を納めているので、有効に使ってほしいとは思っています。税金だけでは足りない費用を募金箱など、使う人の目につく所に置き、良く使用する人から融資が有ってもいいのかなと思います。今回のアンケートの様に市民の意見を聞いて下さる機会が有り、うれしく思います。ありがとうございました</li> <li>・ よりよい形で今後も公共施設が維持されていくことを望みます。今回のアンケートを含めご尽力に感謝します。期待しています 等</li> </ul>	91
	合計	513

※重複する回答あり

平成27年度

市川市公共施設に関する市民ワークショップ  
「いっしょに考えよう！ 市川市の公共施設」

実施報告書

平成27年12月

## 目 次

1. 開催概要	-----	1
2. 第1回ワークショップ概要	-----	3
3. 第2回ワークショップ概要	-----	13
4. 第3回ワークショップ概要	-----	33
5. ワークショップ全体のまとめ	-----	46
6. 参加者アンケート	-----	50

## 1. 開催概要

### ◆ワークショップ実施の目的

市川市では、厳しい財政状況の中、公共施設の老朽化や少子高齢化に対応していくため、今後の施設の計画的な管理に関する基本方針となる「市川市公共施設等総合管理計画」の策定を進めています。

本計画は、将来の公共施設のあり方や街づくりに大きく影響するものであることから、策定にあたっては、市民の皆様のご意見を伺いながら進めていくことが重要であると考えています。

今回のワークショップでは、参加者の皆様に本市の公共施設の現状について説明し、グループごとに意見交換を行いながら、将来の公共施設のあり方について、全3回の日程で考えていきました。

### ◆開催日時・会場

	日 時	場 所
第1回	平成27年10月31日(土) 午後2時30分～4時30分	市川市役所本庁舎 5階 理事者控室
第2回	平成27年11月15日(日) 午前10時～12時	
第3回	平成27年11月29日(日) 午前10時～12時	

### ◆参加者

「市川市公共施設に関するアンケート調査※」回答者のうち参加希望者：25名

ワークショップ参加者：22名

都合により不参加：3名

(※平成27年8月28日～9月18日実施、市内居住者18歳以上の3,000人無作為抽出)

### ◆ファシリテーター

芝浦工業大学 工学部建築学科 志村秀明 教授

#### ～志村先生のプロフィール～

- ・東京都中央区月島生まれ
  - ・早稲田大学大学院理工学研究課修士課程修了
- <専門分野>
- まちづくり、市民参加、都市計画
- <主な活動>
- ・江東区豊洲地区の水域活用
  - ・江東区深川地区の街並み景観づくり
  - ・福島県二本松市の復興まちづくり支援
  - ・福島県南会津町館岩地区、只見町の景観まちづくり
- <公共施設関係>
- ・さいたま市 公共施設の複合化検討
- ワークショップコーディネーター





## ◆テーマおよび内容

### <全体テーマ>

#### いっしょに考えよう！ 市川市の公共施設

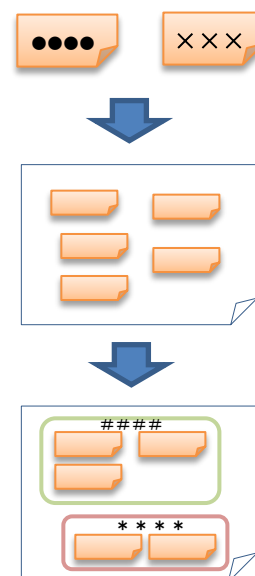
施設の現状と課題を共有し、それを踏まえたうえで、各回のテーマに沿ったグループワークを通じて、意見交換や提案、発表などを行い、市川市の公共施設の将来について参加者全員で考えました。

### <内容（全3回）>

回数	内容
第1回	<b>○テーマ &lt;公共施設について再確認しよう！&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・「公共施設への想い」として、参加者の公共施設に対する「想い」「関わり方」などをイラストや言葉などで表現し、発表および意見交換を行いました。</li><li>・施設の現状や課題、これまでの取組み状況、市民アンケート結果等について、市より説明があり、参加者全員で共有しました。</li></ul>
第2回	<b>○テーマ &lt;公共施設ごとにどうあるべきか考えよう！&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・市の施設のうち、「小・中学校」「集会施設」「その他施設（図書館など）」の3用途について、「現状の課題」や「将来に向けて」などを考え、発表および意見交換を行いました。</li></ul>
第3回	<b>○テーマ &lt;市川市らしい公共施設のあり方を考えよう！&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・今回のワークショップのまとめとして、今後の市川市の公共施設全体を表す「キャッチコピー」「キーワード」や「自分たちができること」を考え、意見交換および発表を行ないました。</li></ul>

## ◆グループワークの主な進め方

- ① 自分の考えをポストイット（付箋）に書き出す
  - ・1枚につき1項目（大きな字で簡潔に書く）
- ② 1人ずつ順番に自分の意見を発表する
  - ・発表者は、記入した内容とその理由を発表
  - ・各グループに配置したサブファシリテーターがポストイットを模造紙に貼っていく
- ③ 出た意見を分類し、分類ごとに見出しをつける
  - ・話し合いながら、内容の近いもの、似ているものをまとめて貼り直し、分類をつくる（分類ごとに囲み、見出しをつける）
  - ・グループごとに話し合った内容をまとめる
- ④ 発表をする
  - ・発表の代表者や順番、発表方法を決め、模造紙を掲示し、参加者全員の前で発表する。



## 2. 第1回ワークショップ概要

◆開催日時 平成27年10月31日(土) 午後2時30分～4時30分

◆参加者 19名

◆第1回テーマ **「公共施設について再確認しよう！」**

◆プログラム

時間	内容
14:30～14:45 (15分)	<あいさつ、自己紹介> ・主催者およびファシリテーターのあいさつ ・ワークショップの趣旨説明 ・参加者のあいさつ
14:45分～15:15 (30分)	<グループワーク> ・ファシリテーターから作業の流れを説明 ・公共施設への「想い」や「関わり方」などをイラストや文章で画用紙に表現
15:15～15:45 (30分)	<発表> ・グループごとに発表
15:45～15:55 (10分)	<休憩>
15:55～16:15 (20分)	<公共施設の実態等の説明> ・市から、公共施設白書の概要や市民アンケートの結果等について説明
16:15～16:25 (10分)	<まとめ> ・ファシリテーターによる今回のまとめ
16:25～16:30 (5分)	・次回の内容、事務連絡、アンケート記入

## ◆開催概要

ワークショップ初回は、参加者に公共施設への「想い」や「関わり方」などをイラストと言葉で表現してもらい、意見交換をしました。

子どもの頃通った図書館、日頃使用している公民館やグラウンド、毎日歩く道路や橋など、参加者からは公共施設に対して様々な「思い出」や「意見」「期待」が寄せられました。

中には、公共施設の「建物」や「備品」だけでなく、その施設がおかれる「環境」、施設がつくる「景観」、場としての「機能」や地域のあり方、人の関わりにまで触れる意見が出て、議論はとても広がりのあるものになりました。

今回は、対象施設を「学校施設」「集会施設」「図書館その他施設」に分けて、より具体的に議論を深めていくこととなりました。

最後に、ファシリテーターを務める芝浦工業大学の志村先生が、「このままでいくと施設の3割は維持できなくなるという厳しい現実を受け止めたくて、しかしながら悲観することなく、この課題をいかに工夫とアイデアで打開するかという前向きな考えで検討し、意見を出していただきたい」と呼びかけ、参加者は真剣な表情で資料を読み込んでいました。



グループワークの様子



グループ発表の様子

## ◆市川市・経営改革課長あいさつ

公共施設に関する市民ワークショップにご参加いただきありがとうございます。

本市では、高度経済成長期に学校、公民館、市営住宅といった公共施設や、道路、下水道、橋といったインフラが集中的に整備されました。これらの施設が建設から40年～50年経過し、老朽化が進んでいます。

人口が減り、少子高齢化で年齢構成も変わる中で、行政も限りある財源で対応しなければならない時代が近々やってきます。全国的な問題ですが、市川市として今年度を目途に、今後の公共施設の方向性、あり方を定める「公共施設総合管理計画」を策定いたします。策定にあたっては、施設を利用される方だけでなく、様々な立場の市民の皆様からご意見をいただきたいと考えています。

本ワークショップでは、コーディネーターである芝浦工業大学の志村先生にお力添えをいただきながら、皆様と一緒に考えていきたいと思っております。ご協力をお願いいたします。

## ◆ファシリテーターあいさつ（芝浦工業大学 志村先生）

市川市との関わりですが、以前、早稲田大学時代に、市川南地区の市街化整備に関するワークショップに参加していました。

公共施設再編に関しては、現在、さいたま市で行われているワークショップに関わっていますが、今回、縁があって市川市の公共施設ワークショップのファシリテーターとして参加することとなりました。よろしくお願いいたします。

全3回、「いっしょに考えよう！ 市川市の公共施設」というテーマで行ないます。

今日は第1回ということで、公共施設への想い、関わりをイラストで描いていただきます。ワークショップは、「創造的な協働作業」ともいい、協働で成果をつくりあげていくことですが、その最初は自己表現から入ります。自己表現は、イラストを描いてもらうのが一番わかりやすい方法だと考えています。次回、2回目は施設の機能・用途ごとにいろいろな意見を言葉で出させていただきます。最後3回目にまとめを行います。



## ◆本日の作業の流れ

公共施設に関わるイラストとキーワードを描いてください。

- ・ A3サイズの紙に、公共施設の思い出や施設の役割、地域との関わりなど様々なシーンを描いてください。
- ・ 描いた後、それぞれの絵に説明を加えてください。その後、グループごとに発表していただきます。

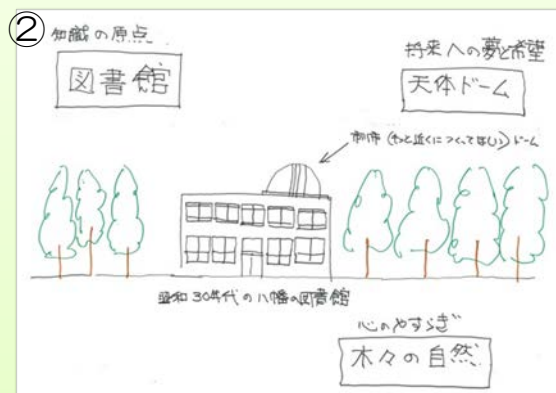
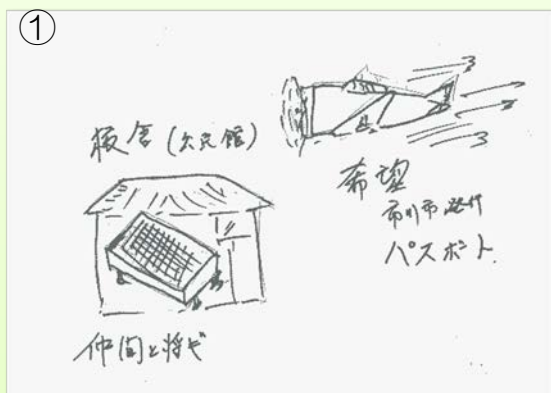


スタッフが見本を書いて  
発表しました

## ◆第1回 グループワークおよび発表概要

### Aグループ

#### 公共施設への「想い」

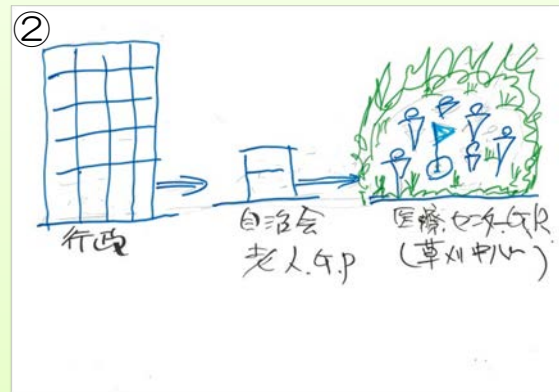
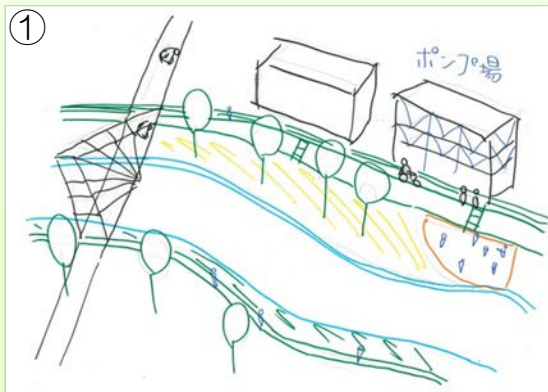


- ① 公共などの会館などで、老人がよくする将棋などがあればもっと利用するのではないか。  
市川市内でパスポートの申請や発行が出来るようにするという取組みも実現してほしい。
- ② 昭和30年頃の図書館を描いたが、図書館で知識を養った。  
施設は、場所を提供するだけではなく、人を育てることができる場所である。  
プラネタリウムがあるが遠く、子どもたちが通わない。
- ③ 人が減ったことで1人の負担が多くなり続けられなくなったが、公民館があったおかげでこれまで「料理教室」を開催することができた。公共の施設で教室を開催することは大変だと感じた。
- ④ バラの講習会で何度か行った公園を描いた。市川市を花いっぱいの市にしたい。  
オリンピックもあるので、観光できる市になってほしい。

#### ～ファシリテーターのコメント～

- ・ 図書館は皆さんが利用する場所である。
- ・ 市川市には「南北の移動が困難」という課題がある。
- ・ 公民館などの集会施設は地域の人々が集まる場として大切。
- ・ 公園などを綺麗に維持していくためには、市民の参加や協力が必要。

公共施設への「想い」

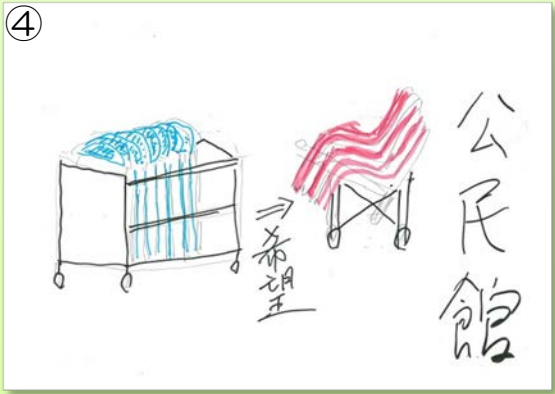
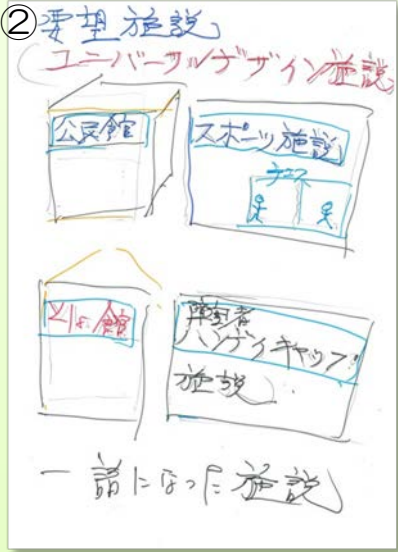


- ① 川沿いを散歩していると、塗装がはがれている橋をよく見る。
- ② 自治会館の草刈りを誰が行なうかが議論となっている。  
自分たちの施設であれば自分たちが草刈りをするべきというのが私の意見である。
- ③ 小学校前に歩道があるが、子どもがつかまつかないような歩道にしてほしい。  
歩行補助カートを使うお年寄りも容易に移動できるような歩道を整備してほしい。
- ④ コンサートが好きで千葉の文化会館をよく利用するが、バリアフリー化や周辺の管理もしてほしいと感じている。それと比較して市川市の文化施設は整備されている方だと思う。

～ファシリテーターのコメント～

- ・施設だけでなく市民に身近な生活環境全体を整えることが必要。
- ・施設の草刈り等については市民が行なうなど、行政との役割分担が重要になってくる。
- ・歩道の段差解消など、施設周辺環境のバリアフリー化も大切。

公共施設への「思い」

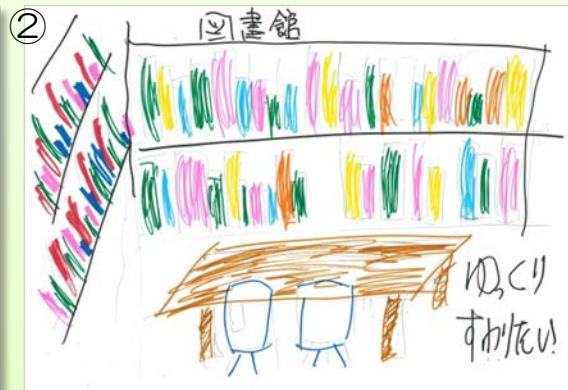


- ① 高齢者のライフスタイルを考えると、図書館やボランティア活動の場、スポーツ施設が必要である。  
 公衆トイレの設置など散歩しやすい街にしてほしい。  
 世代やライフスタイルに沿った公共施設を考えてほしい。
- ② 施設のユニバーサルデザイン化を進めてほしい。
- ③ 学生時代に新旧2つの中央図書館を利用して勉強した。思い出の場所となっている。
- ④ 公民館などでオーケストラの練習をしているが、パイプ椅子や傘立てがとても古い。  
 箱より備品や設備が重要である。

～ファシリテーターのコメント～

- ・ 図書館は学生をはじめ、様々な世代に利用される施設。
- ・ 公民館などの備品の老朽化は今後の課題。厳しい財政状況を考えると工夫やアイデアが必要。
- ・ 公共施設だけでなくその周辺的环境も大切。
- ・ ユニバーサルデザインや複合化された施設には様々な市民が集う。その結果交流が生まれ楽しく過ごすことができる場となる。

公共施設への「想い」



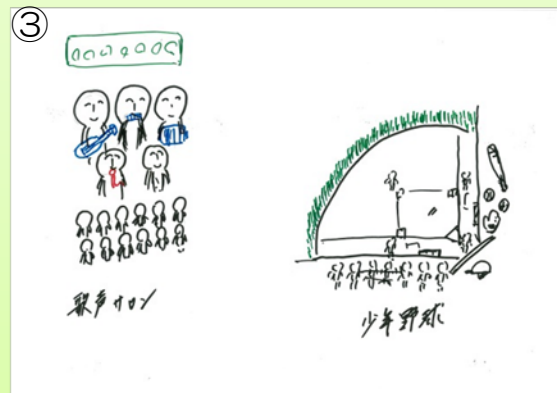
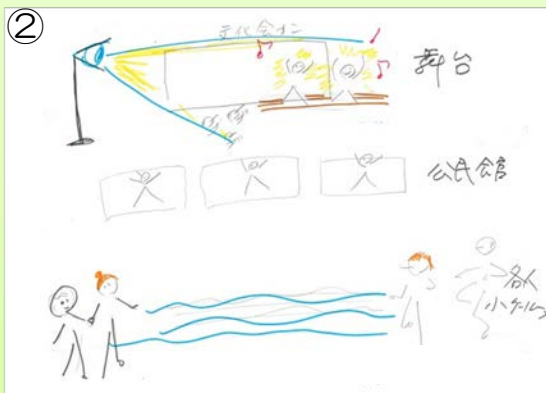
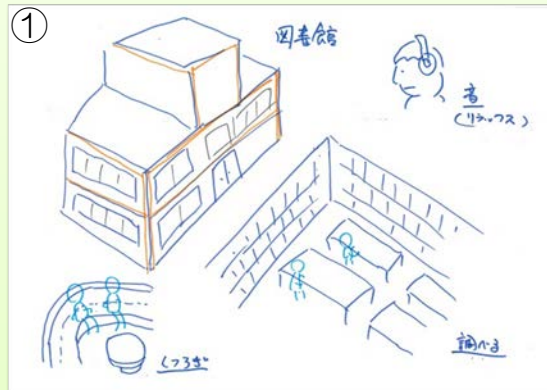
1. 小さい頃入院を繰り返していたため、公共施設というとまず病院が思い浮かんだ。
2. ゆっくり過ごせる場所として図書館を描いた。  
定年退職後、色々勉強したいという意欲がでてきた。
3. 本が好きなので、市の図書館をもっと充実してほしい。
4. 外国より帰国してから市川市の中央図書館を見て、本が沢山あることに感動した。  
子供の吹奏楽の発表などができるホールがあり素晴らしいと感じている。

～ファシリテーターのコメント～

- ・図書館の絵が3枚描かれた。図書館は地域にとって身近で大切な存在であると感じた。
- ・病院は本来の機能のほか、地域の交流や緊急時の活動拠点としても大切な役割を果たしている。



## 公共施設への「想い」



- ① 普段利用している図書館を描いた。リラックスできる施設であってほしい。
- ② 1人暮らしの高齢者が多いので集まってお茶でも飲める空間があればいい。  
私の散歩コースには日陰がなく、夏の炎天下では高齢者にとって大変である。  
人前に立つことは脳を活性化させるので、高齢者がステージに立つ機会や場所を作ってほしい。
- ③ 活動団体に男性の参加者が少ない。若いうちから少年野球などで地域と関わりを持てば、災害時に炊き出しなどを協力してできるようになる。人と人のつながりができる環境作りを望む。

## ～ファシリテーターのコメント～

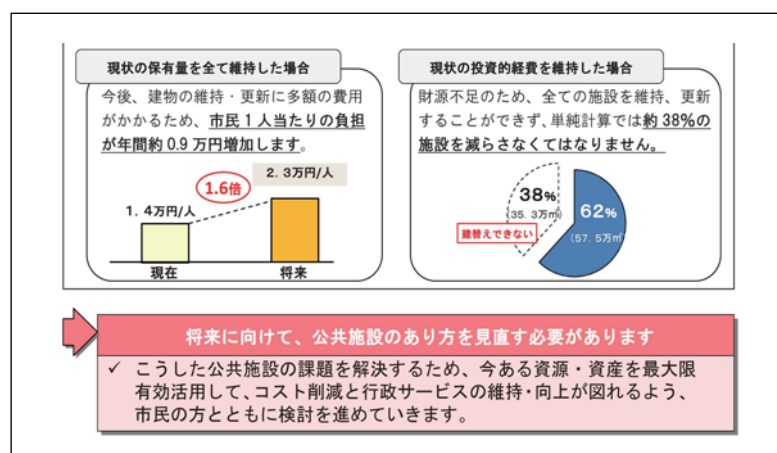
- ・1人で使うことから大人数で使うことまで、幅広いシーンが描かれている。
- ・散歩道など、生活環境を整えることは大切。
- ・男性の地域参加は今後重要性を増すと考えられるので、公共施設を上手く活用できると良い。

## ◆公共施設の現状等についての説明（概要）

公共施設を取り巻く現状や用途ごとの施設概要、公共施設に関するアンケート調査の結果などについて、経営改革課職員がスライドを使って説明しました。

### 1. 公共施設を取り巻く現状

- ・現在、施設の半数以上が築30年以上となり、老朽化が進んでいます。
- ・今後さらに少子高齢化が進むことが予測され、税金の減少や社会保障関係費の増加が見込まれます。
- ・今ある施設を同規模で改修・建替えした場合、今後40年間で4千億円以上、年間108億円の費用（今までの1.6倍）の必要との試算結果が出ています。
- ・これらの施設全てを維持・更新していくことは極めて困難であることから、将来に向けて公共施設のあり方を見直していく必要があります。



※スライド資料より

### 2. 市川市の取組み

- ・施設の現状や課題を把握するため、昨年度ハコモノを対象とした「市川市公共施設白書」を作成しました。
- ・白書で整理した情報を基に、今後の公共施設全体のあり方を定める「市川市公共施設等総合管理計画」を策定します。
- ・施設の見直し（計画の策定）にあたっては、施設ごとに市民のニーズや地域における役割、安全性などを考慮し考えていくことが必要です。

### 3. 施設の用途ごとの概要

学校、集会施設、図書館の3用途について、施設概要、分野ごとの現状課題、利用状況、活用事例などを説明しました。

### 4. アンケート調査結果

- ・対象者3,000人のうち回答数1,668人、55.6%の回答率でした。
- ・その他、各設問の結果を一部抜粋して説明しました。

## ◆総 評（ファシリテーターより）

### <全体を通して>

- ・今回、参加者の皆さんにはイラストで公共施設への想いを表現し、発表するという経験をしていただきました。
- ・これまで全国でワークショップを行っていますが、市川市でも素晴らしい作品を見ることができました。
- ・市民参加活動を研究・推進している者として、市民の力・レベルが高まっていることをとても心強く感じました。

### <イラスト・発表・意見をふりかえって>

- ・公共施設そのものだけでなく、施設の周辺環境や椅子などの備品、さらには散歩コースなど生活環境全体も含めた整備が重要という意見がありました。
- ・地域参加を促したり、様々な人が交流を深めるような仕組みが必要という意見がありました。
- ・ユニバーサルデザインやバリアフリーなど、世代に配慮した施設整備を求める意見がありました。
- ・市川市には行きにくい施設があるという課題が出されました。
- ・市からは将来の人口や財政の見通しとともに、公共施設の老朽化などの課題について説明がありました。
- ・今後、市の公共施設を考えていくにあたっては、市民の参加や協力、市民と行政の役割分担、市民視点での工夫やアイデアなどが重要と言えます。

### <次回に向けて>

- ・このままでいくと施設の 3 割は維持できなくなるという厳しい現状を受け止めたうえで、しかしながら悲観することなく、日本全体が抱えているこの課題を「いかに工夫とアイデアで打開するか」という前向きな考えで検討し、意見を出していただきたいと思います。
- ・次回は、皆さんの発表でも多かった **①小・中学校**、**②集会施設**、**③図書館**の3用途について取り上げたいと思います。
- ・参加者の皆さんには、本日配布された資料を2週間の間によくご覧いただき、次回のワークショップも充実したものにしたいと考えています。

### ～第1回ワークショップを終えて～

公共施設について、現状や課題を共有しました。また、建物だけでなく道路や公園、河川などの周辺の環境や、施設内にある設備・備品についても、施設の将来のあり方を考えていくうえで重要であることを認識しました。



### 3. 第2回ワークショップ概要

◆開催日時 平成27年11月15日(日)午前10時~12時

◆参加者 21名

◆第2回テーマ **「公共施設ごとにどうあるべきか考えよう！」**

◆プログラム

時間	内容
10:00~10:10 (10分)	<p>&lt;あいさつ、前回のふりかえり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーターのあいさつ</li> <li>・前回ワークショップのふりかえり</li> </ul>
10:10~10:15 (5分)	<p>&lt;グループワーク&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップの概要、作業の流れ等を説明</li> <li>・グループ内であいさつ(今日の心意気)</li> <li>・グループごとに、対象用途「小・中学校」「集会施設」「その他施設(図書館など)」について意見交換</li> </ul>
10:15~11:00 (45分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自付箋(メモ用紙)に記入 「課題」「大事なこと」「将来に向けて」</li> <li>・記入内容をグループ内で発表し、付箋を模造紙に貼り整理する</li> <li>・発表の準備を行なう (発表方法や発表者などを決める、掲示)</li> </ul>
11:00~11:05 (5分)	<休憩>
11:05~11:30 (25分)	<p>&lt;発表&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに発表</li> </ul>
11:30~11:55 (25分)	<p>&lt;意見交換&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーターより議論のポイントを説明</li> <li>・全体の発表を聞いて、さらに意見交換</li> </ul>
11:55~12:00 (5分)	<p>&lt;今回のまとめ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーターより全体を通したまとめ</li> <li>・次回の内容、事務連絡、アンケート記入</li> </ul>

## ◆開催概要

第2回目は、前回のワークショップにおいて参加者の意見や発表で多かった「小・中学校」「集会施設」「その他施設（図書館など）」の3つの用途について、グループごとに意見交換を行ないました。

はじめに、自己紹介を兼ねて「今日の意気込み」を各グループ内で語り合った後、各用途について、「課題」、施設にとって「大事なこと」、そして「将来に向けて」の3つを各自付箋（フセン）に記入し、意見交換を行ないながら模造紙にまとめ、グループごとに発表を行ないました。

45分間という限られた作業時間の中で、3用途についてまとめる作業に苦労しながらも、小中学校や公民館、図書館などの「建物」自体のことだけでなく、設備や運営方法、さらには周辺環境や地域性、アクセスについてなど幅広い視点での議論となりました。



グループワークの様子



グループ発表の様子

## ◆前回のふりかえり・本日の作業の流れ（ファシリテーターより）

### 【前回のふりかえり】

前回は、公共施設への「想い」や「関わり」をイラストで表現していただきました。最初に自己表現をすることで、お互いの考えがわかるというねらいがあります。また、公共施設の再編にあたり、これから考えていかなければいけないことについて、様々な意見を出していただきました。

地域のつながりや周辺環境、多様な人々の利用、交流などの意見が出ました。

これらの意見を踏まえて、今回は公共施設ごとに考えていくこととなりますが、リアルな意見に加えて、想像力を働かせて様々なアイデアを出してください。



前回のイラストをテーマごとに分類して掲示しました

### 【本日の作業の流れ】

今回は、「学校」「集会施設」「その他（図書館など）」3つの用途について考えていきます。「その他」については、運営方法や再編の検討方法なども含めていただいて構いません。見本を作りましたので、参考にしてください。



書き方の見本

前回とグループが変わっていますので、最初に「今日の心意気（意気込み）」を入れたあいさつをグループ内で行なってください。

《進め方》

- 各自付箋（フセン）に記入  
3つの用途について「課題」「大事なこと」「将来に向けて」  
👉 文字は大きく見やすく

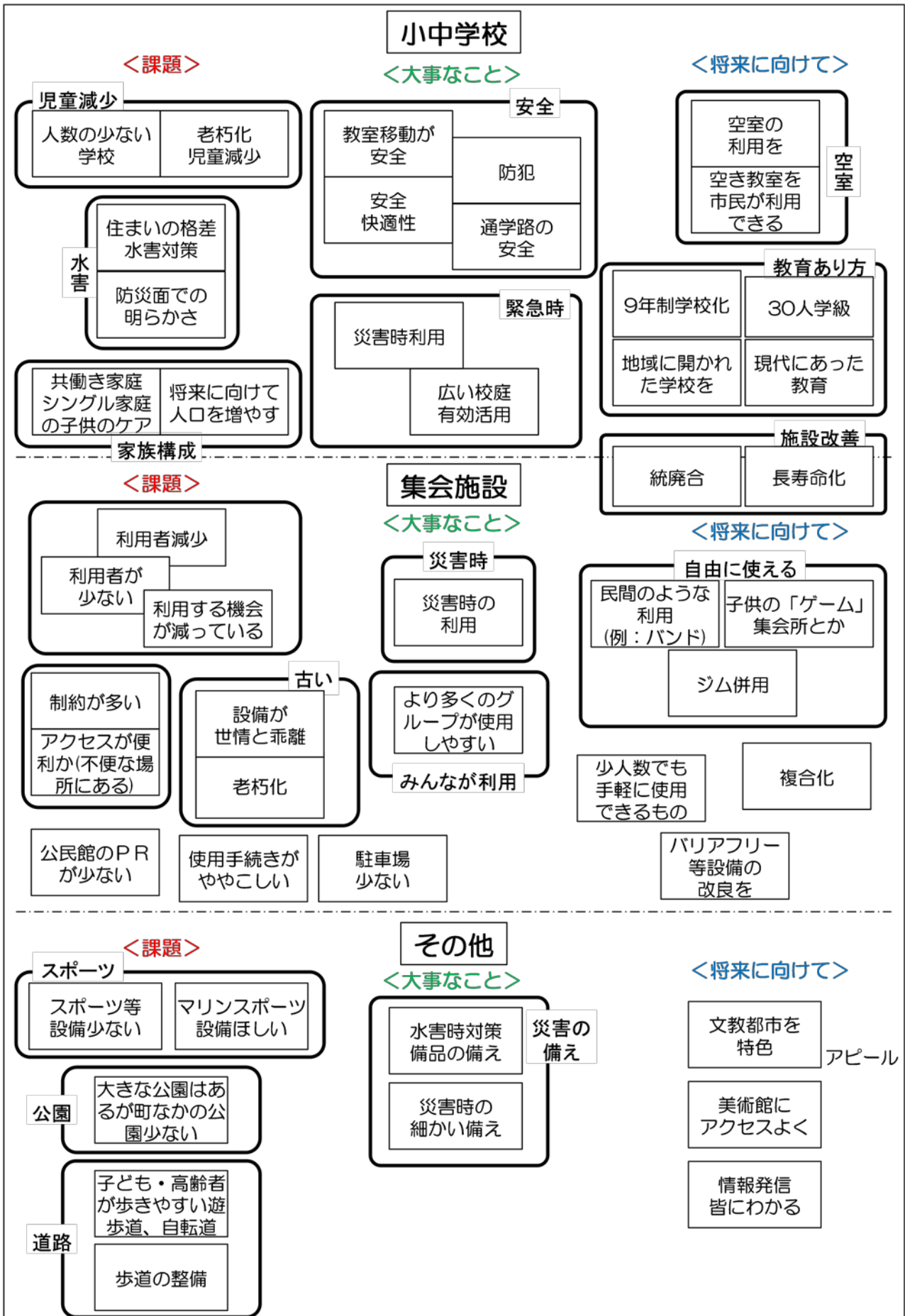
- 記入内容をグループ内で発表し、付箋を模造紙に貼り整理する

- 発表の準備（発表方法や発表者などを決める、壁に掲示）

3回（3用途分）

◆第2回 グループワークおよび発表概要

Aグループ





- 学校の課題としては、家族構成の変化や保護者の事情が変わってきていることへの対応が必要となってくるのが考えられる。
- 集会施設は、利用者が減っていることや利用手続き、駐車場等利用をするにも制約があることが課題として考えられる。ジムやバンドの利用などができれば、学生など幅広く活用できるのでは。
- その他に、身近な問題としてスポーツできる施設や身近な公園が少ないと思う。また、お年寄りや子どもが歩きやすい遊歩道などがあればいいと思った。「文教都市」であることのアピールをもっとしたほうがいいと思う。

## 小中学校

課題	大事なこと	将来に向けて
<p>児童減少</p> <p>人数の少 少 老朽化 児童減少</p> <p>任意の格差 水害の 防災面での 開ら</p> <p>共働きの交通 シニア層の 増加</p>	<p>安全</p> <p>防犯 通学路 の安全</p> <p>安全 快適性</p> <p>災害時 の 応用</p> <p>広い校庭 有効活用</p>	<p>将来に向けて</p> <p>空室 教室の 利用を 空室 教室と 併用</p> <p>個別学校 併 30人組です 地域に 合わせた 学校を 現代に 教育 施設改善</p> <p>統合 長寿命化</p>

---

## 集会施設

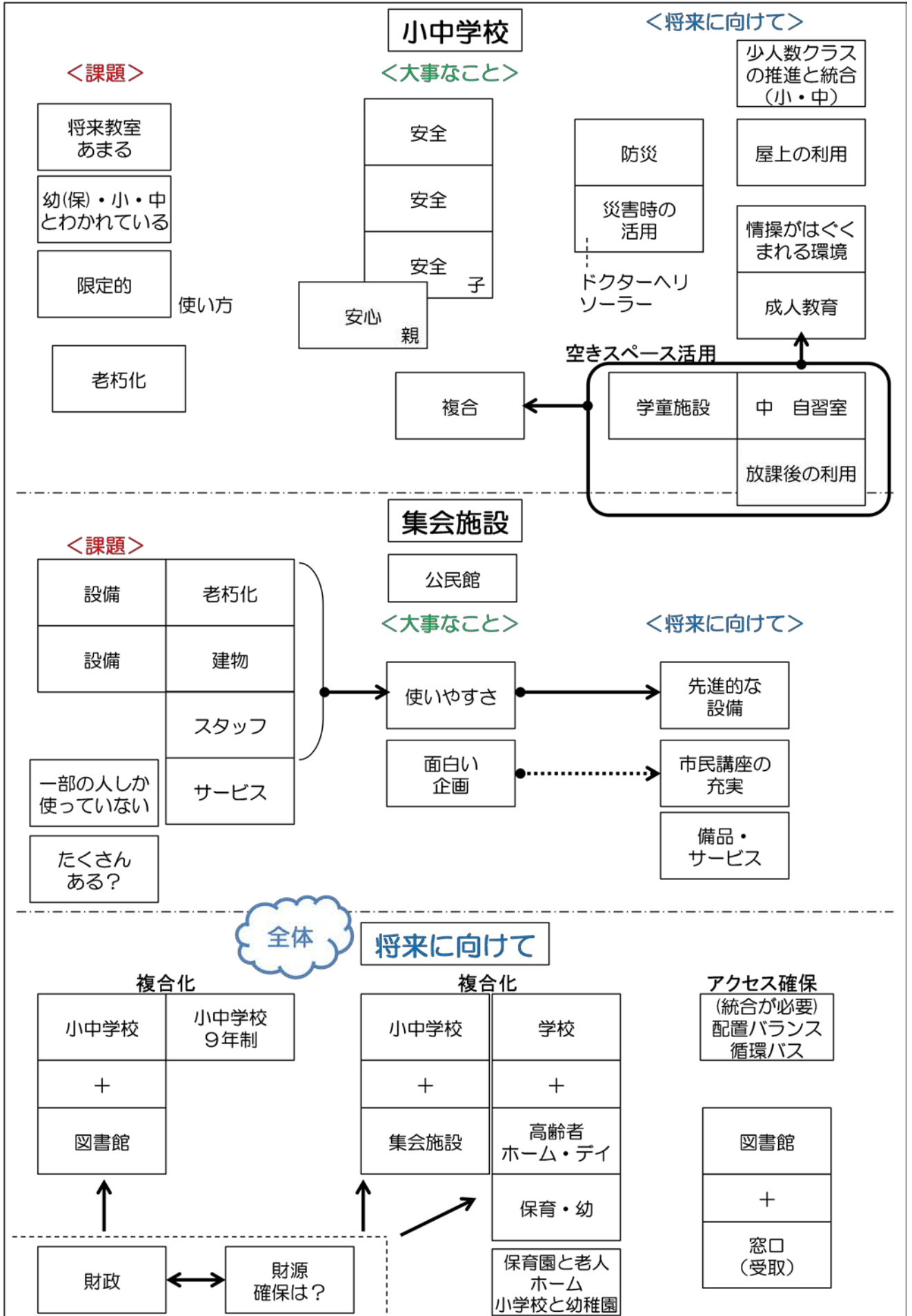
課題	大事なこと	将来に向けて
<p>利用者減少</p> <p>利用者 少ない 敷金が 高い</p> <p>制約の 多い アクセス 不便 老朽化</p> <p>公民館の 利用 少ない</p>	<p>災害時の 利用</p> <p>災害時</p> <p>多くの 利用 を 実現</p> <p>駐車場 の 有効活用</p>	<p>将来に向けて</p> <p>自由に 使 民間の 活用 予後の 安心 例: パビリオン 身会所 ジム 併用</p> <p>小人数 でも 手軽に 使用 できる</p> <p>複合化</p> <p>パビリオン 等設備の 改良</p>

---

## その他

課題	大事なこと	将来に向けて
<p>スポーツ</p> <p>スポーツ 場 不足 マリンスポーツ 施設 不足</p> <p>公園</p> <p>大きな 公園 不足</p> <p>道路</p> <p>高齢者 や 子ども が 歩き やすい 遊歩道 整備</p>	<p>災害時の 備え</p> <p>災害時 の 備え 準備</p>	<p>文教都市 の 特色</p> <p>防災 機能 アクセシ ブル</p> <p>情報 発信 機能</p>



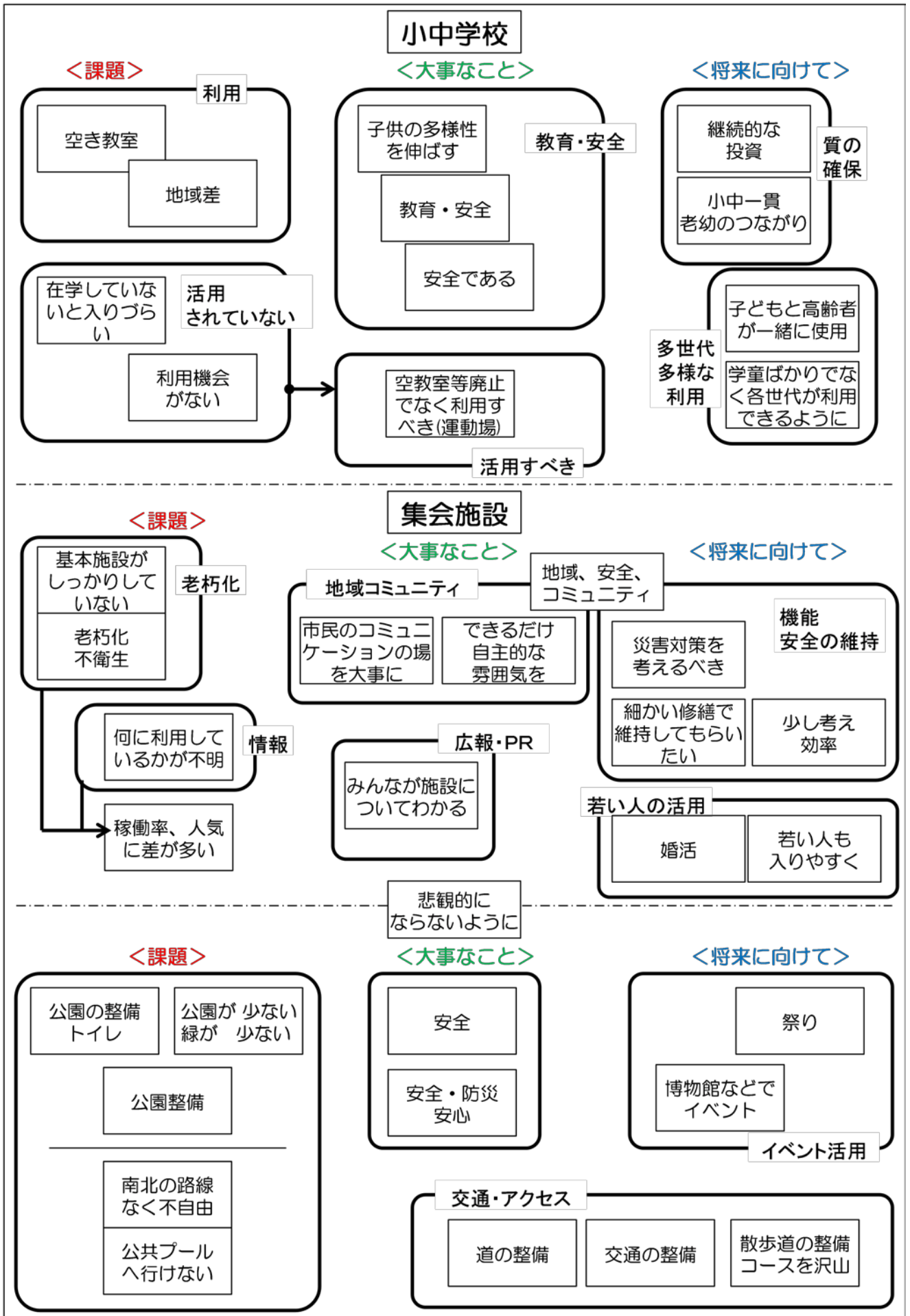


発表



- 学校の課題としては、将来的に教室が余ることが考えられる。今後は、防災拠点として屋上利用ができないか。放課後空いている時間を自習室として開放したり、成人教育にも活用できないか。
- 集会施設は、設備・建物の老朽化とスタッフの高齢化が課題である。面白い企画などで市民講座を充実したり、先進的な設備を入れるなどすれば、もっと利用されるのではないか。
- その他に、学校を集会施設や高齢者施設、保育園などと複合化してはどうか。施設の統合は必要だが、距離が離れる施設はコミュニティバスを走らせてはどうか。図書館も近くで受け取れる仕組みがあればいい。







- 学校の課題としては、空き教室がある学校もあれば、ない学校もあるなど、地域差が生じている。学校によっては外国人が多い学校もあり、多様性に富んでいる。
- 集会施設は、施設の老朽化が進んでおり、トイレも和式ばかり。サークル利用は分かるが、その他何に活用しているのか分からない。若い人も活用できるよう婚活パーティーなどで利用してはどうか。
- その他に、地域によっては公園が少なく、トイレがないところもたくさんある。南北が分断され、行徳は川で分断され、散歩ができない。周辺の道路や散歩道を整備したり、にぎやかなイベントを開催し、継続していくことが大切ではないか。



### 小中学校

#### <課題>

教員の教育	いじめに対応 先生の待遇
空教室の活用	空き教室の 利用方法
39校 築50年14校 ある	古い
公共の場所 ?	一部の人の 物のようだ
放課後の 子供の利用	老人の手伝い

#### <大事なこと>

地域との つながり
地域の交流

#### <将来に向けて>

地域の人に 見守られて安全に
地域交流 の一体整備

### 集会施設

#### <課題>

場所が不明	内容が?
PR不足	公民館 稼働率低い
近所の人との コミュニティ	

#### <大事なこと>

集中力を 高める
隣・近所の人 と仲良くなる

#### <将来に向けて>

元気な老人を ボランティアに 使用
付加価値を つける
人が集まる 拠点を作る
何かあったら 助け合える様に

### その他

#### <課題>

人件費の みなおし
情報共有 不足
役所を きれいに!

#### <大事なこと>

ムダをなくして シンプルに
市民が気持ち よく利用出来る 様に

#### <将来に向けて>

ECでは 市議員はボラ ンティア施行	全国から注目を 集める市川へ
外国人の 労働者の対応	

発表



- 学校の課題としては、教員への「心のケアの教育」が必要だと思う。空き教室をもう少し市民に開放できないか。共働き家庭のために、放課後、元気な高齢者の見守りの中で子どもが遊べるなど、地域とのつながり、交流ができる一体整備が重要だと思う。
- 集会施設は、場所がどこにあり、何をしているのかPRが不足している。集会施設だけでなく、買い物や子どもの遊びなど、付加価値があるとよいのではないか。
- 市川市は今後、少子高齢化で財政難になる。全国から注目をあつめる市川市になるような取組が必要ではないか。

## 小中学校

課題	大事なこと	将来に向けて
<b>教員の教育</b> いじめ対応 先生への対応  <b>児童の活用</b> 空き教室の活用  39校 築50年14校 あり  <b>古い</b>  <b>公民館の場所</b> 一部の人 の様に  <b>放課後の子供の利用</b> 老人の活用	<b>地域とのつながり</b>  <b>地域の交流</b>	<b>地域の上に見守り体制</b>  <b>地域交流の一体整備</b>

---

## 集会施設

課題	大事なこと	将来に向けて
<b>場所が不明</b>  <b>PR不足</b>  <b>出所者のニーズ</b>	<b>集客力を高める</b>  <b>出所者の仲間作り</b>	<b>元々の老人を本気でサポート</b>  <b>付加価値をつける</b>  <b>人が集まる拠点を作る</b>  <b>何があるか説明を繰り返す</b>

---

## その他

課題	大事なこと	将来に向けて
<b>人件費のおおむね情報共有不足</b>  <b>役所をきりかえ!</b>	<b>いざというときに</b>  <b>限られた水利用を確保</b>	<b>Eコマース(購入)市会議員は本気で取り組む</b>  <b>全国から集める仲間へ</b>  <b>外国人の労働者の交流</b>

### 小中学校

<課題>

教室の稼働率

築年数30年  
以上多い  
老朽化

エレベーター  
なしが多い

建物  
・  
施設

<大事なこと>

防災拠点  
安全安心

<将来に向けて>

空き教室  
有効活用

学校をいかに  
利用し、収入  
を得るか

学校を民間の  
方々と交流し  
利用

生徒数減少  
地区の合併

子供増加地区  
建替・複合化

### 集会施設

<課題>

行政との関係  
自治会の  
転換期

自治会巨大化

老朽化への  
対応

利用者が偏り

若い世代の  
方の利用方法

若い世代に  
なじみが  
少ない

<大事なこと>

統計を取って  
利用率で廃止

不利用の廃止

NPO法人化

<将来に向けて>

若世代・高齢  
世代交流

お年寄りと子  
供との交流場  
に

交 流

地域の交流の  
場を

<課題>

閲覧スペース  
が少ない(自  
習多い)

直営が多い  
コスト削減

気軽に借り  
返却できる

図書館は年齢  
なく利用できる  
ので使用

民間への委託

コンビニ・駅  
との連携返却

施設の多目的  
統合

施設の複合化

自治会館の建  
設、集約

<大事なこと>

図書館の中で  
の利用方法

<将来に向けて>

ソフトの充実

魅力ある  
街造り

NPO法人化

老人の活用

ボランティア  
の100%廃止

発表



- 学校の課題としては、昔は生徒数が多くて、1 クラス 45 人学級だったが今は生徒数が減っている。今後、統廃合をして残った学校をどう利用するか、民間と交流して利用するなどにより収益を得れば、還元できるのではないかな。
- 集会施設は、施設の老朽化が課題。利用されていない施設は若者にもなじみやすい施設とすることが重要。運営を NPO 法人化できないかな。
- 将来は若い世代と高齢世代とが交流できる、地域の交流の場となっていくことが重要ではないかな。





## テーマ：小中学校

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童数の減少（人数が少ない学校）</li> <li>・家族構成の変化（共働き家庭、シングル家庭の子供のケア・人口減少）</li> <li>・校舎の老朽化</li> <li>・水害への対応（居住地によって水害の起きる格差がある・駅周辺）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来的には教室があまる</li> <li>・幼稚園（または保育園）と小・中学校が分かれていること</li> <li>・使い方が限定的である</li> <li>・施設が老朽化している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き教室がある学校もあれば、無い学校もあるなど、地域差が生まれていること</li> <li>・在学していないと入りづらい、どう利用したらよいかわからない、利用する機会・きっかけがないなどにより、一般に学校施設が活用されていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の教育や生徒への対応</li> <li>・空き教室の活用</li> <li>・校舎が古い</li> <li>・公共施設と言うより一部の人の物となっている</li> <li>・放課後の子どもの利用</li> <li>・元気な高齢者の手伝いが必要</li> </ul>
大事なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全性・快適性（防犯・通学路の安全）</li> <li>・緊急対応（災害時の活用、広い校庭の活用）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにとっての安全が一番大事</li> <li>・親にとっての安心が一番大事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人の子弟が在籍するなどに関して、子どもの多様性を伸ばすことなどを含め、教育面が重要</li> <li>・安全の確保</li> <li>・空き教室の活用等、すぐ廃止ということではなく、利用すべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との交流・繋がり</li> </ul>
将来に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育のあり方（9年制学校・30人学級・現代にあった教育）</li> <li>・地域に開かれた学校</li> <li>・空き教室の活用（空いているスペースを市民が活用できるように）</li> <li>・施設の改善（統廃合・長寿命化＜文科省＞）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は防災拠点であるので、災害時にもっと活用できるように工夫できる（ドクターヘリやソーラーなどで屋上利用）</li> <li>・空きスペースの活用として、学童施設との複合化、放課後に自習室として活用するなど</li> <li>・そうすることで、成人教育や情操がはぐくまれる環境になっていける</li> <li>・少人数学習の推進と、学校の統廃合が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫校化や、高齢者・障害者施設等との連携を強化する</li> <li>・教育環境の整備に向けて、継続的な投資を行い、質の確保を図る</li> <li>・学童ばかりでなく、多世代が利用できるようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人に見守られることで安全に</li> <li>・地域交流の一体整備</li> </ul>

Eグループ	その他（意見交換）	ファシリテーターコメント
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教室の稼働率低下</li> <li>• 生徒数減少、増加地区への対応</li> <li>• 築年数30年以上の老朽化した建物が多い</li> <li>• エレベーターの無い学校が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今回、小中学校のテーマなので出していないが、「保育所の問題」があるような気がする。保育所の併設も必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもの減少による「空き教室」が出ていること、いじめなどの「教員の問題」や「子供の多様化に対する教育」の必要性、「地域の利用」、「市川ならではの地域差」などが共通の意見であった。</li> <li>• 自治体の魅力づくりとして「子育て支援」サービスの充実が必要。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 安心・安全な場所であること</li> <li>• 地域の防災拠点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 小学校は、地域によっては人数的にかなり厳しい状況の学校があると感じている。統廃合は免れないと思う。このあたりの方向性についての議論が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「市川の特徴である水害対策」の面からも防災拠点としての機能が重要。</li> <li>• 「地域とのつながり」や「国際性・多様性」を大事にしていくべき。</li> <li>• 学校は校庭なども広く、施設を有効的に活用していく。という意見があった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 空き教室の有効活用</li> <li>• 民間活用し、収入を得る</li> <li>• 生徒数増減に伴う合併や統廃合、校舎の建替や複合化</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「空き教室活用」の活用も含めた「複合化」、「小中一貫」「自習室活用」「大人も使えるスペース」「もっともっと民間利用されるべき」「校舎の長寿命化が必要」という意見が多かった。</li> <li>• 統合や複合化の意見が出ていたが、多いところと少ないところの地域差が際立ってきている。地域の人が自らのこととして自ら考えることが必要ではないか。</li> </ul>



## テーマ：集会施設

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用率の低下（利用者の減少、使う機会が減っている）</li> <li>・利用しにくさ（利用の制約が多い、アクセスが不便なところにある、手続きが煩雑、駐車場が少ない）</li> <li>・施設の老朽化</li> <li>・設備が世情と乖離</li> <li>・公民館のPRが少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備、建物の老朽化、スタッフの高齢化</li> <li>・一部の人しか使っていない</li> <li>・サービス面でも工夫が必要</li> <li>・施設数が多いのでは？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化が進んでおり、基本設備の利用環境が整っていない</li> <li>・利用者以外にとっては、どう利用できるのか情報が不足していて不明</li> <li>・各施設で、稼働率に格差が生じている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場所が分からない</li> <li>・内容が分からない</li> <li>・PR不足</li> <li>・公民館の稼働率が低い</li> </ul>
大事なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に使える場所（バンドなどの趣味、子供のゲーム、ジムなどの共用）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使いやすさ</li> <li>・面白い企画があること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ自主的な雰囲気大切に、地域のコミュニティ形成に役立つような運営をするべき</li> <li>・みんなが施設について理解・活用できるような広報・PRを重視すべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集客力を高める</li> <li>・隣、近所の人と仲良くなる</li> <li>・地域の人とのコミュニティの場にする</li> </ul>
将来に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数でも手軽に利用できること（多人数団体優先でなく）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進的な設備を入れると もっと利用が増えるかもしれない</li> <li>・市民講座の充実が必要</li> <li>・備品・サービスの充実が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の備えた対応を考えるべき</li> <li>・効率性を考慮しつつ、改修して機能を維持する</li> <li>・若い人にも活用しやすくする。婚活パーティー開催も一案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気な高齢者をボランティアにする</li> <li>・付加価値をつける</li> <li>・人が集まる拠点を作る</li> <li>・何かあったら助け合える様に</li> </ul>

Eグループ	その他（意見交換）	ファシリテーターコメント
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民と行政の関係</li> <li>建物や設備の老朽化</li> <li>若い世代の利用が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみ焼却所のそばにある「スポーツジム・プール」ができれば他の地域にも欲しい。使われ求められている施設であれば有料でも構わないと思う。</li> <li>利用率が下がるという課題があったが、マンションが増え、マンションの中の「自治会の集会室」で完結してしまうところがかんりの数あるはず。まち全体のコミュニティや、人の接触がなくなっている。マンション住民と戸建住民は交流していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「利用者の減少」「利用に制限がある」「情報発信不足で良くわからない」「老朽化が進んでいる」などの課題が出された。</li> <li>市川市ならではの課題であるアクセスが良くなれば、利用がしやすくなるということも考えられる。</li> <li>人と人とのつながり、コミュニティの形成はとても重要。互いを知ることによって災害時の活動を行う際に自分たちで助け合うことができる。</li> <li>建物が老朽化しているという意見があったが、まさに中身が重要になる。マンション住民と戸建住民が交流できる場として活用していくことが課題。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の統計をとる利用のないところは廃止を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会施設というイメージとして、地域の集まりに使う「自治会館・町内会館」と、社会教育法の目的で整備された「公民館」は分ける必要がある。</li> <li>利用が少ないのはアピールが少ないのではないか。広報に載せているが、果たして広報見て使うかどうか。運営方法が重要だと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「付加価値づけ」「多世代の交流」「若者が交流できる企画」「ボランティアで運営する」などの意見があった。</li> <li>施設について、もっと市民が知る状況をつくっていくことが必要。そのためには、運営の方法などについても工夫が必要。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>若い世代と高齢世代の交流</li> </ul>		

## テーマ：その他・全体

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ施設・設備（マリンスポーツ）が少ない</li> <li>・公園が少ない（大きな公園・町中の公園）</li> <li>・道路の整備（高齢者・子どもが歩きやすい歩道・自転車道）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域によって公園が少なく、トイレの整備もされていないところがある</li> <li>・南北の交通が不自由である。公共プールが活用できない地域がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人件費の見直し</li> <li>・情報共有不足</li> <li>・役所を綺麗に</li> </ul>
大事なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全性・快適性の確保（防犯・通学路の安全）</li> <li>・緊急の対応（災害時の活用、広い校庭の活用）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・安心の確保、防災面での配慮</li> <li>・交通・アクセスの改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ムダをなくしてシンプルに</li> <li>・市民が気持ちよく利用出来る様に</li> </ul>
将来に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「文教都市」にふさわしい特色をアピール</li> <li>・美術館へのアクセスをよくしたい</li> <li>・みんなにわかりやすい施設・催しの情報発信（ネット以外でも）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合化（学校＋集会施設、学校＋高齢者施設、学校＋幼・保、学校＋図書館）</li> <li>・施設の統合は必要。その際には配置バランスを考え、施設が遠くなる場合は循環バスを活用する</li> <li>・図書館は、受取窓口を便利なところにつくることで統合も可能になる</li> <li>・何をするにも、お金の問題。財源確保はどうしていくか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路、散歩道（コース）を整備する</li> <li>・博物館等でのイベント開催や、公共施設での祭りなど、イベントを積極的に開催する</li> <li>・悲観的にならないようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市議会議員はボランティアを施行</li> <li>・外国人の労働者の対応</li> <li>・全国から注目を集める市川へ</li> </ul>

Eグループ	その他（意見交換）	ファシリテーターコメント
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 直営のものが多く、コスト削減</li> <li>• 図書館の閲覧スペースが少ない（自習室が多い）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 図書館の統合ができないかということだが、IT を活用して駅で貸し借りが可能になれば、数は減らせるのではないか。インターネット等をしない人にとっては、図書館は重要。</li> <li>• 公共サービス施設なので、長期の休館には不便を感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 図書館自体の「利用勝手」についてや、「公園や周辺環境」「散歩道の改善」「南北間の行き来」「道路の改善」など幅広い意見があった。</li> <li>• 図書館は世界的に工夫したものが出てきている。市川市も様々な取組みがされているが、もっと工夫が考えられると思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 誰でも利用しやすいこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 図書館が遠く行きにくい地域の方のことを考えて、移動図書館を充実すると良い。</li> <li>• 学校の複合化の案があったが、学校に一般の人が入ることは工夫が必要。千代田区の学校のように、階で一般と学校を仕分けるなどの仕組みが必要。簡単に空き教室を使うということは不可能な状況。自習室が使えるかという意見があったが、市川市内は省エネで暗い。生徒が暗い中を帰宅する時の安全面を考える必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全体的にはスリム化を図りながら、運営の方法として「民間活用」や「若者が入れる法人化」「シルバーの活用」などの意見があった。</li> <li>• また、「複合化」「アクセスの利便性」を重視する意見が多かった。</li> <li>• 市川市の魅力を外へ発信するPRも必要である。</li> <li>• 学校については、現在さいたま市で具体的な複合化の検討を進めているが、子ども達の安全確保が大きな課題となっている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 民間への委託</li> <li>• コンビニや駅との連携（利便性アップ）</li> <li>• ソフト面の充実（建物・施設よりもサービス内容重視）</li> <li>• 利用方法の見直し</li> <li>• 魅力のある街づくり</li> <li>• 高齢者の活用</li> <li>• 施設の多目的・複合化</li> </ul>		

## ◆総 評（ファシリテーターより）

### <全体を通して>

- ・次回は、「市川市らしい公共施設のあり方を考えよう」というテーマで、これらのキーワードをさらに整理していく作業に入っていきます。
- ・次回の開催に向けて、開催通知とともに今回のワークショップのまとめが送られてきます。その内容を確認していただき、次回どのように整理し、まとめていくかを考えてきてください。

### ～第2回ワークショップを終えて～

公共施設の見直しにあたっては、経費や利用者数だけでなく、防災・安全・多世代交流など多面的な判断や、統廃合・民間活用・施設の有効活用など様々な手法を検討する必要があるということがわかりました。

Aグループ



Bグループ



Cグループ



Dグループ



Eグループ



#### 4. 第3回ワークショップ概要

◆開催日時 平成27年11月29日(日) 午前10時～12時

◆参加者 20名

◆第3回テーマ **「市川市らしい公共施設のあり方を考えよう！」**

◆プログラム

時間	内容
10:00～10:10 (10分)	<p>&lt;あいさつ、前回のふりかえり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主催者およびファシリテーターからのあいさつ</li> <li>・前回までのワークショップのふりかえり</li> </ul>
10:10～10:40 (30分)	<p>&lt;グループワーク&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーターから今回のワークショップの概要、作業の流れ等を説明</li> <li>・3グループに分かれて「市川市らしい公共施設のあり方」についてアイディアを出し合う</li> </ul> <p><b>各自：キャッチコピー(標語)1つ、キーワード(単語)3つ</b> (発表しながら模造紙に貼る)</p> <p>出た意見をグルーピングしながら、キャッチコピーやキーワードをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出されたキャッチコピーを踏まえて、キャッチコピーを実現するために「自分たちができること」を表明する</li> </ul>
10:40～10:45 (5分)	<休憩・発表準備>
10:45～11:10 (25分)	<p>&lt;発表&gt;</p> <p>◇ グループごとに発表</p>
11:10～11:25 (15分)	<p>&lt;今回のまとめ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーターによる「キャッチコピー」「キーワード」についてのまとめ</li> </ul>
11:25～11:35 (10分)	<p>&lt;今後に向けて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーターによる「自分たちができること」についてのまとめ</li> </ul>
11:35～11:50 (15分)	<p>&lt;感想&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者より、ワークショップ全体を通しての感想</li> </ul>
11:50～12:00 (10分)	<p>&lt;まとめ&gt;</p> <p>今後のスケジュール、事務連絡 アンケート記入など</p>



## ◆開催概要

第3回目（最終回）は、これまでの意見や発表を踏まえて、市川市の公共施設全体を表す「キャッチコピー」「キーワード」と、キャッチコピーを実現するために「自分たちができること」について、グループごとに意見交換及び発表を行ないました。

「キーワード」については、災害や防犯等の危機意識の高まりを表す「安全・安心」、人との関係性を表す「信頼・調和・助け合い・コミュニティ」、施設のあり方に関する「統廃合・複合化」、市の資源、魅力を表す「環境・自然・文化」など、多様な視点からキーワードが挙げられました。

また、「キャッチコピー」については、市川市の持つ自然や歴史文化を活かしつつ、若い世代や新しい住民との融合、調和（シンフォニー）を重視し、子どもからお年寄りまで、多世代が安心して利用できる地域交流の場を表現したものが多く挙げられました。

最後に、自分たちができることとして、自らがまず「知る」ことからはじめ、「積極的に地域活動に参加し、情報を発信し、地域の人々を巻き込むこと」、今回のワークショップをきっかけに「ずっと関心を持ち続けること」といった積極的な意見が出されました。

公共施設のあり方については、厳しい現状の中でも、地域の課題解決に向けて市民自らも考えていくということが重要というまとめになりました。



グループワークの様子



グループ発表の様子

## ◆前回のふりかえり・本日の作業の流れ（ファシリテーターより）

### 【前回のふりかえり】

本日は、最終回 3 回目となります。  
「いっしょに考えよう！ 市川市の公共施設」ということで考えてきましたが、今回は「市川市らしい公共施設のあり方を考えよう」というテーマで行ないます。これまでの成果として 1、2 回目の成果を壁に貼ってあります。

1 回目は、普段、皆さんが利用者として感じられていることをイラストで描いていただきました。

2 回目は、主に学校施設、集会施設について、「課題」、「大事なこと」、「将来に向けて」ということについて意見をいただきました。

学校施設については、「地域に開かれた環境」「地域の交流」「統廃合」などの意見をいただきました。集会施設では、「人々が集まる仕組みの大切さ」、全体としては地域性やアクセス、周辺環境のことについて様々な意見が出ていました。



前回のグループワーク成果を掲示

### 【本日の作業の流れ】

3 回目は、まとめになりますが、「キャッチコピー」「キーワード」を出していただきます。

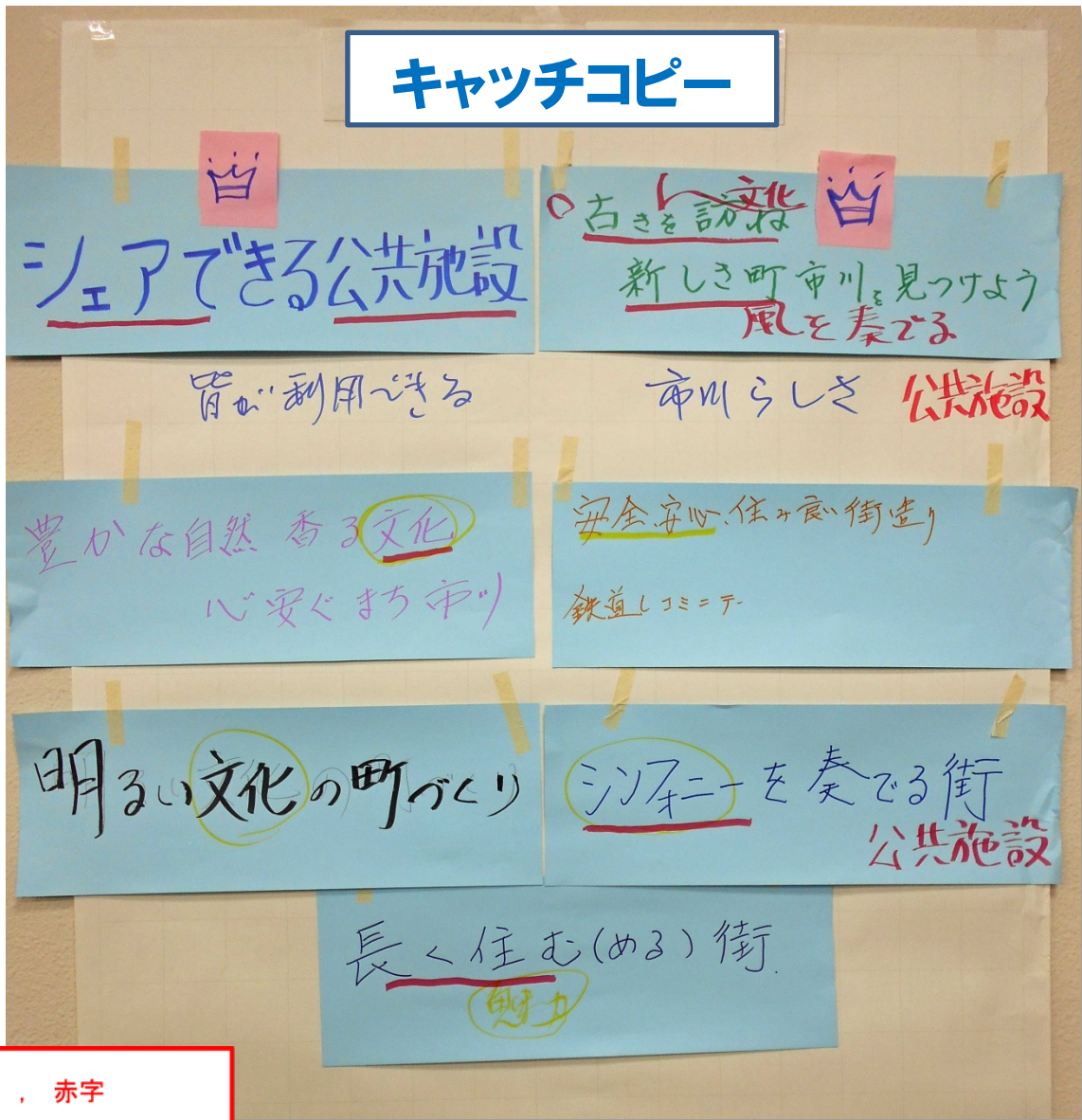
- まず、グループのメンバーが変わっていますので、あいさつから始めてください。
- 「キャッチコピー」についてはグループ内で意見交換し「おすすめ案」を選んでください。
- グループワークの後半は、「自分たちができること」について意見を出していきます。
- グループ発表は「キャッチコピー」「キーワード」について行ない、そこで意見交換します。
- 今後に向けてのところで「自分たちができること」について見ていきます。
- 今回は最終回ということで、最後に 1 人 30 秒程度で「感想」をいただきます。



ファシリテーターが作業の流れを説明

◆グループワークおよび発表概要

Aグループ



——, 赤字  
はファシリテーターが記入

シエアできる公共施設

安全・安心・住み良い街づくり  
鉄道・コミュニティ

長く住む(める)街

文化  
古きを訪ね、新しき町市川を  
見つけよう 風を奏でる公共施設

明るい文化の町づくり

豊かな自然香る文化  
心安らぐまち市川

シンフォニーを奏でる街  
公共施設

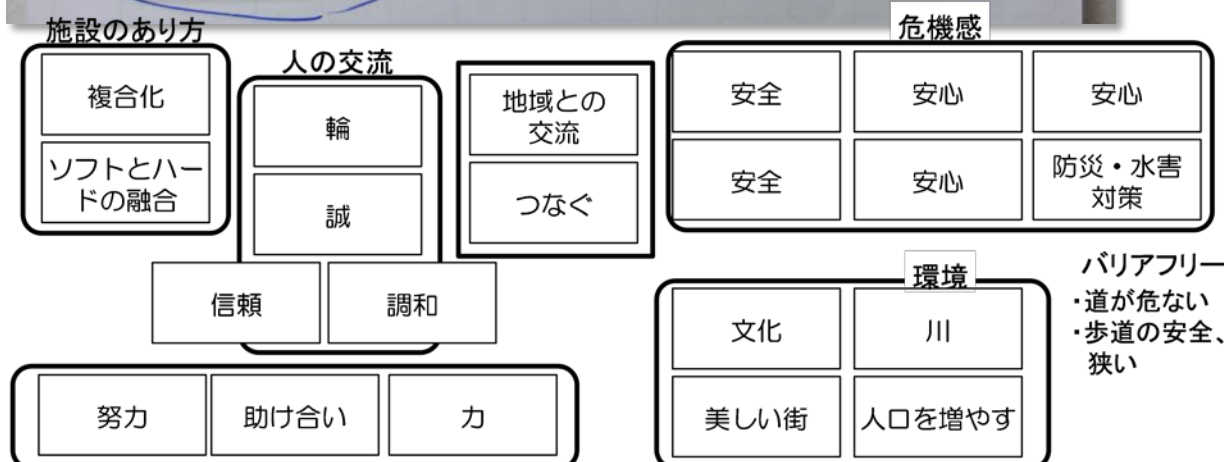


発表

・古い寺や神社があり、文人もたくさん住んだ町なので、その古さを残しつつ若い世代の方達が新しい町を見つめ、調和を奏でていけば楽しい明るい文化の町になり、長く住める町になるのではという思いです。

・「シエアできる公共施設」の意味として、ひとつは安全安心で住み良い施設をみんなでシエアすること、建物の複合化をハード面として整備することで、いろいろな人の目が集まり安全安心につながるという意味です。もうひとつは、民間のサービスや資金を活用して施設を長く使っていくという、官と民でシエアするという意味です。

# キーワード



バリアフリー  
・道が危ない  
・歩道の安全、狭い

発表



・施設のあり方として「複合化」と、物の使い道をどのようにしていくのかということ、震災などの「危機感」、その他「バリアフリー」など、「安全安心」というキーワードが出ました。  
 ・また、「信頼」「輪」「調和」は、人との信頼関係や、地域性の「調和」を表しています。  
 ・「環境」としては「川」や「文化」、特に市川の名物である江戸川をうまく活かしていけると良いという意味です。  
 ・「努力」「助け合い」「力」は、みんなで力を合わせてやっていくことを意味します。

## キャッチコピー

公共施設

歴史と文化と現代の調和のとれた街 ★

持続可能な社会 市川

次世代へ  
みんなの市川大切に

海と川のある町 市川 ★

おだやかな町、親切な人々  
安心な暮らし 市川

赤ちゃんからおじいちゃんおばあちゃんまで  
安心して利用の出来る施設に! ★

つながり、出会いから  
フレキシブルな交流の輪  
松と梨の市川

市民とつくる ★  
市民を育む 市川市 公共施設

みんなで作る安全安心笑顔  
公共施設

みんなの輪をつなぐ公共施設

———, 赤字  
はファシリテーターが記入

歴史と文化と現代の調和が  
とれた街

次世代へ  
みんなの市川大切に

つながり 出会いから  
フレキシブルな交流の輪  
松と梨の市川

持続可能な社会 市川

おだやかな町、親切な人々  
安心な暮らし 市川

市民とつくる ★  
市民を育む 市川市 公共施設

海と川のある町 市川

赤ちゃんからおじいちゃんおばあ  
ちゃんまで安心して利用の出来る  
施設に!

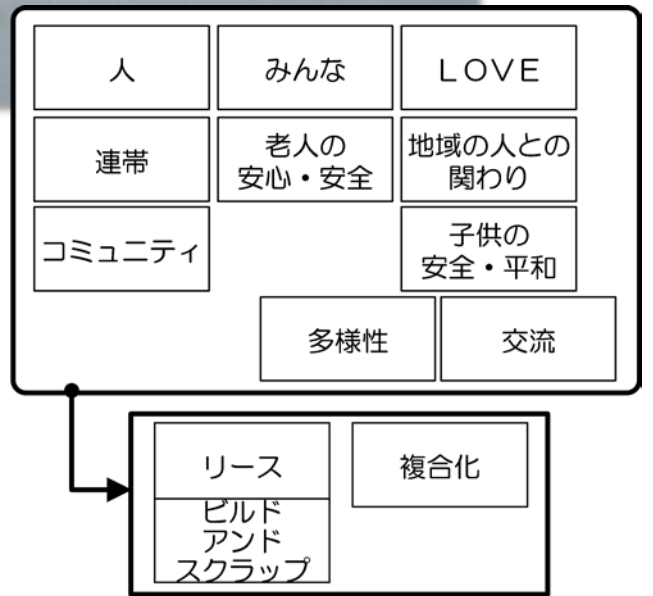
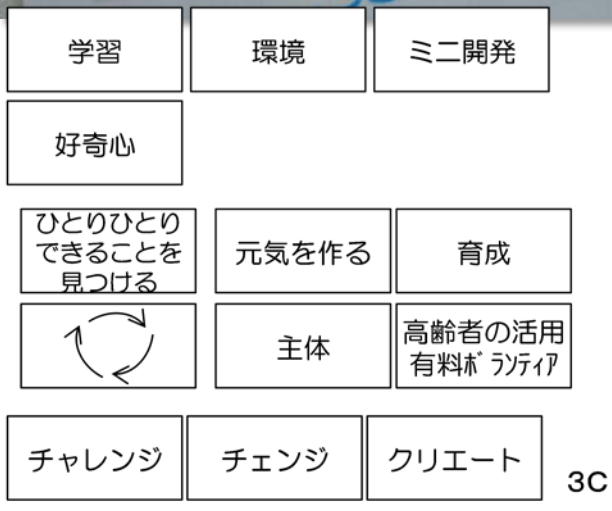
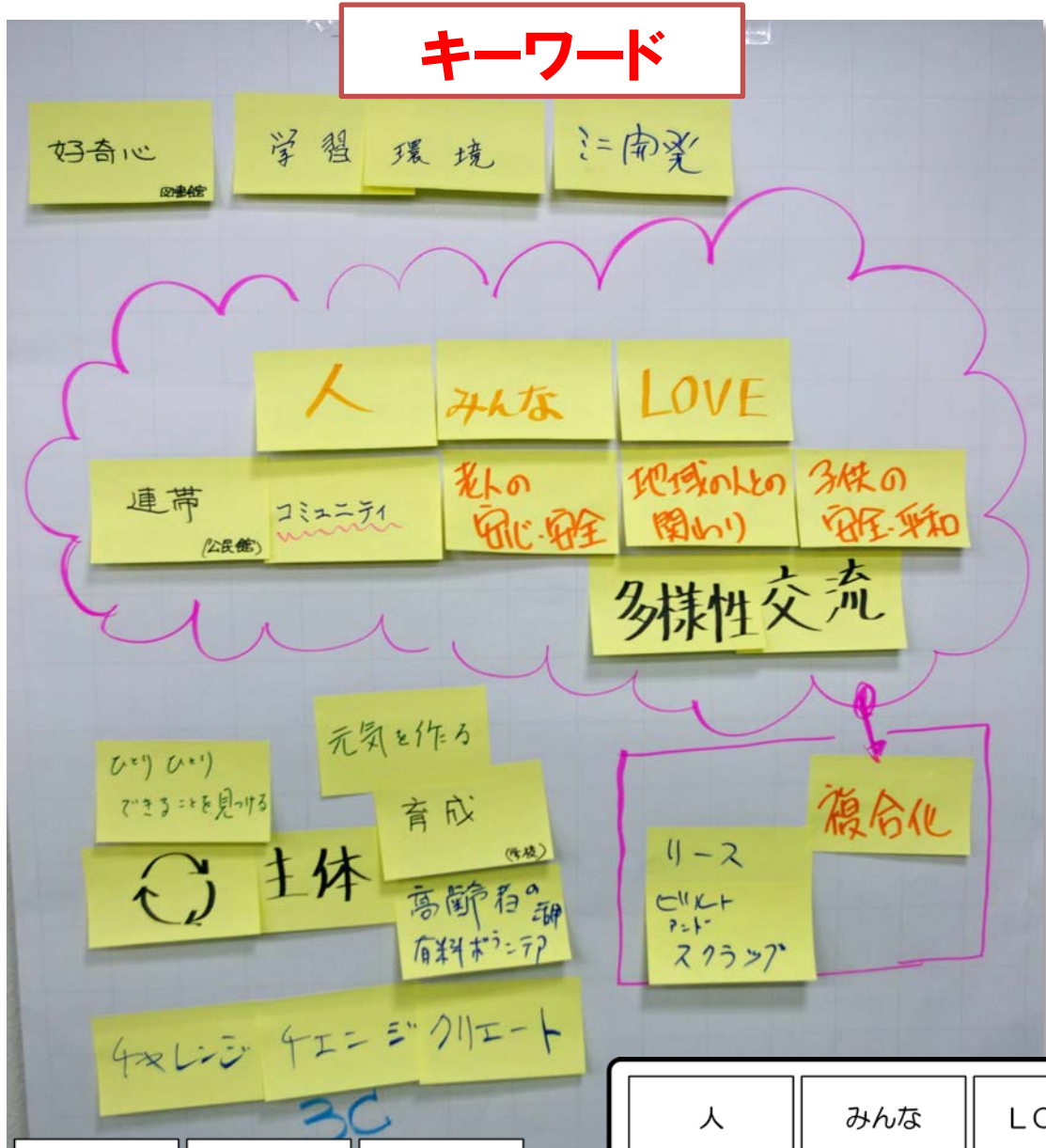
みんなでつくる安全 安心 笑顔  
みんなの輪をつなぐ公共施設



発表

- キャッチコピーとしては市全体のことと公共施設に関わることを2つに分かれます。
- 全体としては市川市民として誇りに思い、歴史文化と現代の調和がとれているテーマです。
- 東京の別荘地として文人が多く住みついていたということ、東京近郊で近代的な施設もあるという市川の誇りを出していきたいと思えます。
- 狭いけど海があるという環境で、市川市はいい町と思うが、もっと良くして若い人が住み育てできる環境でないといけない。
- 歴史文化、海から川まであり、赤ちゃんから高齢者まで安心して利用できる施設が必要です。

# キーワード



## 発表



- ・市川は施設数が多いが、まとまっていないので複合化が必要です。
- ・地域ごとに土の香りがする言葉で表現する事が求められています。その言葉にブランドがあると思います。市川は宿場町と梨があります。
- ・高齢者と若者の接点がないので、複合化が求められ、それにより出会いが生まれ、やさしい市になるのではないかと思います。

# キャッチコピー

あなたがつくる市川  
参加する公共施設

躍動する市川市  
支える公共施設・市民  
(元気で自助努力も考慮する市民)

市川(市)で楽しむ  
公共施設

都市と自然の融合

交通網

住みやすい街  
人と自然 市川

人と自然にやさしい市川

梨の産地 市川

静かなる時限爆弾 地方自治法244条

——, 赤字  
はファシリテーターが記入

あなたがつくる市川

参加する公共施設

住みやすい街

人と自然 市川

静かなる時限爆弾  
地方自治法244条

躍動する市川市

(元気で自助努力も考慮する市民)

支える公共施設・市民

人と自然にやさしい市川

都市と自然の  
融合

交通網

市川(市)で楽しむ

公共施設

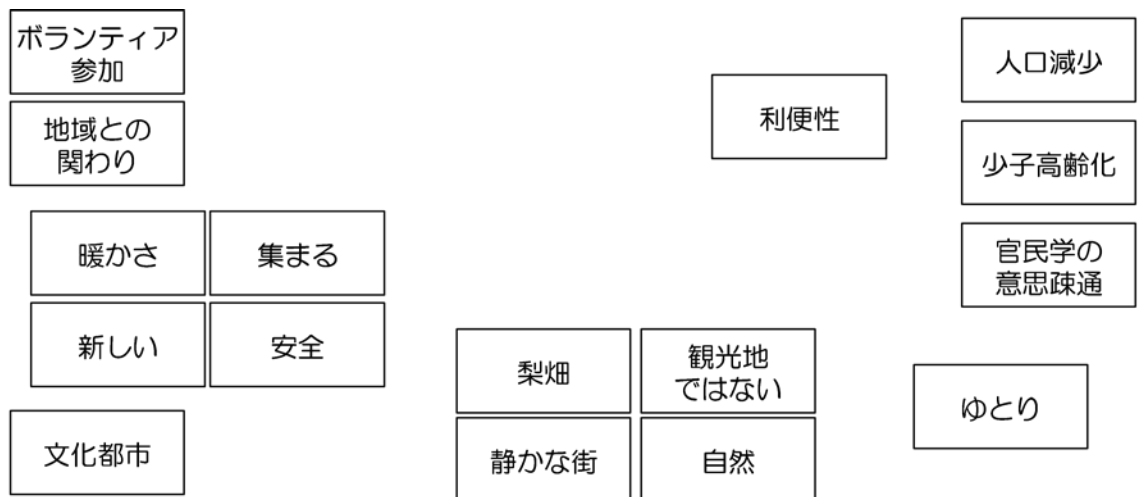
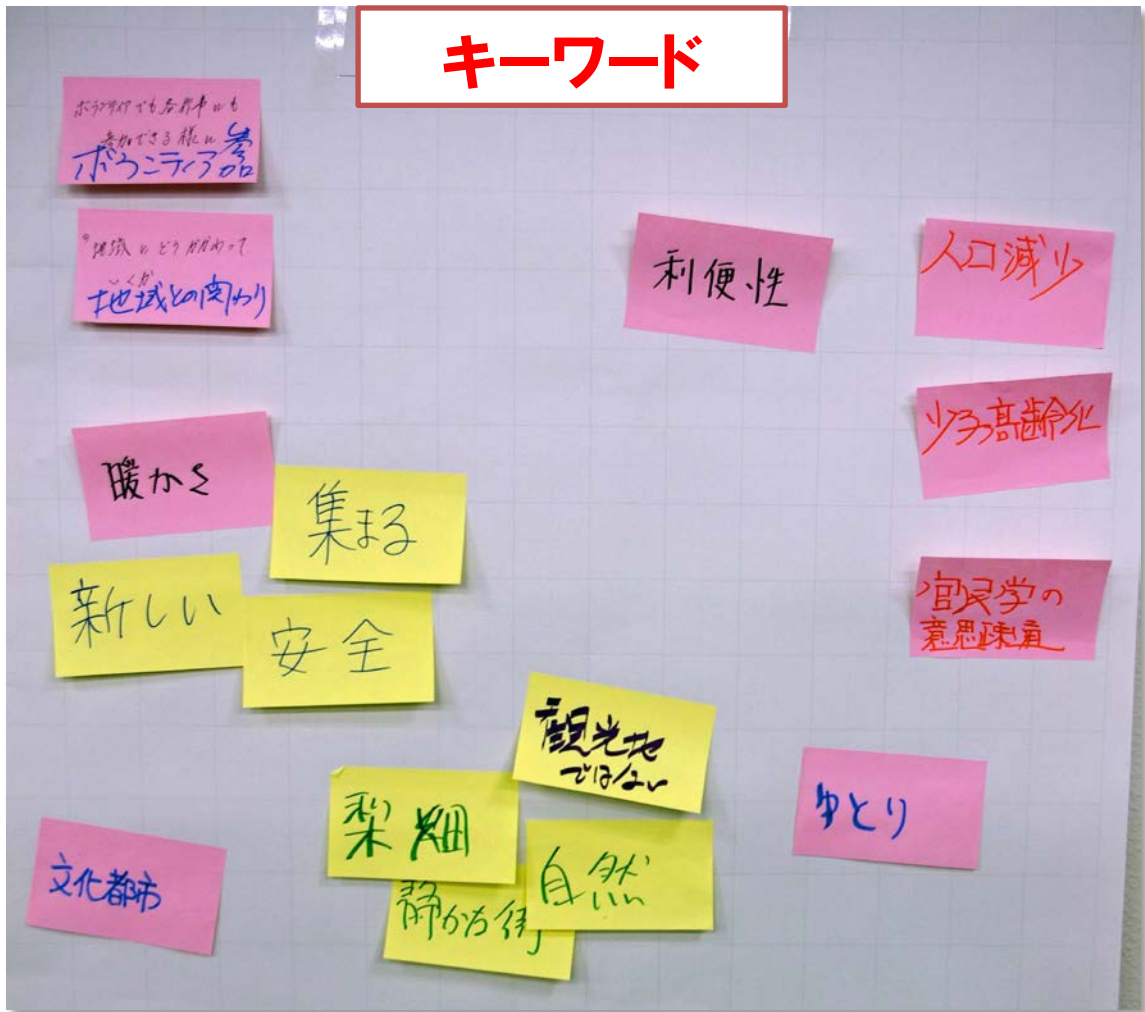
梨の産地 市川

発表



- 市川は自然があるまちと、もう一つは東京に近い都市型のまちの2つに分かれます。
- 自然も豊かに使えるようなことができればいいと思う一方で、高齢化と人が減るという課題も抱えています。
- ボランティア関係や地域の行事、また子どもや高齢者が集えるサロンに参加するなど、自分たちが参加することが非常に重要で、周りを巻き込んで何でも皆でやってみることが大事です。

# キーワード



発表



- キーワードとしては「地域の関わり」として「ボランティアに参加」すること。
- 観光も多少は意識しなければならない。
- 文化の都市、都市化の進んだ町という魅力がある。
- 大町の梨畑をアピールして、山梨のように観光の場として工夫も考えたい。
- 市の縦関係ではなく、横関係として市民と一緒にまちづくりに関わることが必要。
- これから15年、20年、全国で公共施設の課題に取り組んでいるので、行政も頑張ってもらいたい。



## キャッチコピー・キーワード

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
キャッチコピー	<ul style="list-style-type: none"> <li>古い寺や神社、文人もたくさん住んだ町、その古さを残して、若い世代新しい人が調和を奏でていけば楽しい明るい文化の町になって、長く住める町になるのではという思いです。</li> <li>今の意見は市川市全体のキャッチコピーですが、補足として「シェアできる公共施設」を挙げました。この意味として、ひとつは安全安心で住み良い施設をみんなでシェア すること、建物の複合化をハード面として整備することで、いろいろな人の目が集まり安全安心につながるという意味です。もうひとつは、民間のサービスや資金を活用して施設を長く使っていくという、官と民でシェアするという意味です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャッチコピーとしては市全体のこと、公共施設に関わること2つに分かれます。</li> <li>全体としては市川市民として、市川を誇りに思って、これからこうありたいということを含めて、歴史と文化と現代の調和がとれているというテーマを入れました。</li> <li>東京近郊にあって、貝塚があり数千年前から人が住みついていた町ということ、東京近郊で近代的な施設もあるということです。こういう市川の誇りを出していきたいと思います。</li> <li>以前住んでいた川崎は、多摩川があって市川と似ています。狭いけど海があるという良い環境ですが、もっと住みよくすること、若者も住まないと人口が増えません。若い人が子育てできないといけません。</li> <li>「歴史文化、海から川まで、赤ちゃんからおじいちゃん、おばあちゃんまで安心して利用できる施設」だと思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市川はどういう所かを考えると、大町みたいに自然があるまちと、もう一つは東京に近い都市型のまちの大きく2つに分かれると思います。</li> <li>両方を一緒にやっけていこうと思うと、なかなか難しいのではないかと、それにはどうしたら良いかということ、自分たちが市川で何ができるかみんなでやっていこうじゃないかということと、参加することが大事だと考えました。</li> <li>一方で、高齢化で人が減るという課題も抱えています。</li> <li>参加して周りを巻き込んでいくこと、何でも皆さんでやってみることが大事。ボランティア関係や地域の行事、また、子どもや高齢者が集えるサロンなど、できるだけ参加して、それによって自然も豊かに使えれば良いと思います。</li> <li>自分たちで参加してまちを作っていく、周りの人たちを巻き込んでやっていくというのが一つの大きなテーマであると思います。</li> </ul>
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>キーワードでは、施設のあり方として「複合化」、物の使い道、震災などの「危機感」、「バリアフリー」などの「安全安心」、また、「信頼」「輪」「調和」は、人との信頼関係や、地域性の「調和」を表しています。</li> <li>「環境」としては「川」や「文化」、特に市川の名物である江戸川をうまく活かしていけると良いです。</li> <li>「努力」「助け合い」「力」は、みんなで力を合わせてやっていくということです</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市川は施設数が多いがまとまっていません。複合化が必要です。</li> <li>いろんな地域で、土の香りがする言葉で表現する事が求められていると思います。その言葉にブランドがあり、市川には宿場町と梨がある。</li> <li>高齢者と若者の接点がないので、複合化が求められ、それにより出会いが生まれ、やさしい市になるのではないかと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キーワードは、「地域の関わり」として「ボランティアで関わる」こと。</li> <li>観光も意識しなければならない。</li> <li>文化の都市、都市化の進んだ町という魅力がある。</li> <li>大町の梨畑をアピールして、山梨のように観光の場として工夫したい。</li> <li>市の縦関係ではなく、横関係として市民と一緒にまちづくりに関わることが必要。</li> <li>15年、20年、全国で公共施設がどうあるべきかに取り組んでいるので、行政も頑張ってもらいたい。</li> </ul>

## 意見交換

### A 「古き文化を訪ね、新しい風を奏でる公共施設」。

- 風は新風、若者といった意味で、「シンフォニー」でもいいですが、「奏でる」の方が調和の意味があると思います。

### B 「市川市民が育む公共施設」

- 一般的ですが、市川の交易と川の歴史も表しています。

### C 「市川市で楽しめる公共施設」

- 市川市に来てもらうという意味でしょうか。市川市の魅力に来てもらうということでしょうか。地元も他も両方という意味で。

#### 「市川を楽しむ公共施設」

##### 「エンジョイ市川」

- 参加してみんなで工夫して考えることを楽しむということ。

#### 「躍動する市川市、支える公共施設」

##### 「躍動する公共施設、支える市民」

- 何か外部に対する言葉のインパクトが必要かと思います。

### B 「みんなで作る安全安心笑顔、

#### 躍動する市川市」

##### 「みんなの輪をつなぐ公共施設」

- 市川市の方言があれば方言で言い換えると良いと思います。

## ファシリテーターコメント

- 今、公共施設再編は全国で検討されていますが、まだ始まったばかりですので、どのように再編していくかという方針の言葉は出来上がっておらずこれからです。
- キャッチコピーは、公共施設を今後どうしていくかを表すものなので、最後に「公共施設」を入れて検証してみましょう。
- 言葉を工夫して、よりよいキャッチコピーを考えてみましょう。

### ・「古き文化を訪ね、新しい風を奏でる公共施設」

#### 「シンフォニーを奏でる公共施設」

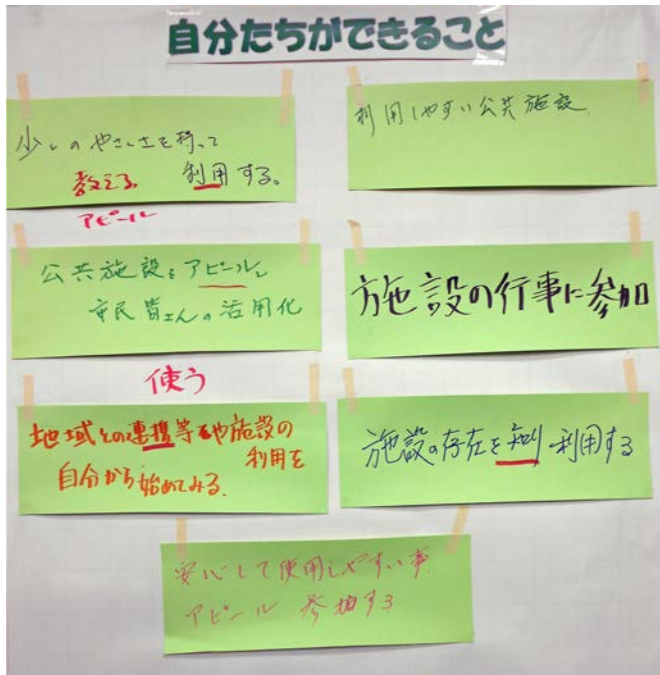
### ・「あなたが参加する公共施設」

前者はどちらかということ市川らしさをベースにした例です。一方で後者は一般的な表現ですが重要なことです。

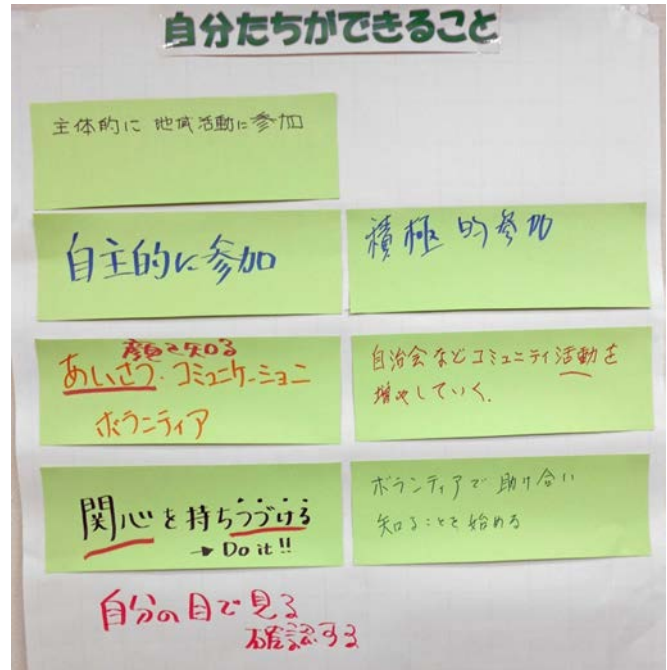


# 自分たちができること

## Aグループ



## Bグループ



発表



### 「地域との連携や設備の利用を自分から始める」

- 複合化により様々な人が集まることで、地域の連携が可能になります。自分から地域との連携や施設利用を積極的に行っていくことが重要と考えました。

発表



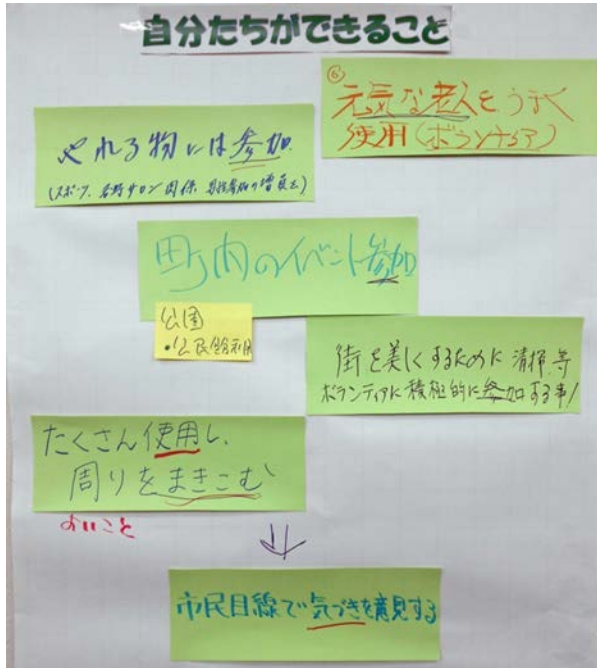
### 「あいさつ・コミュニケーション・ボランティア」

- 私達ができることはあいさつです。コミュニケーションをとり、ボランティアに参加してみるのも自分たちができることだと考えました。

### ～第3回ワークショップを終えて～

ワークショップが始まる前までは、公共施設について深く検討したり、利用することのない参加者も多数いらっしゃいました。しかし、回数を重ねるにつれ、全体的に縮減の方向で施設を見直していかなければならないという厳しい状況の中でも、市川市の「歴史文化が薫り、自然環境が豊か」といった地域特性等に配慮しながら、市民が自ら考え、行動し、創意工夫で乗り切るという考えに至りました。

## Cグループ



発表



### 「たくさん使用し、周りを巻き込む」

- 公共施設はあまり活用したことがなかったので、まず利用してみて、その良さや魅力を近所の人や職場の人などみんなに知らせることが自分達にできることだと考えました。

## ファシリテーター コメント

- キャッチコピーと共通する「参加」「巻き込む」「関心を持つ」「アピール」「連携」など、重要なことが出されました。市民の皆様が動けば良い方向の変化につながっていくと思います。

### ＜Aグループ＞

まず自分から利用すること、施設が使われることでそこに人が集まり、地域の人との連携が図られることと思います。

### ＜Bグループ＞

あいさつが互いのできる状況になるために、自分から行動していくこと、まずは顔を知り、知り合いになることはとても大事なことです。

### ＜Cグループ＞

特に集会施設は様々な種類がある中で、実際に利用してみることで、施設の良さや大きな課題などが見えてきて、再編する時にみんなを巻き込んで一緒に考えていくということにつながられると思います。

### 「公共施設への関心を 継続していく」

まさに市民の皆さんに考え続けていただくというワークショップにふさわしい意見でした。

## 5. ワークショップ全体のまとめ

### ◆総 評（ファシリテーター：志村先生より）



皆さんお疲れ様でした。このワークショップという手法は、最初にご説明したように、皆さまよりアイデアや発想をいただくものですが、私の専門分野であるまちづくり・都市計画ではよく使われる手法です。ただ、今回のような「公共施設を再編していく、節約していく」というテーマは、縮減、縮小という、どちらかというところ寂しい、要求が多くなる難しいテーマです。

ワークショップのまとめとしては、3点お話をさせていただきます。

1点目は、公共施設の問題は、市川市だけでなく、日本の自治体すべてに直面していく問題ですので、皆さんもこの壁をどう乗り切るかということを考え、私としても様々な自治体と一緒に考えていかなければならないと思っています。

難しいワークショップなので、アンケートでも3回では少ないのではないかとといった意見もありましたが、行政が積極的に市民の声を聴くワークショップをやったということの評価いただければと思います。

2点目は、3回という少ない回数でしたが、今日も本当にいいキャッチコピー、キーワード、自分たちできることが出されました。

振り返ってみると、第1回はイラストを描いていただきました。まずは市民として利用している人の実感として表現していただいたところでした。施設に限らず、周辺環境、備品の使い勝手に対しても意見をいただきました。2回目では、重要な課題として例えば「交流」、「複合化」などのキーワードが市民の方々自ら出されました。3回目では、毎回の宿題などがあって大変だったと思いますが、しっかりした成果が出て良かったと思っています。

3点目は今後のことですが、先ほど話しました「今後、公共施設をどうするか」については国全体の問題です。私は以前、文部科学省で行われている学校施設とその他の公共施設をどう複合化していくかという検討会の委員を務めていました。学校施設の場合は、特に地域との関係を考えてコミュニティづくり・交流促進を図っていくために、どう複合化していけば良いのかということを検討する必要があります。

市川市においても市民参加のもとで公共施設を検討していく方針ということですので、市民の方とこのような意見交換、交流するという機会が必ず出てきますので、今後も積極的に関わっていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

## ◆市川市・経営改革室長のあいさつ

10月31日から本日まで合計3回にわたり、貴重な土日を使ってご参加いただきありがとうございました。

これまで、公共施設をどうしていくかという基本的な考え方を定めるにあたり、市民アンケート、ワークショップを手始めに進めてきました。この中で3つの驚きと感動を覚えました。

1つ目は市民アンケートの回答率の高さです。通常、医療、福祉、保健、交通といった市民アンケートでは30%~40%といった回答率ですが、今回はそれを遥かに超える55%以上の回答率があったということです。

2つ目の驚きは、今回、アンケートの回答をいただいた中からワークショップの参加を募集しました。本当に集まるかと不安でしたが、20名以上の方から参加の意思を表明していただいたことです。

3つ目の驚きは、今回の参加が初めてという方が殆どだと思いますが、今回の方式は市民討議会方式というドイツで行われている市民参加の手法を使いました。通常は公募で募集して手を挙げた人が参加するのですが、今回は無作為に選んだ人の中から参加いただく、市川市で初めての方法をとりました。

その結果、3回にわたり、明確な考えをもって、的確なご意見をいただいたことです。改めて市川市民の皆さんの意識の高さを認識させていただきました。

これから、具体的に施設をどうするか、あるいはどのような考えで進めるかという具体的な話に入っていきます。様々な意見、実際には反対意見も多いかと思います。その中で、参加の皆さんにサポーターになっていただき、ご意見、ご批判を頂きながら計画をつくってまいります。今後も様々なところでお声かけすることもあるかと思いますが、その節にはよろしく願いいたします。ありがとうございました。

## ～ あとがき ～

この度は、全3回のワークショップにご参加いただきありがとうございました。

ワークショップの中でもご説明いたしましたとおり、本市では、施設の老朽化の進展や人口減少および人口構成の変化に伴うニーズの変化、さらに厳しさを増す財政状況など、公共施設を取り巻くこれらの厳しい現状や課題をいかにして克服していくかという、今後の公共施設全体を長期的な視点で見直していくための計画策定を進めています。

この計画策定を進めるにあたり、配慮すべき事項のひとつとして「市民との情報共有、合意形成を図る」を掲げました。公共施設を利用する市民の皆様に関わる課題であることから、まずは情報提供をし、様々な立場の方の意見を聴くことが重要であると考えています。

このため、策定作業は、まずは市民アンケートを行うことから始め、今回のワークショップへとつなげてきました。

本市におけるワークショップの取組みとしては、これまで、各分野における計画策定や事業の実施段階において積極的に実施してきました。現在は、市役所庁舎建替えに伴い、新たに庁舎内に設置される市民活動や交流のスペース（協働テラス）の配置計画や協働のあり方を考える「新庁舎建設市民ワークショップ」を平成26年度から実施しているところですが、公共施設全体の今後のあり方をテーマとするワークショップは初めての取組みとなります。

今回のワークショップ実施にあたっては、主に以下の4つの「ねらい」がありました。

- ①計画の策定を市民参加のもとで進めること。  
※特に、これまで市に対して意見を言う機会の無かった方に参加いただき意見を聴くこと。
- ②本市の公共施設の現状を周知すること。
- ③得られた意見やキーワードを計画策定に取り入れていくこと。
- ④公共施設に関する市の取組みに対して、共に考えていただける意識の高い市民を探し出すこと。

まず、①につきましては、前述したとおりの経緯で進めてきました。また、参加者については、経営改革室長の挨拶でも申し上げましたが、これまで参加経験のない方に参加していただくため、一般的に行う広報等での公募や市民活動団体等の推薦を行わず、市民アンケート回答者の中からの応募のみに限定いたしました。その結果、市民アンケートをきっかけとして初めてこのような場に参加したという方が殆どで、従来の方法では聴くことのできない方々の貴重なご意見をいただくことができました。

②につきましては、先に実施しました市民アンケートの中に、市の現状や課題を示す基礎資料を添付しました。この結果、多くの方に関心を持っていただき、今回のワークショップ実施へとつなげることができました。また、ワークショップを通して皆様から、情報提供、PRが重要であるとの意見を多数いただき、さらにその重要性を再認識いたしました。

③につきましては、全体的には統廃合などによる総量削減はやむを得ないことを認識したうえで、防災や安全性、利便性、多世代交流など、多面的な要素で施設の有効性や妥当性、効率性を検討していくとともに、単に統廃合だけでなく複合化や民間活力の導入といった様々な手法を用いて課題を解決していくことが必要であると改めて認識しました。さらに、市の資産である歴史や文化、自然環境などの地域や人との調和といった視点も重要であると考えています。

④につきましては、最後に意見交換された「自分たちができること」の中で、「自らが積極的に参加し、周りを巻き込んでいくこと」「公共施設への関心を継続していくこと」が出されました。皆様の意識の高さを感じるとともに、今回のワークショップの最も大きな成果でもあると考えています。

今回のワークショップは、全3回をわずか1ヶ月という期間の中で実施したため、配布資料や宿題も多くなりました。皆様からも3回という回数では少ないという指摘や、もっと個別具体的な施設についての議論がなされると思ったというご意見もありましたが、今回は公共施設の全体的な考え方について皆様のご意見お聴きし、将来の方針をまとめていくために開催いたしました。

回数や期間の短さについては、打ち合わせの中で志村先生からもご指摘がありました。また、市民との「合意形成」については、「企画の段階から市民とともに考え、何度も話し合いや意見交換を重ね、共通認識が図れて初めて言える言葉であって、最初から使うものではない」とのご注意もいただいたところです。

志村先生がファシリテーターとして参加されている、さいたま市のワークショップは、学校施設の建替えに伴う複合施設整備について、企画の初段階からワークショップによる参加手法を取り入れ、市民とともに3年の期間をかけて整備計画を作り上げるといふ、まさに市民との合意形成を実践した先導的な取り組み事例です。

本市では、今年度策定する全体計画をもとに、来年度以降、用途ごとの個別施設についての検討が進められることとなります。皆様には、今回のワークショップ参加をきっかけに関心を継続し、高めていただければと考えています。一方で、市からも積極的に情報を発信し、進捗の各段階に応じて、ワークショップなどの参加の機会や場を設けてまいりますので、引き続き公共施設等の総合管理に関する取り組みにご意見、ご助言くださいますようお願いいたします。

【市川市 経営改革室 経営改革課】



## 6. 参加者アンケート

- ◆市川市の公共施設の課題について、現時点でどのようにお考えでしょうか？ 課題の重要性や解決の方向性など、ご意見等をご記入ください。（第1回、第3回）

第1回アンケート
一度未収金の確認を。年間数億円の回収がされていない。資金的にある程度解決できる可能性はあると思います。
今のところはなし
欠席
意見なし
1.安全性（道路状況の悪さ） 2.学校施設 3.集会施設 の順でしょうか。
学校に時々伺うことがあり、空室が多い。できれば保育所や老人用に使えたらと思う。
あまり使用しないので？
合理化の必要はあるが、基本的な施策（公園や公衆トイレ）などの管理をしっかりとって欲しい。
イス、テーブルなどの使い勝手の悪さ。
銀行等のように統廃合して、さまざまな節減を考えるのも方法の1つだと思います。
魅力ある市川市造りで、いかに税収をあげ、どのように予算配分するのが必要だと思う。
安全性、役割
やはり老朽化により全てを対応することはむずかしいと思います。集約、複合化は良いと思います。あと、他の市町村で見る図書館の民営化の検討をすることとなるのでしょうか。
新規建築については問題有り
市の財政がゆるす中で、身の丈にあった施設へ統廃合が必要と思われる。
インフラの進め方おそい。
遊休地、学校、空家 活用。
これからは、人口が減少しつつあるので、施設の利用率を確認して減らすべきか、補修しながら利用していくか考えていくのがよいと思います。
欠席
公共施設は民間施設とは異なって、利益を追求する施設ではないことから、利用率なども重要ではあるものの、それ以外に公共で行うことの意義を考えながら、維持すべき施設の優先順位を決めてほしい。
2012年まで海外（東南アジア）で働いており応答難しい。今後考える。
現状、県立生涯大学で学んでいる。他の市の情報を得て研究する。
欠席
老朽化対策について、利用状況が中途半端である建物が多いため、社会的な役割と安全性の観点から、建物を整理して計画をしてもらいたい（建替えや用途変更、大規模改修など方向性）

※お一人の回答を同行に記載しています。

### 第3回アンケート

ボランティアでの使用とサークル等（資金を取ってやっている）との利用方法を考えてほしい。予約の取り方に工夫を。

複合化の計画では、地域の特性（人口、地理、歴史等）を含めて欲しい。一方的な計画にならないように。公共施設、公民館等がたくさんあると聞きます。いくつかを整理してその分コミュニティバス等で利用しやすく考えて頂けるとありがたいです。

財源が足りないということが十分にわかりました。現状に立ち止まるのではなく、市川市全体として広く課題を知り、前向きに受け入れられるようになると良いです。

欠席

施設の広報、広く多数気軽に参加できるイベント等の開催等があったらと思う。

新旧ははっきりされたら良いと思う。処分には賛成です。

欠席

スタッフの若返りと、魅力ある企画力を求めたいと思います。

はっきり言って余り使用していない施設は統廃合すべきだと思います。もし新しい建物へ移行するなら外観の美しいもの、市川市の建物とわかるようにした方がいいと思います。

民間委託も必要でしょうが、商主義（利益優先）には気をつけたい。Co-work という形がいいかと。

1.公共施設の老朽化、整備、利用が便利さ 2.再建の為に積立 3.維持管理の運営（食料の確保、水等）

人口が増えている地区、減っている地区あり、集約していくことはやむなしといった感じはあります。利用するための交通手段を考えればと思っております。

市の財政を考えると、扶助費の増大、及び65才以上の人口増加を考えると施設建設等費用が確保できるのか？ ①増税をするか②福祉を削減するか③建設を抑えるか しかない。市の方針は？

保育園、小・中学校については、若い世代を市川市に呼び込む観点からも、改革案を考えてほしい。

集約、複合化、リースの考え方の方向へ。

皆様のご意見を伺って、安心安全に過ごせて、古きを知り、老人から若い方々まで皆さんが関心を持って公共施設が利用できるようアピールし、市民の皆さんが一体に明るく楽しい市川であるように願っております。

地域によって利用率の高い所と低い所がある。無駄を出さないことから検討が必要。

利用率を高めることが必要：老朽化への対応、プログラムなどソフト面についても市民ニーズにあった内容へと更新が必要。

学校は5階建てが多く公民館等は2～3階、大修理等で経費の削減可能では？

公共施設について全般的なことを広報PRしていくことで、広く市民に知ってもらうことから始めた方がよいと思います。

意見なし

◆ワークショップへの参加を通じて感じたことなどをご記入ください。

意見・感想
市の状況、市民の考えの多様な事、色々知ることができて、参加できてよかったです。ドイツ方式のワークショップとのことですが、市民参加できる話し合いはこれから増えていって欲しいと思います。
いろいろな市民の方達と知り合えたのは良かったが、ワークショップのやり方はなじめなかった。
とても面白かった。市民として市政に参加することの意義を感じました。
見識のレベルが高い市民が参加し、とても楽しく市川について勉強できました。
いろんな方の意見が聞けてどれも素晴らしく大変勉強になりました。今回は参加させて頂きましてありがとうございました。市役所の方は大変ですが、市川市が魅力的になるようにどうぞよろしくお願い致します。
様々な意見が多く勉強になった。
勉強になりました。テーマをしばってください。
とても参考になった ありがとうございます。
市川市で生まれ、育ち過ぎて参りまして、ワークショップに参加できまして、意見を言え、皆様のいろいろな意見を伺い、市川市民であることがよかったとあらためて嬉しく思っております。市川市の今後の発展を願っております。
市川市の公共施設について理解が深まりました。これがいかに生かされるか？
勉強できた。市のことを「やってもらう」から「やっていこう」という気持ちになれた。このままで終わらず、関心を持ちつづけたい。
市川市をもっと大切に、大事にしていきたいと思います。市民が市川市を好きになる事はとても重要なことだと思います。
市川市について知らないことがたくさんありました。ワークショップを運営して下さった職員や他の皆様ありがとうございました。
色々な意見が有り、参考になった。若い人や中高年の参加がもう少しほしかった事と、良く利用している団体が参加したら良かったのではないかな。
初めての参加で市川市を具体的に知る事 勉強する事が出来た。

市川市公共施設に関するワークショップ  
「いっしょに考えよう！ 市川市の公共施設」  
実施報告書

発行日：平成27年12月

編集・発行：市川市 経営改革室 経営改革課

〒272-8501

千葉県市川市八幡1丁目1番1号

TEL：047-334-1111（代）

# 答 申

## 行財政改革大綱

### 第1次アクションプランについて

#### (2) 公の施設の経営効率化

平成26年4月25日  
市川市市政戦略会議



## はじめに

本答申は、平成 25 年 5 月 15 日に市長から諮問された「行財政改革大綱第 1 次アクションプランについて」のうち、「(2) 公の施設の経営効率化」に関して、答申するものである。

当会議では、道路及び下水道等のライフラインや学校を除く市内全ての「公共施設」を議論の対象とし、今後、本市が公共施設をマネジメントする際に重要視すべき評価の視点や、公共施設の短期的な経営の効率化に関する内容を中心に審議を進めた。

公共施設を評価する際の視点については、何より利用の主体が「市民」という大原則に立ち、「市民感覚」という視点を最重要視した。その上で、民間的な経営意識や行政の社会的責任といった視点も加え、公共施設を一面的に評価するのではなく、社会背景等も考慮した多面的な評価をするよう提言したものである。

公共施設の短期的な経営の効率化に関しては、多くの施設の使用料が無料となっていることが大きな問題点として浮上した。各施設が無料であることに関しては、案件によっては根拠となる法令や条例等を有しているケースもあるが、当会議の議論としては、創意工夫によって有料化を図るべき方向性が示された。ゼロ・プライスはモラル・ハザードを生み出し非効率となるから、安価でもいいから有料とすべきである。

本市においても多くの公共施設が高度成長期に建設され、それらが今、一斉に大規模修繕や建て替えの時期を迎えようとしている。アベノミクスの効果等により、株高・円安が誘導され、マクロの日本経済は徐々に回復の兆しが見えつつあるが、ミクロの市民生活は実感としてまだまだ厳しい状況が続いていると思われる。こうした現状を踏まえると、公共施設を巡る様々な対策はまさに待ったなしの状況であり、本市が取り組むべき施策としての優先度は極めて高い。

公共施設の経営効率化を、「市民の暮らし向きを良くするため」に推進すべきである。そのために、抜本的行財政改革を断行するよう強く要望する。

平成 26 年 4 月

市川市市政戦略会議  
会 長 栗林 隆

## 目 次

I. 本答申の概要と審議事項	4
1. 諮問内容と審議事項について	
2. 本答申の対象施設について	
3. 公共施設の現状	
4. 公共施設の課題	
II. 審議事項①「公共施設の評価」における着眼点に関する提言	8
1. 「評価の視点」について	
2. 「評価の方法」について	
3. 「評価の活用」について	
III. 審議事項②公共施設の短期的な経営効率化に関する提言	13
1. 全施設共通の提言	
2. 対象4施設への提言	
IV. 実効性を高めるための方策について	24
1. 各施設の現状把握とデータの可視化・共有化・一元化	
2. 明確な目標と期限の設定	
3. 設置目的と運用方法の再検証	
4. 市職員の意識改革と組織間の連携強化	
V. 附帯意見について	27
VI. 市川市市政戦略会議委員名簿	29
VII. 会議の開催状況	30



# Ⅰ. 本答申の概要と審議事項

## 1. 諮問内容と審議事項について

本市では、平成 25 年度、厳しい財政状況等に対応し、持続可能な強い行財政基盤を確立するため、これまでの行政改革に「財政改善」の視点を加えた「行財政改革大綱」を策定し、同年 4 月にスタートさせた。また、行財政改革大綱の推進計画として、個別改革プログラムである「第 1 次アクションプラン」を策定したところである。

今回、市長から諮問を受けた「公の施設の経営効率化」は、本アクションプランのプログラムの 1 つであるが、これは、厳しい財政状況や、人口減少、急激に変化する人口構成等を踏まえ、市が所有する公共施設を様々な角度から評価し、経営手法の見直しや今後の施設のあり方等を含めて検討し、取り組んでいくものである。

本プログラムは、「経営効率化」という幅広いものであり、限られた審議時間を効率的に活用するため、事務局より以下の 2 点の具体的な審議事項が提案され、当会議においても、それを足がかりにして議論を進めることとした。

### 審 議 事 項

- ①「公共施設の評価」における着眼点に関する提言
- ②短期的な経営効率化に関する提言

審議事項①は、本市には公共施設の統一的な評価基準がないことを受け、平成 26 年度以降、本市が「公共施設の評価の仕組み」を構築するにあたり、「市川市の特徴」を踏まえた市川市らしい評価基準を取り入れたいとの理由から提案されたものであり、いわゆる長期的な視点で公共施設のあり方を検討するものである。

審議事項②は、公共施設の運営等に関して、これまでも行財政改革の様々な取り組みを通してコストダウン等を実現してきたが、現状の財政状況等を勘案し、更なる経営の効率化を目指すため、幅広くアイデア等を募りたいとの理由から提案されたものであり、短期的な視点で公共施設の経営の見直しを検討するものである。

## 2. 本答申の対象施設について

アクションプラン「公の施設の経営効率化」では、地方自治法第 244 条に定める「公の施設」を対象としているが、当会議では、公の施設以外にも類似の建築物があることから、本市が保有する全ての施設を対象とするため、公の施設ではなく「公共施設」とし、約 760 施設を対象とした。ただし、当該公共施設の中でも、ライフライン等生活に直結している見直し手法が限定されている道路、橋りょう、下水道などのインフラ系施設、また、義務教育の基幹的な施設である学校などについては除外した。

また、対象の数が極めて膨大であることや、5 回という審議回数を踏まえ、対象を絞って議論を展開するものとした。対象を絞るに当たっては、「多くの市民に利用されている施設」、「地域に広く分布している施設」、「戦略会議委員の意向」等を総合的に勘案して選択することとし、図書館、駐輪場、公民館、老人いこいの家の 4 施設を選定し、これらの施設を重点的に審議したものである。

なお、選定した 4 施設については、議論をより深めるため、現地を視察し、現場担当者との意見交換を行い、実感として審議の糧とした。また、本答申は、この 2 つの審議事項に対するそれぞれの審議内容等を取りまとめる形で構成した。

## 3. 公共施設の現状

本市では、昭和 50 年代後半をピークに多くの施設が建設されてきたが、開設から 30 年以上を経過する施設が全体の実に 4 割以上を占めている、というのが現状である。老朽化の進むこうした施設の大部分が、近い将来、一斉に大規模修繕や建て替えなどの時期を迎えることとなり、これに対する経費負担の増大は火を見るより明らかである。

また、先述したとおり、全国的な少子高齢化の進行により、本市でも人口構成が大きく変化してきており、求められる公共施設の種類や用途といったものも同時に変化している。

多くの公共施設が高度経済成長期に造られたものであり、人口減少の局面を迎えた本市においては、その適正な数や規模、各地域への配置などを含め、全庁的な一元管理のもとで再検証を行う必要性が出ている。

#### 4. 公共施設の課題

公共施設のあり方や経営手法の見直しはまさに待ったなしの状況ではあるが、学校・河川・道路を除く本市の公共施設の維持管理等は、実態的には各所管部署の判断で行われており、それぞれの施設の修繕履歴や今後の改修見込み等が一元的に管理されておらず、維持管理経費等の平準化という意味からも、全施設の基礎データの可視化、現状把握を早急に進めることが必要である。

また、人口構成や経済情勢などに伴う社会ニーズの変化や、多くの公共施設において建物や設備などが著しく老朽化・劣化してきている現状などを勘案すると、行政経営全般を見渡した総合的な視点に基づく「公共施設への評価の指針や手法」が当然必要となってくる。しかし、残念ながら、本市においては今のところ全庁的に確立された評価の指針等は存在しないため、こうした評価スキームの整備については喫緊の課題であると言える。

公共施設を巡るこうした諸課題は、全国的に見ても近年大きくクローズアップされている内容である。また、「公共施設の評価」については、国等の統一的な指針はなく、各自治体の特性や歴史的な背景等を考慮しながら、それぞれ策定し始めているというのが実状である。本市においても、「市川市らしさ」、「市川市の特徴」といったものを十分に加味した「公共施設の評価の指針」等を整備し、当該評価によって導き出された結果を基に、施設の長寿命化や統廃合といった、「最適化」を目指していく必要に迫られている。奇しくも、全国で公共施設の老朽化や維持保全等の不備に伴う事故が増加してきている今、本市においても公共施設マネジメントは最重要課題の一つとして位置づけ、早急に取り組みに着手しなければならないものと考えるところである。

## 審議事項① 「公共施設の評価」における着眼点に関する提言 イメージ図

### 評価の視点

◇公共施設を評価する際の基本的な考え方、取り組みの姿勢を以下の通り提案する。

市民感覚

行政の社会的責任

経営意識

社会情勢への対応

### 評価の方法

◇公共施設の評価の方法について、以下のとおり提案する。

#### 評価の対象

◇評価すべき対象を以下の通り分類する。

#### 公共施設の「ソフト面」

○各施設で提供されている公共サービス（事業）等を評価の対象とするもの。

#### 公共施設の「ハード面」

○各施設を資産として捉え、物理的な状況等を評価の対象とするもの。

#### 評価の項目

◇評価する際の項目を以下の通り提案する。

#### 《ソフト面の例》

公共性、独自性、合理性、有用性、経済性、有効性、必要性、  
公平性、効率性、適応性、将来性、期待度、緊急性、など

#### 《ハード面の例》

施設の歴史的価値、ランニングコスト、環境面、防災面、老朽度、地域  
的な配置状況、など

「評価の視点」を十分踏まえ、  
「評価の項目」を設定する。

### 評価の活用

◇評価結果に基づいた公共施設の今後の運営方法等について、以下のとおり提案する。

機能集約による施設の複合化

施設の民営化

統廃合による再配置

市民全体の負担の公平化

## II. 審議事項①「公共施設の評価」における着眼点に関する提言

現状と課題でも述べた通り、公共施設に関する「見直し」や「最適化」はまったなしの重要課題ではあるが、その最初のステップである「公共施設の評価」の構築に際しては、各自治体の特性や特徴を十分に踏まえた内容でなければならない。

これを踏まえて市川市の特徴を見てみると、本市は江戸川を隔てて東京都に隣接しており、交通の便にも恵まれていることから、高度経済成長とともに、近郊住宅都市（ベッドタウン）として発展してきた。一方で、市北部には下総台地の豊かな緑が広く残され、また、寺社仏閣などの歴史建造物なども市内に数多く点在しており、住環境・自然・歴史や文化等がバランスよく融和しているのが本市の特徴である。

また、市民生活に目を移してみると、NPO やサークルなどを通して「市民活動」が活発であり、子育て世代へのサポート支援や個人の積極的な生涯学習への取り組みなどの事例を見てみても、「こども」「教養」「自然」「産業」「未来」といった様々なエッセンスを「はぐくむ」街としての魅力も兼ね備えている。

当会議としては、上記のような本市の特徴を十分に踏まえ、これをベースとして評価の手法を構築するよう提案する。具体的な提言内容としては、左記イメージ図に示したとおり、「評価の視点」、「評価の方法」、「評価の活用」の3項目に大別し、施設の「最適化」に至るまでの一連のプロセスとして、体系的に提言したものである。

### 1. 「評価の視点」について

公共施設を評価するにあたって、その根底となる基本的な考え方や取組みの前提とも言うべき観点として、「評価の視点」を設定した。この「評価の視点」は、来年度以降、行政が施設を評価して見直しを完了させるまで一貫して持ち続けるべき根源的な要素として位置づけるものであり、以下の4点を提案するものである。

#### ◇市民感覚

第1番目の視点として、「市民感覚」を挙げた。これは、「利用者を含めた市民一般が、市政全体の優先順位を前提として考えた時、真に必要としている施設はどのようなものか」といった視点である。厳しい財政状況や人口問題など、本市を取り巻く困難な社会状況を総合的に考えると、これまでどおりあれもこれも維持し続けていくということは不可能であるため、今後は状況に合わせて存続させる施設をシ

ピアに選定していかなければならない。当会議としては、こうした選定を行うに際しては、市民アンケートやその他のツール等を多角度から駆使してしっかりと市民の考えをキャッチアップし、施設を利用する者、しない者の両者の意見を把握したうえで、評価に取り組むべきであると考えられるものである。

#### ◇経営意識

再三述べてきたように、今般の財政状況に鑑みて、公共施設の運営には「コスト意識」や「市民満足度の向上」といった、いわゆる民間的な経営意識に基づいた視点が大変重要である。「これまでも続けてきた施設だから」といった、極めて短絡的な前例踏襲主義を排除することも目的の一つである。市民に真に必要なサービスを最少の経費で提供しているか、財源や人材を効率的に配分しているかといった、経営者としての厳しい視点で評価すべきであると提言するものである。

#### ◇行政の社会的責任

「住民の福祉の増進」などに代表されるように、行政が最低限果たすべき役割を有する施設であるかどうか、といった視点も重要である。各種法令等に則って設立された施設であったり、民間事業者では代替できない施設等については、「行政の社会的責任」という視点から、丁寧に検証しなければならない。また、東日本大震災を教訓に、各公共施設における「防災機能」の有無についても、「行政が果たすべき重要な社会的責任」の一つとして、評価の要素に加えるべきである。

#### ◇社会情勢への対応

設置当初の目的と現状の間に乖離はないか、現代の市民ニーズに適應しているか、といった視点である。また、「過去の目的と実態の検証」だけではなく、少子高齢化などを踏まえ、「将来的な社会ニーズの想定」も必要である。今後公共施設の評価の仕組みを構築するに当たっては、こうした「時間軸」の概念が極めて重要であり、目の前の一時だけに固執した場当たりの評価は避けなければならない。

## 2. 「評価の方法」について

公共施設の評価にあたっては、評価基準をより明確にするため、「評価の対象」を各施設で提供されている公共サービス（事業）等を対象とする「ソフト面」と、各施設の建物や設備の物理的な状況等を対象とする「ハード面」とに分類することを提案する。また、審議事項①は、「今後、行政が評価の手法を構築するにあたり、どのような視点や着眼点が必要か」を検討することが主たるコンセプトではあった

が、テクニカルな内容である「評価の項目」などについても各委員から多くの提案があったため、以下のとおり対象ごとにまとめたものである。

#### 《評価の項目》

##### ソフト面の例

公共性、独自性、合理性、有用性、経済性、有効性、必要性、公平性、効率性、適応性、将来性、期待度、緊急性、など

##### ハード面の例

施設の歴史的価値、ランニングコスト、環境面、防災面、老朽度、地域的な配置状況、など

### 3. 「評価の活用」について

上記の方法等により得られた評価結果をどのように活用していくか、についても審議の中で多くの委員から提案がなされた。結果を受けて、事務の改善や効率化、市民サービスの更なる向上等に取り組むことはもちろんのこと、平成26年度以降、行政が新たに組み込んでいく「公共施設の一元的なマネジメント」を推進していくための参考として、評価の活用方法を以下のとおり例示する。

#### 《機能集約による施設の複合化》

評価の結果、対象やサービス内容が類似の施設、あるいは地理的にも近接している施設などについては、縦割りのそれぞれ運営するのではなく、総合的な施設へと機能を集約し、経営を合理化する方法を選択すべきである。

#### 《統廃合による施設の再配置》

評価の結果、老朽化等により、整備が必要となる施設については、将来の市民ニーズと行政の責任とを明確にする中で、周辺施設との統廃合を検討するなど、再配置を検討すべきである。

### 《施設の民営化》

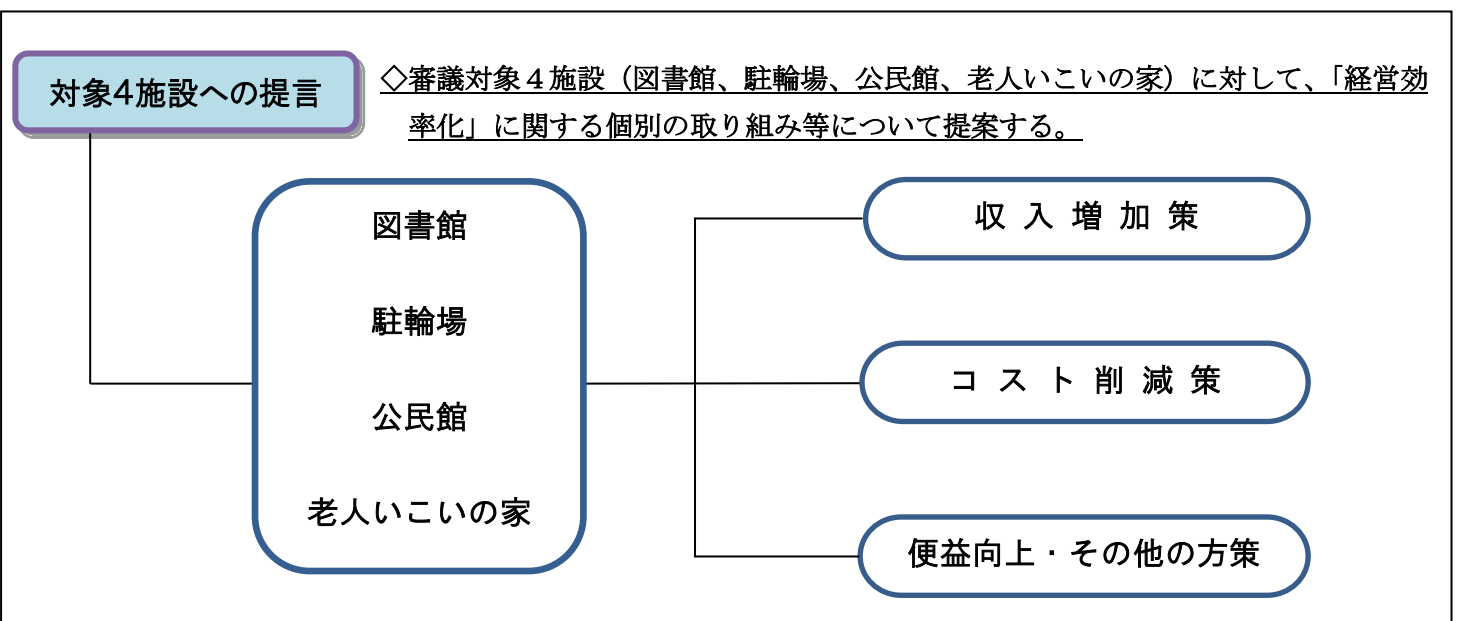
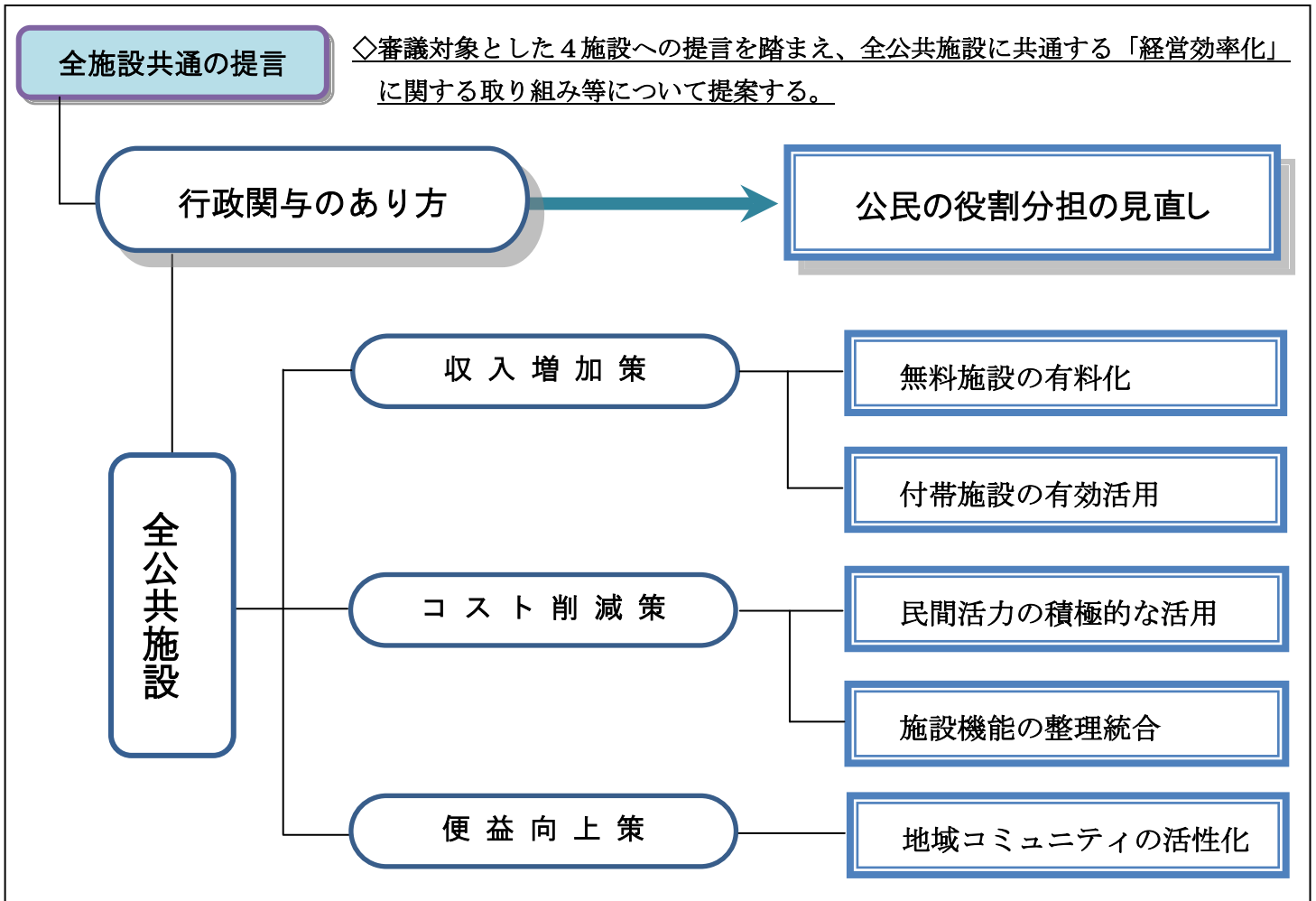
評価の結果、民間事業者等に委ねた方が、市民サービスの向上や経営の効率化などが望める施設については、市民にとって最も効果的な経営手法を検討し、固定観念にとらわれることなく積極的に「民営化手法」を導入すべきである。

### 《市民全体の負担の公平化》

利用者に対する有益性や必要の度合いなどを総合的に評価し、その評価結果に基づいて利用者（受益者）の負担割合を再度検証し、利用する人、利用しない人双方にとって公平な施設使用料となるよう、十分に検討すべきと考える。



審議事項② 公共施設の短期的な経営効率化に関する提言 イメージ図



### Ⅲ. 審議事項②公共施設の短期的な経営効率化に関する提言

審議事項②については、便宜上、図書館、駐輪場、公民館、老人いこいの家を集中的に審議し、各委員から多くの有益な意見が出された。また、これらの個別具体的な意見の中から、今回審議の対象とした全施設に適用可能な内容については、「全施設共通の提言」として取りまとめた。なお、提案された意見については、全施設共通の提言については「行政関与のあり方」、「収入増加策」、「コスト削減策」、「便益向上策」の4種類にそれぞれ大別し、体系的に掲載したものである。

#### 1. 全施設共通の提言

##### ◇行政関与のあり方

###### 《公民の役割分担の見直し》

具体的に4つの公共施設を例に挙げて審議をする中で、共通して重要性の高い課題とされたのが、「行政サービスの範囲」についてである。多くの公共施設が建設された時代と比較すると、財政状況や人口問題など、本市を取り巻く社会環境は大きく変わってきている。これらを勘案すると、「既存の行政サービスで、廃止すべきものはないか」、「時代に合わせて再構築すべき行政サービスはないか」といった視点が極めて重要となってくる。公共施設が担う「行政サービスの範囲」は、今後十分に検討していかなければならない課題の一つである。「長年行政が運営してきた施設だから今後も持続する」といった現状維持的な発想に固執するのではなく、環境の変化を十分に踏まえ、「やめるべきものはやめる」といった勇気ある決断を下し、行政が担うべきサービスの守備範囲についても、聖域なく大胆な発想を持って切り込んでいく必要があると提案するものである。

また、近年、「行政サービス」に関する公と民との役割分担について、「協働」の概念が大きく取り上げられている。本市においても多くのボランティア団体やNPO団体が成熟してきており、新しい行政サービスの担い手として幅広く活躍し始めている。

協働の取り組みについては、全国的に今後も広がりを見せるものと考えられることから、本市においても「行政サービスは行政のみが行う」といった固定観念にとらわれず、柔軟な発想を持って積極的に「協働」の仕組みを取り入れ、地域団体や企業などとより積極的に連携し、取り組んでいくべきものとする。

## ◇収入増加策

### 《無料施設の有料化と使用料の適正化》

今回、「公共施設の短期的な経営効率化」を検討するにあたり、最も大きな問題点の一つとして審議のウェイトを多く占めたのが、「使用料が無料の公共施設」についてである。公共施設は、利用者のみが利益を受けるという行政サービスであることから、当会議としては、基本的には全ての施設において、利益を受ける利用者が維持管理費等の経費の一部または全部を負担するという「受益者負担」の原則に則り、使用料を徴収すべきであると強く提言する。

また前回の「使用料・手数料の見直し」の答申において、当会議は新たな使用料の算出基準を示した上で、維持管理経費より大幅に低額の負担になっている場合には、大幅な使用料の増額を求めたところであり、この実行については強く求めるところである。

なお、収入や年齢等で考慮すべきものがある場合には、それぞれの状況等に応じて減免などの負担を軽減する措置を講ずるべきである。

### 《付帯施設の有効活用》

また、民間的な経営感覚に立って、公共施設に付随する様々な要素を駆使して、最大限収入を確保する努力を怠るべきである。例えば、付属の駐車場は時間極めで有料化したり、積極的に自動販売機の設置を増やしたり、ネーミングライツを利用したり、市内企業の広告ボードを様々な施設に設置する、などである。これらの実現に向けては、積極的に歳入増を図ろうとするなどの職員の意識改革が重要となるため、経営視点での職員研修なども行うべきである。

## ◇コスト削減策

### 《民間活力の積極的な活用》

本市では、これまでも積極的に行政改革を進め、コストの削減に努めてきた。しかし、今回、公共施設の経営効率化を検討するにあたり、事務局から提示された施設の収支バランスに関する資料を見てみると、ほとんどの施設において歳出が歳入を大幅に上回っていることが容易に見てとれる。上記に収入増加策を提案したが、これに先駆けて、コストの削減は取り組まなければならない。

例えば、コストの削減、利用者満足度の向上という観点から言えば、業務委託な

どを通して、民間活力の利用を積極的に推進していくべきである。また、行政が直接運営する場合でも、研修等を通じて職員のスキルをアップすることにより、一人ひとりがより多くの業務をこなしてマンパワーの削減を図り、そこから得られた人員は新しい施策や重要性の高い業務などに振り分けるなどして、更なる効率化を図ることが重要である。

#### 《施設機能の整理統合》

視察を通して各委員から挙げられた意見の中で多かったのが、「行政サービスの重複」についてである。「貸室業務」等がこの典型であり、これについては、施設の所管部署任せにするのではなく、組織横断的な部署が、公共施設全般を見渡した大局的な見地に立って、類似の行政サービスが地域的に近接していないかといった視点で検証する必要がある、これに該当するものは「施設機能の複合化」等により、早急に「サービスの重複」解消に向けて取り組みを開始すべきである。重複の解消（コストの削減）によって捻出される財源については、老朽化の進む公共施設全体の維持管理費用等に充当すべきものとする。

### ◇便益向上策

#### 《地域コミュニティの活性化》

「収入増加」や「コスト削減」といった「経営」に関する観点の他に、民間事業者では代替し難く、あくまでも行政が住民に提供しなければならないサービスとして「市民便益（ベネフィット）」がある。消防や警察による「治安」などがこれに当たるが、地方自治体が提供すべきベネフィットの一つに「地域コミュニティの活性化」がある。地域コミュニティの創設の中心は言うまでもなく市民であるが、その周辺環境の整備や側面支援的なベネフィットについては行政が供与すべきものであると考える。

現代日本を象徴する問題として、「世代間交流、地域間交流の喪失」が、近年よく叫ばれる。文化の継承、災害時の助け合い等の観点から、見過ごすことのできない重要な問題である。この問題に対する行政からのアプローチとしては、種々の政策展開が考えられるが、当会議としては、「各施設の機能の集約化」による地域コミュニティの活性化を強く提案したい。一つの施設に多種多様な市民が集うことで、普段それぞれのコミュニティだけでは企画し得ないようなイベントを行ったり、世代間の立場や考え方をお互いに理解し、より豊かな市民生活を送るための一つのきっかけの場となり得るものとする。今後、行政が公共施設の見直しを図るにあたっては、こうした「地域コミュニティの基幹的な場所の創造」も念頭に進めていくべきである。

## 2. 対象4施設への提言

### 図書館

#### 「図書館機能の縮小と貸出ネットワークの充実化」

公共施設は、各種法令や条例等を根拠として設置されているものであり、図書館についても、図書館法を根拠とする各条例に基づいて市内各所に設置されている。

この図書館法では、図書館は社会教育法に基づき、その発展によって、国民の教育と文化の発展に寄与するものとしており、図書の貸出など、図書館に係る様々な業務の運営を通して、市民の生涯学習の側面的な支援を行っている。本市においても、6つの図書館（図書室）や、根拠法令は異なるものの一部の公民館や学校にも図書室を設置し、図書の貸出等のサービスを提供しているというのが現状である。

これまで、本市の図書館は、市民が望む図書等を貸し出すことを主なサービスに据えて、市民満足度の向上を図ってきており、そのことについては一定の成果が出ているものと考えているが、本市の図書館行政は単純に無料の図書サービスの拡大を図っているだけのように当会議としては思われた。

現代においては、ICTの発達により、本の検索が容易になったことや、電子書籍の発展、またコンビニエンスストアや24時間スーパー等をはじめとする生活環境の変化、ニーズの多様化等が加速度的に拡大しているため、これまでのやり方を単に進めていくのではなく、大胆な見直しが必要であるところである。

当会議としては、電子書籍等が急速に発達していること、また国立国会図書館において電子書籍化を進めていること、更に、パソコンやスマートフォンの普及により、ニーズの高い書籍等の検索機能が充実してきていることなどから、既存の6館体制を大幅に集約するものとし、配置については、地域性を考慮して「中央図書館」と「行徳図書館」の2館体制にすることを検討すべきである。

また、これと同時に「貸出ネットワーク」の更なる充実も求めたい。図書館の集約は、貸出や返却場所の縮小にも繋がり、市民にとっては利便性が大きく後退してしまうため、これをカバーする仕組み作りが重要である。例えば各地域の拠点的な公共施設、公民館や地域ふれあい館、老人いこいの家、あるいは地域にねざした民間施設（コンビニエンスストア等）との業務提携等により、図書の受け取りや返却が各施設のカウンターで済ますことができるネットワークサービスが構築されれば、飛躍的に図書サービスが拡大するものと期待され、「経費の削減」と「サービス水準の維持」についても、両立されると考えるところである。

## ◇収入増加策

公立図書館については、図書館法第17条により、「公立図書館は、入館料その他図書館資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならない。」とされており、そもそも使用料等の対価を徴収できない仕組みとなっている。

これを受けて、当会議としては、「利用者からなにがしかの料金を徴収する」といった直接的な方法ではなく、併設する付帯施設等によって収益をあげることや、駐車場の有償化、自動販売機のさらなる設置など、図書館法の範囲外の部分において収入を増加させる創意工夫に努めるべきであると提言するものである。

## ◇コスト削減策

本市では、継続的に行われてきた行財政改革等により、職員数についてはこれまでも適宜削減、見直し等を行ってきた。しかし、ICTの普及や進化により、これまで人の手で行われてきたレファレンスや書籍の管理等については、大幅な削減が期待できる部分である。今後も、高いコスト意識を持って、多様な雇用形態の活用や省力化など、より効率的な経営に臨むべきである。

また、新刊図書に充てる毎年度の予算については、文化・教養等に寄与する本を優先することとし、娯楽や趣味等の色合いが強い図書については、「市が購入し、行政サービスとして提供する必要があるのか」といった視点から、今後、重複して購入する本の冊数を減らすなど、十分に検討すべき事案である。

## ◇便益向上、その他の方策について

当会議で中央図書館と行徳図書館を視察した際に感じられたのは、時代のニーズや本市の厳しい財政状況を踏まえた大胆な見直し意識が乏しいということである。この点について、佐賀県武雄市では、武雄市図書館をカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社に指定管理者として指定し、蔦屋書店やスターバックスを組み込んだ新しいスタイルの図書館の運営を行うなど、革新的な取組みを展開している。こうした事例を踏まえて本市の実状を見てみると、時代のニーズを捉えた、あるいは時代のニーズのさきがけとなるような取組みが見えなかったことが残念でならない。

例えば、図書館法によって「無料の図書サービス」を行政が担保していることは理解できるが、「有料の知的情報提供サービス」自体を禁じているわけでは決してない。図書館法に基づく無償の図書サービスとは別の、全く新しい観点から創設す

る「魅力ある知的情報提供施設」を展開して有償化するなど、全国にさきがけたユニークな取り組みがなされることは、都市間競争下における本市の位置づけを飛躍的に押し上げる極めて有益な起爆剤となり得るだろう。

いずれにしても、柔軟な発想により、これまで「あり得ない」と一笑に付されてきたような行政の限界について、勇気を持って突き進み、むしろ市川市が全国をリードし、牽引していくような自治体になってほしいと願うところである。

## 駐輪場

### 「無料駐輪場の有料化と収支バランスの均衡」

本市では、高度成長を経て人口が急増するとともに、駅周辺に集中する大量の放置自転車が安全面や防災面から大きな社会問題として顕在化するようになったことを受け、駐輪場を整備するとともに、街頭指導など、公と民とが連携してハード面とソフト面の両面にわたって様々な放置自転車対策に取り組んできた。近年では、まだまだ課題はあるものの、少なくとも日中の劣悪な放置状態は大幅に改善され、市民の安全に大きく寄与している。

放置自転車対策は一定の成果を上げているものの、「駐輪場」そのものの運用方法には依然として課題や改善点が残っており、当会議としては、「使用料の負担の公平性」に大きな問題点があるとして着目したところである。

現在、市川市の駐輪場は、条例等に基づき、施設の優劣や立地利便の差（駅主要改札口までの距離等）によって使用料を定めるなど、いくつかのルールによって運用されているが、市川第1駐輪場のように、使用料が無料の駐輪場も少なからずある。先述したとおり、「安全面や防災面への対応」から出発した駐輪場施策ではあるが、一定の効果を上げた現在は、防災対策等の「公共の福祉」的な側面に加え、「駅利用者への便益供与」といった性質が強くなってきているというのが実態である。当会議としては、こういった「特定の者に提供する施設や行政サービス」については、「受益者負担の原則」に則り、受益者（利用者）が必ず相応の対価を負担すべきであると提言する。従って、市内に設置されている駐輪場については、距離等による金額の差異は残しつつも、全ての施設において「有料化」すべきであり、後述する「コスト削減策」と合わせることで、「収支バランスの均衡」に極力近づけるべきである。なお、現在無料となっている主要な駅の駐輪場12箇所について、全てを有料とした場合の収益試算を次ページの通り示したので、参考にされたい。

## 有料にした場合の試算

○市内主要駅沿線の無料駐輪場 12 箇所を全て有料とした場合

$$10,140 \text{ 台 (12 箇所の収容台数合計)} \times 1,080 \text{ 円 (定期利用最低月額 H26. 4. 1 現在)} \\ \times 12 \text{ ヶ月} = \underline{\underline{131,414,400 \text{ 円の増収}}}$$

※12 箇所全ての駐輪場が満車となった場合の試算。

## ◇収入増加策

前回の諮問事項、「使用料・手数料の見直し」の際にもポイントとなったところであるが、地方自治法の逐条解説によれば、「施設の使用料は、維持管理費等の必要経費を上限とする」とされており、本市の公共施設使用料算出における一つのルールとなっている。また、政策的判断などから、各施設の算出基準に「受益者負担率」という概念が導入されており、駐輪場においては、この負担率は 100%となっている（脚注 1 参考）。

しかし、審議に先立って事務局から提示された資料によれば、他の施設同様、駐輪場においても使用料で必要経費を賄うことができおらず、収支が均衡していない状態となっている。それは、「現行の料金設定が低額過ぎる」、あるいは「駅からさほど離れていない駐輪場が無料である」ことなどが大きな問題点であり、これらについては早急に合理性を検証し、必要に応じて是正すべしとの意見が大半を占めた。

当会議としては、駐輪場の収入増加策に関しては、「特別な工夫によって収入を増やす」ということではなく、「受益者負担の原則に照らして現行の体制をもう一度丁寧に見直す」というごく当たり前の検討を行うことが、結局は収入増加への一番の近道となるものと考えるところである。

---

脚注 1：駐輪場の利用に 1 回 100 円の経費がかかっているとすれば、利用者が 1 回利用する際の使用料は 100 円となる、という計算。



## ◇コスト削減策

上記「収入増加策」と合わせて重要となるのが、駐輪場に関するコストの削減である。現在、民間に委託している「駐輪街頭指導」、「放置自転車の撤去」、「撤去車の保管」の3業務は、それぞれが別の業者に委託している。指導・撤去・保管の3業務は、3者が一体となって「駐輪対策」の根幹をなしているものであり、各業務を個別に委託することは非効率であると思われる。今後は、3業務を同一事業者等に委託することで、よりコストを削減し、より業務を効果的・効率的なものへと向上させるべきであると提言する。

## ◇便益向上、その他の方策について

「駐輪対策」は、駅前に集中する違法駐輪自転車に対し、「防災面や安全面」といった便益（ベネフィット）確保の観点からスタートさせた施策であるが、冒頭にも述べたとおり、昼間の違法状態は劇的に改善されている。今後は、夜間の違法駐輪対策をどう進めていくかが課題であるが、「コスト削減」の項でも触れた、「民間業者とのタイアップ」が一つのポイントとなるものと考えられる。確かに、行政が運営することで、事業存続の安定性は確保されるどころだが、公にはない「民間の活力や知恵」といったものを合わせて活用することにより、行政が弱い部分については民間にカバーしてもらいながら、「昼間・夜間を問わない包括的な駐輪対策」の実現を図るべきである。

## 公民館

### 「受益者負担の徹底と施設機能の複合化」 ※「収入増加策」を含む

我が国では、教育基本法第3条で生涯学習の理念が謳われ、同法第12条で国や地方公共団体は、公民館の設置等により、社会教育の振興に努めるものと規定されている。これを受け、社会教育法の中で「公民館の目的」や「公民館で行われる事業」が規定されているが、この「事業」の中に「主催（定期）講座」の実施や「施設提供」に関する内容等が謳われており、本市においても、こうした法令を基に、年間数百回の主催講座の開催や年間数万件にもものぼる施設の提供が行われ、市民の豊かな生活や生涯学習の振興に大きく貢献している。

当会議では、この「施設提供」事業について、特定の団体等の趣味・娯楽などに対して単に活動の場を提供する、一種の「貸室サービス事業」と化している印象を強く受けるといった意見が多く出されたものであり、更に、これが半ば常態化して

いるのではないかと、といったことが大きな問題点であるとして多くの意見が出されたものである。

「貸室サービス事業」の色合いが強いことで問題となることは、「受益者負担の徹底」と「類似の行政サービスとの重複」である。再三提言してきているように、「特定の者へのサービス」には必ず「受益者負担の原則」を適用させなければならない。前回の答申でも触れたとおり、少なくとも公民館の維持管理コストにできるだけ近づけるよう、使用料の値上げは早急に行うことと強く提案する。また、「行政サービスの重複」については、「全施設共通の提言」でも述べたとおり、公共施設全体の問題としてとらえ、各施設任せにするのではなく市川市全体としての方針を定めて対応すべきものと考えるところである。

なお、公民館使用料を適正化し、当会議が提言したとおり現在の水準の4倍に設定した場合の収益試算を以下の通り示したので、参考にしてほしい。

#### 使用料を適正に近づけた場合の試算

○前回の答申内容を実践（使用料を現在の4倍に設定）した場合

公民館（市内16館）の業務収益・・・39,429,550円

※平成23年度施設別行政コスト計算書より

39,429,550円 × 4 = 157,718,200円 ⇒ 118,288,650円の増収

#### ◇コスト削減策、便益向上策

「施設機能の複合化」については、「行政サービス」が重複しているもの同士を統合するだけでなく、「子ども関係の施設と高齢者関係の施設とを融合する」といったように、一見すると関係性が低いと思われる施設同士の融合についても柔軟な発想に基づいて検討していくことを提案する。一つの建物の中に機能ごとに集約化・複合化することで、施設管理の一体化が進み、コストの削減が図られることはもちろんのこと、世代間や地域間の交流といった相乗効果も生み出されるものと期待される。

「施設の複合化」を進めるにあたっては、地域に根ざした基幹的な施設が母体となることが望ましい。これを踏まえると、市内に16施設を有し、市域に広く分布

している公民館は、複合化の基幹施設としてはまさにうってつけの施設であると考えられる。現在、市川駅南公民館のように、既に複合化されている公民館も多数あり、地域のこどもからお年寄りまで多くの市民が来館し、それぞれの目的に合わせて利用しているところだが、実態としては縦割りの運営が色濃く残っており、「同居」はしているものの、本質的な意味での「交流」はまだまだ発展途上の段階である。当会議としては、公民館などを中心に「複合化」の流れを更に促進させ、コスト削減のみならず、いつでも、だれでも利用できるような新しい施設形態を創設し、「地域コミュニティの活性化」にも繋げられるような施策を展開していくべきであると提言する。

## 老人いこいの家

### 「事業手法の再検証と施設の有料化」 ※「収入増加策、コスト削減策」を含む

本市では、昭和 40 年代、老人福祉法や旧厚生省(現厚生労働省)社会局長による通知を根拠とし、老人福祉センターや老人いこいの家の設置管理条例が制定され、高齢者福祉政策の一環として、市内各所に当該施設が開設されていった。老人いこいの家等では、高齢者の健康の増進、教養の向上、レクリエーション施設としての場の提供といった事業が展開され、現在では 1 施設あたり年間のべ 1 万人以上の利用者があり、市内在住の高齢者の「仲間づくり・いきがづくり」の支援に大きく寄与している。

老人福祉センターや老人いこいの家は、昭和 40 年代から平成にかけて、計 13 箇所開設されてきたが、その建物規模や設備内容等は様々であり、提供されているサービスにも若干の違いがあるが、全てに共通しているサービスとして、「健康の増進プログラムの提供」や「レクリエーション施設としての場の提供」がある。

老人いこいの家はこれまで、設置当初の運用方法を変えずに取り組みされてきたものであるが、大きく変化した社会状況等に鑑みて、時代に合わせた運用方法へと移行させていくべきであり、今後は、高齢者といえども一人の「受益者」として、使用料の徴収を検討していくべきである。また、他の公共施設とサービス内容が重複しているものについては、「機能の複合化」など、創意工夫によって一層の「経営の効率化」を図るべきである。

また、「場の提供」と並ぶサービスの一つとして、一部の施設には「入浴施設」がある。入浴施設の維持・運営には多額のコストがかかるものであり、人口の減少や構成比の変化、財政難などの大きな課題を背負う本市においては過剰なサービス

である、との意見が大半を占めたことから、「本サービスについては廃止すべき」と提案するものである。諸事情により、廃止に至るまでに時間のかかる施設については、経過措置として原則有料化し、収入や生活環境等において考慮すべきものがある場合には、それぞれの状況に応じ、負担軽減の措置を講ずるべきである。

将来の人口構成を踏まえると、「高齢者施策の充実」は論を待たないものである。しかし、公民館同様、類似の行政サービスや類似の公共施設を上手く組み合わせることで、こういった行政課題に対応すべきであると提言する。それぞれの施設がそれぞれに事業を展開するのではなく、各分野における行政課題、住民ニーズを適確にキャッチアップして横に並べ、重複しているものなどについては「統合」や「複合化」によって解消し、世代間交流などのコミュニティの活性化といった相乗効果も含めて検討していくべきである。

#### ◇便益向上、その他の方策について

本市が公表する将来人口推計によれば、平成 22 年の 65 歳以上の市川市の人口は 86,320 人であったのに対し、平成 37 年には 119,357 人に増加するものと見込まれており、高齢者支援施策はまさに待ったなしの問題である。財政的には厳しい本市であるが、将来人口推計に基づき、今の段階から持続可能な高齢者支援施策の仕組みを整え、健康寿命の延伸に向けて取り組みを開始すべきである。老人いこいの家については、高齢者の「仲間づくり・いきがづくり」に一定の効果をあげており、今後も同様の行政サービスに対してはニーズが増えていくものと予想される。

当会議としては、老人いこいの家について、「施設」そのものについては、コスト面などをこれまで以上にシビアな目で検証していく必要があるものと判断しており、別の施設との「複合化」等による「仲間づくり・いきがづくり」施策の充実の検討を提言する。

公民館の項でも述べたところだが、各世代を対象とする個別施設の機能を「複合化」すれば、規模拡大によるコストメリットを生み出すだけでなく、「地域間交流」や「世代間交流」の活性化も促すことが期待される。高齢者の豊かな知恵や知識を若い世代に継承していくことは、市民一人ひとりだけではなく、市川市全体にとっても大きな財産である。

「コストダウンを図りながら高齢者への便益（ベネフィット）向上を模索する」というのは極めて困難な取り組みではあるが、両立させ、都市間競争下における本市のセールスポイントの一つとして展開していくことを望むものである。

## IV. 実効性を高めるための方策について

今回、「公共施設の評価に関する着眼点」と「公共施設の短期的な経営効率化」について審議し、答申としてそれぞれに提言をしたところだが、個別的な提言以外に、両者の実効性をより高めるための「共通の方策」として、以下のとおり別途提案するものである。

### 1. 各施設の現状把握とデータの可視化・共有化・一元化

公共施設の評価や経営手法の見直しは、スピード感を持って早急に取り組まなければならない重要課題の一つではあるものの、本市の公共施設については、これまで、各所管部署の判断で維持管理等が行われてきたため、修繕の履歴や今後の改修工事等の見通しなどについて、専門の部署による一元的な情報の管理がされてこなかった。老朽化の進む本市の公共施設においては、今後ますます維持管理経費等が増大することが容易に予想されるため、これまでのようなやり方は業務的にも財政的にも非常に非効率である。

また、公共施設の管理運営等に関する実態については、行政の説明責任として、市民に分かりやすく、正確な情報を提供しなければならない。更に、今後公共施設の最適化について本格的な取り組みを進めていく際に、公共施設に関する様々な情報が正確に伝わらない状態では、本来、議論の主体となるべき市民が声をあげられない状態となってしまう。

以上のことを総合的に踏まえ、当会議としては、公共施設の目的（開設日や設置の背景等）、現状（利用者数、稼働状況等）、将来性（施設の方向性等）、財政状況（建設費、維持管理経費、修繕履歴、大規模修繕や建て替え見込み等）といった網羅的な内容について、まずは公共の財産を預かる専担部署を設置して一元的に把握することが重要であり、その上で、把握したデータが可視化できるよう、統一的な「公共施設白書」を作成して市民に公表し、白書に対する市民からの意見についても随時受け付ける体制を整えるべきであると提言するものである。

### 2. 明確な目標と期限の設定

公共施設に関する施策のみならず、行政全般に言えることだが、「明確な目標の設定」と「目標達成までの期限の設定」がなければ、本質的な意味での実効性は確保されない。半年にわたる審議の中で、この「目標と期限の設定」について、多くの意見が出されたところである。厳しい表現になるが、事業に「目標」がなければ、時間の経過とともに仕事がマンネリ化し、やがて事業の意図や目的すら後ろに追い

やられて、「小手先のルーチンワーク」と化してしまう。また、事業に「期限」がなければ、「達成」することへの焦燥感や必死さといったものが損なわれ、メリハリやけじめのない仕事となってしまふ恐れもある。「目標」も「期限」もない事業においては、利用者数や利用率が極めて低いものであっても、「少数でも利用者がいる以上続けなければならない」といった、非常に安易で短絡的な発想による、「非効率な事業の継続」に陥る可能性さえ秘めている。

「公共施設の評価の視点」の項でも述べたところだが、行政が担うサービスには、「社会的責任」という重要な側面を有しているものもあり、一概に「民間的な経営意識」のみで全ての事業を判断することは難しいところではあるが、できる限り数値等を用いた明確な「目標」を設定し、達成までの「期限」も設けて事業に臨むべきであり、これらについては定期的に進捗状況を検証すべきである。そして、「目標」や「期限」を達成できないものについては、目標を達成できる主体へのシフト、例えば民間事業者への「業務委託」であったり、その先の「民営化」といったものも含めて、聖域なく様々な手法を検討する必要がある。

### 3. 設置目的と運用方法の再検証

事務局から提示された資料によれば、本市で開設された公共施設で最も古いものが昭和 23 年であることや、開設当初から運用の実態をほとんど変えていない施設などもあることから、これらの現状を踏まえてもう一度「設置目的」と「現代の社会ニーズ」とを比較し、目的と実態とに乖離がないか、運営主体・運営方法は適切か、といったことについて検証をする必要がある。

設置目的の種類によっては、「目的が達成された」と明確に判断すること自体難しい施設もあるとは思いますが、だからと言って施設そのものの妥当性や運用方法を検証せず、単純な前例踏襲主義で事業を継続してよいことにはならない。本市を取り巻く社会経済情勢が厳しさを増す中においては、これまで以上に強い危機感を持って各施設の「設置目的」を検証し、「既に一定の成果をあげているのではないか」、「民間市場に成熟が見られ、事業主体そのものを変えられるのではないか」といった幅広い観点から、より効率的・効果的な運営方法などへのシフトを検討していくべきである。なお、こうしたモニタリング作業に際しては、行政内部の職員のみで行っては意味がない。市民、民間事業者、学識経験者といった、様々なジャンルの人間たちで検証することが何より重要である。

### 4. 市職員の意識改革と組織間の連携強化

今回、机上での審議だけにとどまらず、実際にいくつかの公共施設を視察して回ったことは、現場の実態を垣間見ることができたという意味で、非常に参考と

なったし大変有意義であった。実際、この視察を通して、多くのアイデアや意見が提案されたところである。

視察を通して印象的だったのは、いわゆる複合化された施設を見学した際、部屋（施設）ごとに説明者が変わったことである。もちろん、物理的に離れている全く別の施設を同一の人間が全て説明するという事は難しいと思われるが、複合化している施設であっても、管轄する部屋（施設）ごとに説明する職員が入れ替わることには強い違和感を覚えた。

これが「縦割り」である。もちろん本市職員、あるいは全国の公務員にこう言い放てば、実に様々な角度から反論が返ってくることだろう。法令上の要件、各施設のこれまでの背景、職員配置の問題……。だが、それは我々市政戦略会議委員、あるいは市民にとって、いちいち反論を受けずとも十分承知の内容なのである。市民は、行政に対して、たとえ困難が眼前に広がっているとしても、それを「さあ、どうやって乗り越えていこうか」というガッツ溢れる情熱を持って考え、悩み、そして実現して欲しいと望んでいるのである。

時に行政は、人の命や財産をあずかる義務がある。だから「ミスをしないための努力」を否定するものではない。しかし、「ミスをしないための努力」だけにしがみついて欲しくない、というのもまた市民の本音であろう。職員一人ひとりが厳しい財政状況を理解し、それぞれの立場において「失敗を恐れずもう一歩前へ」という気概を持って業務に臨んで欲しいと願うところである。これについては、こうした各職員の「勇気ある努力」をバックアップしたり、あるいはインセンティブを設けるなどのスキーム作りが重要であることも付け加えたい。

また、組織として、職員研修の制度をこれまで以上に充実させるべきと提案したい。一例としては、「自分の課だけではなく、他の課ではどのようなことが行われているか」といったような、いわゆる「縄張り意識」を根底から破壊するような研修内容が望ましい。これによって職員の視野が広がれば、先に述べたような「複合化と言いつつ中身は別居」といった非効率な実態に職員自らが違和感を覚えだすことだろう。3,000人の職員にこうした意識が芽生えれば、「各部の業務範囲」といった、市民から見ればおよそ意味のないボーダーラインを軽々と越えて事務を処理していけるような、非常に合理的で効率的な組織体へと生まれ変わっていくこともできるだろう。当会議としては、本市がこうした新しい組織体への生まれ変わりを実現させ、「組織間の連携」といった言葉自体が、むしろ時代遅れの後進的な発想に感じられる時が来ることを切に望むものである。

## V. 附帯意見について

5 回にわたる審議及び視察を通して、各委員それぞれの立場から数多くの有益な意見が提案された。平成 26 年度以降、公共施設を巡る様々な施策が展開されていくものと思われるが、市内全ての公共施設を「適正化」するには、相当の年月を要するであろうことは想像に難くない。こうしたことを踏まえ、答申としては取り上げられなかったものの、当会議として重要性が高いと思われるものを附帯意見として次のように取りまとめたので、今後、本重要施策を展開するにあたっての参考にしてもらいたい。

### ○市民全体の負担の公平化について

ある施設だけに特化した議論にならないよう、行政サービス全体での議論も必要である。

### ○人材の適正配置について

重要案件には 5 年、10 年以上をかけて取り組む姿勢と覚悟が必要である。短期的なサイクルの人事は施策をルーチンワーク化する恐れがあるため、公共施設マネジメントのような重要案件には、しっかりと腰をすえた組織の強化が必須である。

### ○将来を見すえた試算について

将来、人口構成の変化に伴い、収益構造も当然変化するものと思われるが、これに対して本市の財政力が耐え得るかどうかという今後の議論のためにも、本答申が提案した「経営効率化」を実践することで、どれだけ赤字を減らせるか、といった試算を行うべきである。

### ○「公共施設の最適化」に至るまでの当面の方策について

本市の公共施設については、今後、各データを一元的に把握・管理し、必要に応じて統廃合や複合化といった具体策を実施していくことになると思われるが、これについては相当の年月を要するため、当面は「適確な保全維持計画により施設の長寿命化を図る」ことも方策としては必要である。

### ○市民への情報の周知徹底について

施設を利用する者、しない者全ての市民が納得できる丁寧な説明が必要である。また、改革後のイメージが持てるシミュレーションを実施し、市民だけではなく本市職員も含めて方向性を共有することが重要である。



### ○維持管理経費や更新費用等の将来推計の必要性について

市川市では財務書類を総務省基準モデルで作成し、固定資産台帳も作成、取得価額、減価償却額、老朽化比率も把握しているのだから、会計的には公共施設の将来的な資産更新必要額等について、年度別の概算で積み上げられると思う。財務書類（施設別計算含む）を作成・公表するだけでなく、資産債務改革に取り組むためにももっと活用して欲しい。維持管理・更新費用や将来必要となる経費を試算して、公共施設全般のマネジメント計画に資することが必要だと思う。大規模改修・建替を仮設定した上で建替時に施設の集約や複合施設化等について縦割りの組織で予算をとりあうだけでなく、関連組織間で色々と議論して実効性のある方向性を出すことが必要である。

### ○これからの公共施設について

従来は土地を贅沢に使用したり、デザイン性・独自性を重視した公共施設が多かったが、今後建築するものについては（市庁舎も含めて）建設費や維持費を十分考慮したものにしていただきたい。（例：東京都庁舎はデザイン的にユニークであるものの、保守しにくく、清掃費や光熱費、その他維持に要する経費等も他の建築物と比べて割高であると言われている。）